Nikon

Jp

ニコンデジタルカメラ

D100



使用説明書

D100の使用説明書について

ニコンデジタルカメラD100には次の使用説明書が付属しています。製品をご使用になる前に、これらの使用説明書をよくお読みいただき、内容をご理解のうえ、正しくお使いください。

クイックスタートガイド

クイックスタートガイドは、D100での撮影・再生から、撮影した画像をパソコンに転送するまでの基本操作をステップごとに簡単に紹介しています。

使用説明書

使用説明書（本書）は、D100の操作方法と撮影した画像の楽しみ方について基本操作から応用操作へと順を追って詳しく説明しています。

Nikon View 5 リファレンスマニュアル（CD-ROM）

Nikon View 5リファレンスマニュアルは、D100に付属しているCD-ROM内に収録されています。Nikon View 5の内容については、Nikon View 5リファレンスマニュアルおよびこの使用説明書の「接続」の章をご覧ください。

使用説明書の構成

使用説明書の構成は以下の通りです。操作内容に合わせて次のステップにお進みください。

安全上のご注意

ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しく使用していただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

表示と意味は、次のようになっています。

⚠**危険**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。
⚠**警告**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠**注意**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例



△ 記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⃠ 記号は、禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



● 記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合はプラグをコンセントから抜く）が描かれています。

⚠ **警告**（カメラについて）



分解禁止

分解したり修理・改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。



接触禁止



すぐに修理依頼を

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをする原因となります。

電池、電源を抜いて、販売店または当社サービス部門に修理を依頼してください。

電池を取る
すぐに修理依頼を

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電池を取り出すこと

そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。
電池を取り出す際、やけどに十分注意してください。
電池を抜いて、販売店または当社サービス部門に修理を依頼してください。

水かけ禁止

水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと

発火したり感電の原因となります。

使用禁止

引火・爆発のおそれのある場所では使用しないこと

プロパンガス、ガソリンなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因となります。

使用禁止

レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと

失明や視力障害の原因となります

発光禁止

車の運転者等にむけてスピードライトを発光しないこと

事故の原因となります。

発光禁止

スピードライトを人の目に近づけて発光しないこと

視力障害の原因となります。
特に乳幼児を撮影するときは 1m 以上離れてください。

保管注意

幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに置くこと

幼児の飲み込みの原因となります。
万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

警告

ストラップが首に巻き付かないようにすること
特に幼児・児童の首にストラップをかけないこと

首に巻き付いて窒息の原因となります。

使用禁止

AC アダプタ使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと

感電の原因となります。
雷が鳴り止むまで機器から離れてください。

警告

指定の電池または専用 AC アダプタを使用すること

指定以外のものを使用すると、火災・感電の原因となります。

⚠ 注意（カメラについて）

感電注意

ぬれた手でさわらないこと

感電の原因になることがあります。

保管注意

製品は幼児の手の届かないところに置くこと

ケガの原因になることがあります。

保管注意

使用しないときは、電源スイッチをOFFにするか、太陽光のあたらない所に保管すること

太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。

移動注意

三脚にカメラを取り付けたまま移動しないこと

転倒したりぶつけたりして、ケガの原因となることがあります。

使用注意

飛行機内で使うときは、航空会社の指示に従うこと

本機器が出す電磁波などにより、飛行機の計器に影響を与えるおそれがあります。病院で使う際も、病院の指示に従ってください。

禁止

長期間使用しないときは電源（電池や AC アダプタ）を外すこと

電池の液漏れにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因となることがあります。

プラグを抜く

AC アダプタで使用されている場合には、AC アダプタを取り外し、その後電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

禁止

本機器や AC アダプタは布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと

熱がこもりケースが変形し、火災の原因となることがあります。

放置禁止

窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないこと

ケースや内部の部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

⚠ 危険（専用リチウムイオン充電池について）

禁止

電池を火に入れたり、加熱しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

分解禁止

電池をショート、分解しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

危険

専用の充電器を使用すること

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

危険

ネックレス、ヘアピンなどの金属製のものと一緒に持ち運んだり、保管しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

使用禁止

ニコン D100 専用の充電式電池です。この機器以外には使用しないこと

液もれ、発熱の原因となります。

⚠ 警告（専用リチウムイオン充電池について）

保管注意

電池は幼児の手の届かない所に置くこと

幼児の飲み込みの原因となります。
万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

水かけ禁止

水につけたり、ぬらさないこと

液もれ、発熱の原因となります。

警告

変色・変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、使用しないこと

液もれ、発熱の原因となります。

警告

充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合には、充電をやめること

液もれ、発熱の原因となります。

警告

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁すること

他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。
お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄してください。

カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意

カメラの取り扱い上のご注意

●強いショックを与えないでください

カメラおよびレンズを落としたり、ぶつけたりしないように注意してください。強い衝撃や振動を加えますと、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

●水にぬらさないでください

カメラは水にぬらさないように注意してください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がサビついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

●急激な温度変化を与えないでください

極端に温度差のある場所（寒いところから急激に暖かいところや、その逆になるところ）にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴を生じ、故障の原因となります。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてから使用してください。

●強い電波や磁気の発生する場所で撮影しないでください

強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲および強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、カメラが正常に機能しない場合があります。

●カメラ本体の手入れ方法について

カメラ本体の手入れの際は、ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いて乾かしてください。まれに、ブラシなどで表示パネルを拭いた場合に、静電気で表示パネルが点灯したり、黒く変色しますが、故障ではありません。しばらくすると元に戻ります。

●ミラーやレンズの手入れ方法について

ミラーやレンズにゴミやホコリが付いているときは、キズが付きやすいので、ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払う程度にしてください。なお、スプレー缶方式のブロアーの場合、スプレー缶を傾けずにご使用ください（中の液体が気化されずに吹き出し、ミラーやレンズを傷つける場合があります）。レンズに万一指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭き取ってください。

●ローパスフィルターの手入れ方法について

ローパスフィルターのクリーニングの方法についてはP.197 をご覧ください。

●シャッター幕に触れないでください

シャッター幕は非常に薄い幕でできていますので、押さえたり、突いたり、ブロアーなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。キズ、変形、破損などの原因となります。

●風通しのよい場所に保管してください

カビや故障などを防止するために、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。ナフタリンや樟脳の入ったタンスの中、磁気を発生する器具のそば、極度に高温となる夏期の車内、使用しているストーブの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

●長期間使用しないときは、バッテリーを取り出し、乾燥剤といっしょに保管してください

カメラを長期間使用しないときは、バッテリーの液漏れなどからカメラを保護するために、カメラからバッテリーを必ず取り出しておいてください。保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤といっしょに入れておくとより安全です。ただし、皮ケースをビニール袋に入れておくと、変質することがありますので避けてください。バッテリーは高温、多湿となる場所を避けて保管してください。乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸って効力がなくなりますので、ときどき交換してください。カメラを長期間使用しないまま放置しておくと、カビや故障の原因となることがありますので、1カ月に一度を目安にバッテリーを入れカメラを操作することをおすすめします。

●バッテリーやACアダプタを取り外すときは必ずカメラの電源スイッチがOFFの状態で行ってください

カメラの電源スイッチが ON の状態で、バッテリーの取り出し、AC アダプタの取り外しを行うと、故障の原因となります。特に撮影動作中、または記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。

●液晶モニタについて

- 液晶モニタの特性上、一部の画素に常時点灯あるいは、常時点灯しない画素が存在することがありますが故障ではありません。予めご了承ください。また、記録される画像には影響はありません。
- 屋外では日差しの加減で液晶モニタが見えにくい場合があります。
- 液晶モニタ表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。液晶モニタの故障やトラブルの原因になります。もしホコリやゴミ等が付着した場合は、ブロアーで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革等で軽く拭き取ってください。万一、液晶モニタが破損した場合、ガラスの破片などでケガをするおそれがありますので十分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、十分ご注意ください。
- カメラをご使用にならない場合や持ち運ぶ場合は、破損を防ぐため液晶モニタに付属のLCDモニタカバーを取り付けてください。

バッテリーの取り扱いについて

●バッテリーに関する使用上のご注意

バッテリーの使用方法を誤ると液漏れにより製品が腐食したり、バッテリーが破裂したりするおそれがあります。次の使用上の注意をお守りください。

- バッテリーを入れるときは、カメラの電源スイッチを OFF にしてから入れてください。
- バッテリーの電極が汗や油などで汚れていると、接触不良の原因となります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。
- バッテリーを電源として長時間使用した後は、バッテリーが発熱していることがありますので注意してください。
- 必ず指定されたバッテリーをご使用ください。
- バッテリーを火の中に投入したり、ショートさせたり、分解したりしないでください。
- バッテリーをカメラからはずした場合は、必ず電極カバーを付けてください。

●撮影の前にバッテリーをあらかじめ充電してください

撮影の際は、バッテリーの充電を行ってください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されておりませんのでご注意ください。

●予備バッテリーを用意してください

撮影の際は、充電された予備のバッテリーをご用意ください。特に、海外の地域によってはバッテリーの入手が困難な場合がありますので、ご注意ください。

●低温時には十分に充電されたバッテリーを使用し、予備のバッテリーを用意してください

低温時に消耗したバッテリーを使用すると、カメラが作動しない場合があります。低温時に撮影する場合は十分に充電されたバッテリーを使用し、保温した予備のバッテリーを用意して暖めながら交互に使用してください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかったバッテリーでも、常温に戻ると使える場合があります。

ご確認ください

●ラジオ、テレビなどへの電波障害についてのご注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

●保証書とカスタマ登録カードについて

この製品には「保証書」と「カスタマ登録カード」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっております。「ご愛用者氏名」および「住所」「ご購入年月日」「ご購入店」がすべて記入された保証書を必ずお受け取りください。「保証書」をお受け取りになりませんと、ご購入1年以内の保証修理が受けられないことになります。もし、お受け取りにならなかった場合は、ただちに購入店にご請求ください。

●大切な撮影を行う前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行）を行う前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能するかを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

●著作権についてのご注意

あなたがデジタルカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

●あらかじめご承知いただきたいこと

- この使用説明書の一部または全部を無断で転載することは、堅くお断りいたします。
- 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

● Design rule for Camera File systems（DCF）について

D100は、Design rule for Camera File systems（DCF）に準拠しています。DCFは、各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録形式です。

● Exif※ Version 2.2について

D100は、Exif Version 2.2に対応しています。Exif Version 2.2は、デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。Exif Version 2.2対応のプリンターを使用することで、撮影時のカメラ情報を活かし、プリンターが最適なプリント出力を提供することができます。プリンターの使用説明書を読んでご使用ください。

※ Exif = Exchangeable image file format for digital still cameras

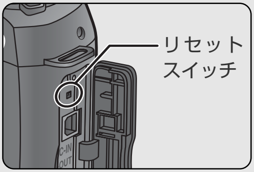
●本製品を安心してご使用いただくために

本製品は、当社製のアクセサリー（レンズ、スピードライト、バッテリー、バッテリーチャージャー、ACアダプタなど）に適合するように作られておりますので、当社製品との組み合せでご使用ください。

- 他社製品との組み合せ使用により、事故・故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

●デジタルカメラの特性について

きわめて希なケースとして、表示パネルに異常な表示が点灯したまま、カメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路に侵入したことが考えられます。万一このような状態になった場合は、カメラの電源スイッチをOFFにしてバッテリーを入れ直し、再度電源スイッチをONにしてカメラを作動させてみてください。その際、カメラを長時間使用していますとバッテリーが熱くなっていることがありますので、取り扱いには十分にご注意ください。ACアダプタをご使用時は、いったんカメラから取り外して再度カメラに取り付け、電源スイッチをONにしてカメラを作動させてみてください。この操作を行っても状態が改善されない場合は、右の図にあるリセットスイッチを押してみてください。この時カメラ内蔵の時計はリセットされますので、「日付と時刻を設定する」（P.18）に従って、日時を正しく設定してください。また、この操作を行うことでカメラが作動しなくなった状態の時のデータは、失われるおそれがあります。この操作を行ってもカメラに不具合が続く場合は、当社サービス部門にお問い合わせください。



●撮像素子表面ゴミ付着について

ニコンデジタルカメラは撮像素子表面に付着するゴミについて、当社の品質基準に基づき製造および出荷しています。しかし、D100はレンズ交換方式のため、撮影レンズを交換の際、カメラ内にゴミやホコリ等が入り込むことがあり、入ったゴミやホコリが撮像素子表面に付着した結果、撮影された条件によっては画像に写り込む場合があります。カメラ内へのゴミやホコリの進入を防止するため、ホコリの多い場所でのレンズ交換は避けるようにしてください。撮影レンズを外してカメラを保管するときは、付属のボディキャップを必ず装着するようお願いいたします。その際、ボディキャップのゴミやホコリの除去も必ず行うようにしてください。撮像素子表面に付着したゴミは、「カメラのお手入れについて」（P.196）にしたがってクリーニングしていただくか、販売店または当社サービス部門にクリーニングをお申し付けください。なお、撮像素子表面に付着したゴミの写り込みは、画像加工アプリケーションなどを使って修正することが可能です。

●バリブライト・フォーカスエリア / マルチディスプレイ・スクリーンについて

ニコンデジタルカメラD100は**バリブライト・フォーカスエリア**を装備しています。この機能により、周囲が明るい場合はフォーカスフレームを黒く表示し、周囲が暗い場合はフォーカスフレームを瞬間的に赤く表示しますので、選択されたフォーカスエリアを素早く確認することができます。さらに構図用の格子線を表示させる**マルチディスプレイ・スクリーン**も装備しています。これらの機能に使用されている液晶の特性により、選択されたフォーカスエリアから外側に延びる細い線が見える場合やフォーカスフレームを照明する際にファインダー内が赤くなる場合がありますが、いずれも故障ではありません。

●高温・低温下での液晶表示について

表示パネルとファインダー内に使用されている液晶表示は、高温下では黒くなり、低温下では液晶の応答速度が多少遅くなることがあります。一方、バリブライト・フォーカスエリアとマルチディスプレイ・スクリーンに使用されている液晶表示は、高温下では薄く、低温下では濃くなって液晶の応答速度が遅くなる特性がありますが、いずれの場合も常温時には正常に戻ります。

商標説明

- CompactFlash™（コンパクトフラッシュ）は米国 SanDisk 社の商標です。
- Microsoft® および Windows® は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- IBM および Microdrive（マイクロドライブ）は International Business Machines Corporation の米国における登録商標です。
- Macintosh、Mac OS、Power Macintosh、PowerBook、iMac、iBook、QuickTime は米国およびその他の国で登録された米国アップルコンピュータ社の商標です。
- Adobe、 Adobe Acrobat は Adobe Systems, Inc.（アドビシステムズ社）の商標または特定地域における同社の登録商標です。
- Pentium は米国インテル社の登録商標です。
- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

目次

ご使用になる前に

この章は次の３部で構成されています。

はじめに（ P.2～3）

D100の主な特長とこの使用説明書で使用しているマークについて説明しています。

各部の名称と機能（ P.4～13）

D100の各部の名称とコマンドダイヤルの機能について説明しています。

撮影前の準備（ P.14～24）

バッテリーやコンパクトフラッシュカードの入れ方、ストラップやレンズの取り付け方、日時の設定方法など、このカメラをはじめてご使用になる前に、準備する内容を説明しています。

はじめに

ニコンデジタルカメラD100をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。この使用説明書はレンズ交換式一眼レフデジタルカメラD100で撮影をお楽しみいただくために必要な情報を記載しています。ご使用の前に、この使用説明書をよくお読みの上、内容を十分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

ニコンデジタルカメラ D100 の主な特長

- 23.7×15.6mmの大型CCDを搭載しており、有効画素数6.1メガピクセルから用途に応じて3種類の記録サイズが選択が可能です（3008×2000、2240×1488、1504×1000ピクセル）。
- D1シリーズで定評のある3D-デジタルマトリックスイメージコントロールをさらに進化させ、3Dマルチパターン測光に基づく正確な露出制御、TTLホワイトバランスによる最適な色温度設定などにより、一段と的確な色再現性となめらかな階調表現を実現しています。
- 使用用途に合わせてsRGB、Adobe RGBに最適化した、3種類のカラー設定が可能です。
- 約３コマ/秒の速度で、最大６コマ（RAW画像記録時は４コマ）の連続撮影が可能です。
- シャッタースピードが約1/2秒以下になる撮影の場合、画像に入る星状のノイズを低減するノイズ除去を機能させることが可能です。
- 内蔵スピードライトを搭載しており、明るい場所はもちろん、暗い場所での撮影が可能です。
- 設定した撮像感度で適正露出を得られない場合、自動的に撮像感度を変更して適正露出を得る「感度自動制御」機能を搭載しています。
- 撮像素子からの生出力を、12bitのデータで保存できます（RAW画像）。
- マルチファンクションバッテリーパックMB-D100（別売）を装着することにより、音声メモ、縦位置シャッターボタン、縦位置コマンドダイヤルなど、さらに機能を広げることができます。

カスタマーサポート

下記アドレスのホームページで、サポート情報をご案内しています。

http://www.nikon-image.com/jpn/ei_cs/index.htm

本文中のマークについて

この使用説明書は、次の記号を使用しています。必要な情報を探すときにご活用ください。

カメラの故障を防ぐために、使用前に注意していただきたいことや守っていただきたいことを記載しています。	カメラを使用する場合に、便利な情報を記載しています。
カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。	関連情報を記載した参照ページを記載しています。
液晶モニタに表示されるメニュー画面で各種設定が変更できます。記号の横にメニュー名を記載しています。	CSM カスタムセッティングで各種設定が変更できます。記号の横にある数字は、カスタムセッティングの項目番号です。

カメラなどの点検サービスについて

カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールされることをおすすめします（有料）。

- 特に業務用にご使用になる場合は、早めに点検整備を受けてください。
- 点検整備を依頼される際は、より安心してご愛用いただけるよう一緒にお使いのレンズやスピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

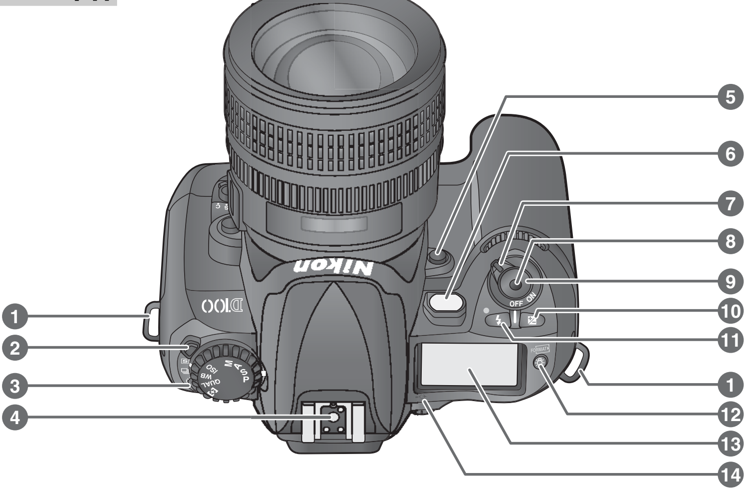
使用説明書の再発行について

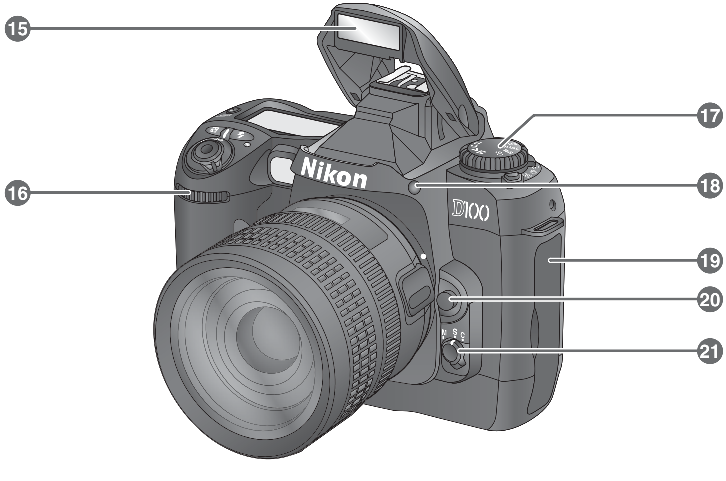
使用説明書を紛失した場合は、新しい使用説明書を当社サービス部門でお求めください（有料）。

各部の名称と機能

カメラ本体の名称や機能について紹介します。詳しい説明は各部の右側に記載されているページをご参照ください。

カメラ本体



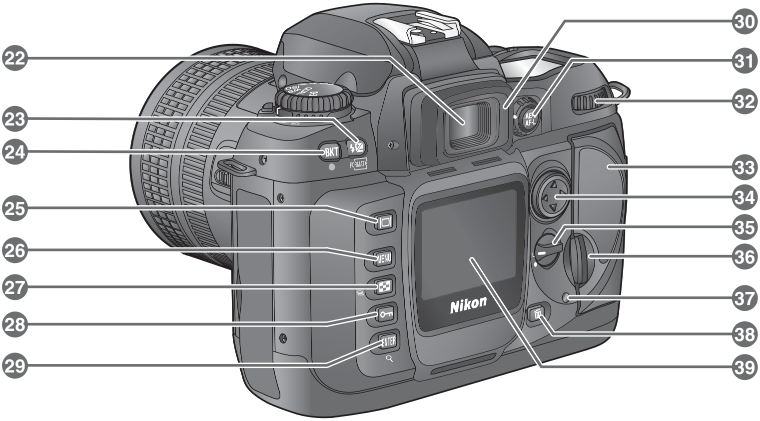


1 吊り環 P.15
2 撮影動作モードダイヤルロックボタン P.41
3 撮影動作モードダイヤル P.41
4 アクセサリーシュー P.110
5 プレビューボタン P.79
6 セルフタイマーランプ P.115
AF 補助光ランプ P.74
赤目軽減ランプ P.102
7 電源スイッチ P.27
8 レリーズソケット P.191
9 シャッターボタン ..P.31～34、72
10 露出補正ボタン P.92
11 シンクロモードボタン .... P.104、116
12 イルミネーターボタン P.162
フォーマットボタン FORMAT P.23
13 表示パネル P.8
14 距離基準マーク P.76
15 内蔵スピードライト ..P.100、104
16 サブコマンドダイヤル P.12
17 ファンクションダイヤル P.12
ファンクションダイヤルで操作できる内容については、次の各項目をご覧ください。
露出モード P.79
撮像感度 P.48
ホワイトバランス P.50
画質モード P.44
記録サイズ P.46
AF エリアモード P.67
18 スピードライトロック解除ボタン P.104
19 端子カバー ..... P.178、183、203
20 レンズ取り外しボタン P.21
21 フォーカスモードセレクトダイヤル P.65

イルミネーター

イルミネーターを点灯させると、暗い所で表示パネルの表示が確認しやすくなります。イルミネーターボタン を押すと、半押しタイマーが作動するとともに、表示パネルが照明されます。イルミネーターは半押しタイマーの作動中は点灯し続けます。ただし、シャッターをきった直後には消灯します。

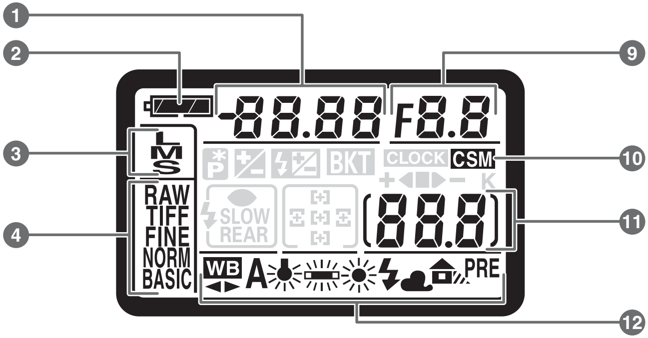
カメラ本体（つづき）

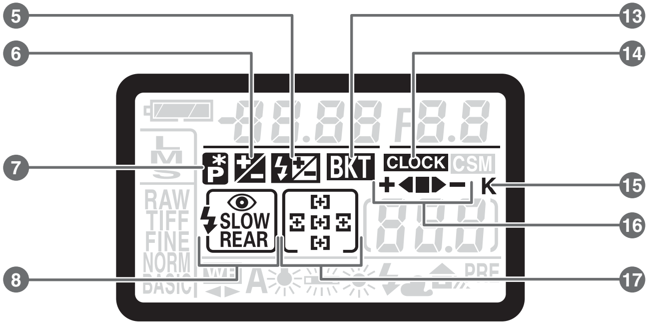

22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
BKT
FORMAT
MENU
ENTER
AE-L
AF-L
Nikon


40
41
42
43
44
45
Nikon

22 ファインダー接眼窓 P.30
23 調光補正ボタン [調光補正] P.113
フォーマットボタン FORMAT P.23
24 ブラケティングボタン BKT
.... P.93、116
25 モニタボタン [モニタ] .... P.35、118
26 メニューボタン MENU P.39
27 サムネイルボタン [サムネイル] P.122
28 プロテクトボタン [プロテクト] P.125
29 実行ボタン ENTER .... P.40、126
拡大再生ボタン [拡大] P.124
30 接眼目当て P.30
31 AE/AFロックボタン AE-L AF-L
.... P.72～73、89、161
32 メインコマンドダイヤル P.12
33 コンパクトフラッシュカードカバー
.... P.22
34 マルチセレクター
.... P.35、39、66、120～126
35 フォーカスエリアロックスイッチ
.... P.66
36 コンパクトフラッシュカードカバー
開閉ノブ P.22
37 コンパクトフラッシュカード
アクセスランプ P.34
38 削除ボタン [削除] P.126
39 液晶モニタ .... P.15、35
40 三脚ネジ穴
41 MB-D100用接点カバー P.191
42 測光モードセレクトダイヤル
.... P.78
43 視度調節レバー P.30
44 バッテリーカバー開閉ノブ P.16
45 バッテリーカバー .... P.16、191

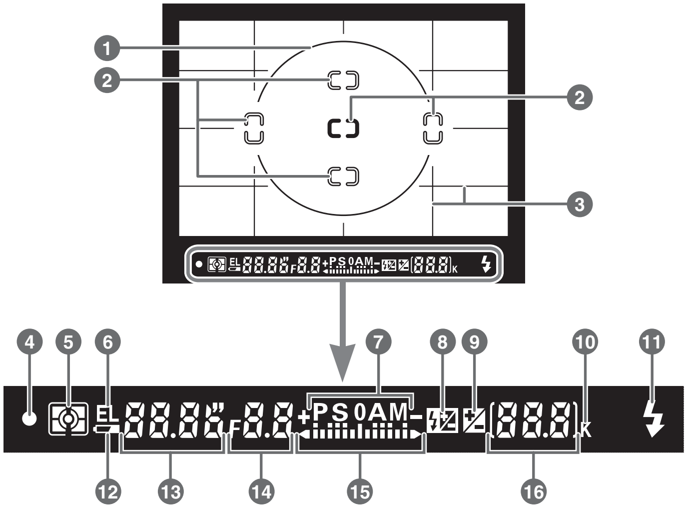
表示パネル


1
2
3
4
9
10
11
12
-88.88
F8.8
L
M
S
RAW
TIFF
FINE
NORM
BASIC
BKT
CLOCK
CSM
SLOW
REAR
K
888
WB
A
PRE


5
6
7
8
13
14
15
16
17
BKT
CLOCK
SLOW
REAR
K

1	シャッタースピード表示 .... P.79～88 撮像感度表示 .... P.48 露出補正値表示 .... P.92 調光補正値表示 .... P.113 ブラケティングコマ数表示 ..... P.93 ホワイトバランス微調整表示 P.95
2	バッテリーチェック表示 P.17
3	記録サイズ表示 P.46
4	画質モード表示 P.44
5	調光補正マーク P.113
6	露出補正マーク P.92
7	プログラムシフトマーク P.80
8	シンクロモード表示 P.102
9	絞り表示 .... P.79～88 ブラケティング補正値表示 ..... P.93 PCモード表示 P.184
10	カスタムマーク P.152
11	撮影可能コマ数表示 .... P.27 連続撮影可能コマ数表示 .... P.41 PCカメラモード表示 P.184
12	ホワイトバランスモード表示 P.50
13	ブラケティングマーク P.93
14	クロックマーク P.19
15	1000コマ以上補助表示 P.42
16	ブラケティングバーグラフ P.94
17	フォーカスエリア表示 .. P.66～71

ファインダー



1 中央部重点測光参照エリアφ 12mm P.78

2 フォーカスフレーム（エリア）表示 .... P.66～71
スポット測光エリア P.78

3 構図用格子線 P.164
（カスタムセッティング 19 を ON にセットしている場合にのみ表示されます）

4 ピント表示 P.31

5 測光モード表示 P.78

6 AE ロック表示 P.90

7 露出モード表示 P.79

8 調光補正マーク P.113

9 露出補正マーク P.92

10 1000 コマ以上補助表示 P.42

11 レディライト P.104

12 バッテリーチェック表示 P.17

13 シャッタースピード表示 .. P.82、86

14 絞り表示 .... P.84、86

15 露出インジケーター P.86
露出補正インジケーター P.92

16 撮影可能コマ数表示 P.27
連続撮影可能コマ数表示 P.41
露出補正値表示 P.92
調光補正値表示 P.113

バリブライト・フォーカスエリア / マルチディスプレイ・スクリーンについて

このカメラはフォーカスエリアを選択すると、選択されたフォーカスエリアがファインダースクリーン上に鮮明に表示される、**バリブライト・フォーカスエリア**を装備しています。この機能により、周囲が明るい場合はフォーカスフレームを黒く表示し、周囲が暗い場合はフォーカスフレームを瞬間的に赤く表示しますので、選択されたフォーカスエリアを素早く確認することができます。さらにカスタムセッティング19「**構図用格子線表示**」(P.164) により、構図用の格子線を表示させる**マルチディスプレイ・スクリーン**も装備しています。この構図用の格子線は撮影時の構図決定に効果的で、風景撮影やPCニッコールを使用してあおり撮影などを行うときに便利です。

※ これらの機能に使用されている液晶の特性により、選択されたフォーカスエリアから外側に延びる細い線が見える場合やフォーカスフレームを照明する際にファインダー内が赤くなる場合がありますが、いずれも故障ではありません。

高温・低温下での液晶表示について

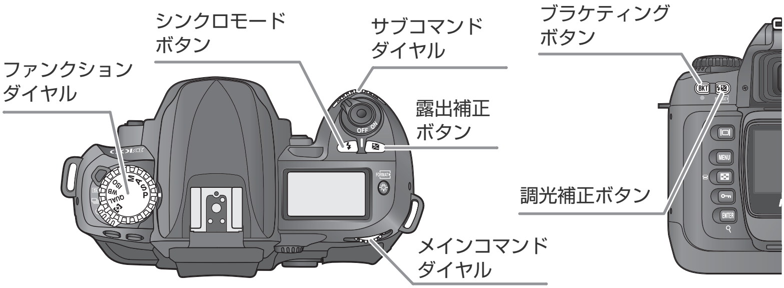
表示パネルとファインダー内に使用されている液晶表示は、高温下では黒くなり、低温下では液晶の応答速度が多少遅くなることがあります。一方、バリブライト・フォーカスエリアとマルチディスプレイ・スクリーンに使用されている液晶表示は、高温下では薄く、低温下では濃くなって液晶の応答速度が遅くなる特性がありますが、いずれの場合も常温時には正常に戻ります。

ファインダーについてのご注意

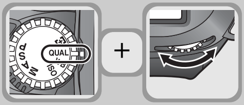
カメラにバッテリーが入っていない、あるいはバッテリー容量が全くない状態では、ファインダー全体が暗くなり、像がはっきりと見えませんが、故障ではありません。新しいバッテリーを入れると明るくなります。

コマンドダイヤルについて

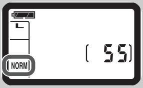
コマンドダイヤル（メインコマンドダイヤル・サブコマンドダイヤル）を回すと、ボタンとの組み合わせまたは単独操作で、次のような機能を設定できます。

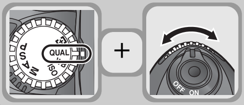


画質モードと記録サイズ



画質モードの設定（P.44）

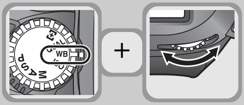




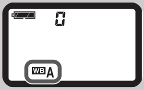
記録サイズの設定（P.46）

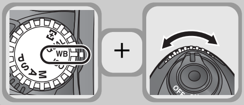


ホワイトバランス

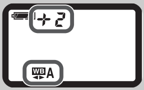


ホワイトバランスモードの設定
（P.50）

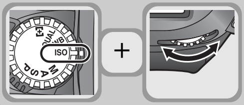




ホワイトバランスの微調整/プリセットホワイトバランスの設定（P.53、56）



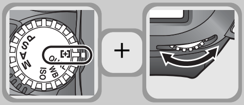
撮像感度



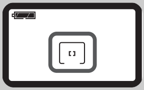
撮像感度の設定（ISO 換算）
（P.48）



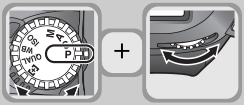
AFエリアモード



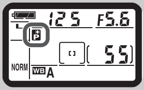
AFエリアモードの設定（ P.68）

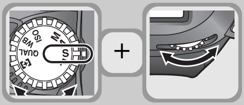


露出

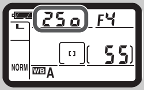


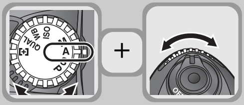
プログラムシフト
（ファンクションダイヤルが **P** のとき： P.80）



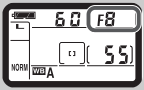


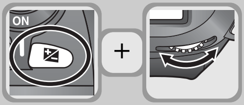
シャッタースピードの設定
（ファンクションダイヤルが **S** または **M**のとき： P.82、86）





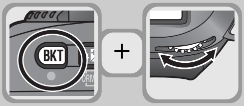
絞りの設定
（ファンクションダイヤルが **A** または **M**のとき： P.84、86）



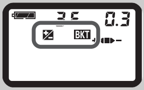


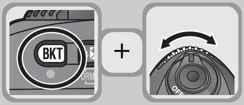
露出補正量の設定
（ファンクションダイヤルが**P**、**S**、**A**、**M**のとき： P.92）



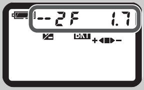


ブラケティングの設定／解除
（ファンクションダイヤルが**P**、**S**、**A**、**M**のとき： P.93）





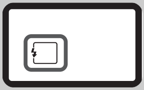
ブラケティングの撮影コマ数/補正ステップの設定（ファンクションダイヤルが**P**、**S**、**A**、**M**のとき： P.93）

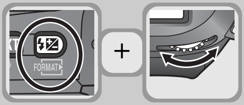


スピードライト

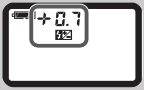


シンクロモードの設定
（ファンクションダイヤルが**P**、**S**、**A**、**M**のとき： P.104）





調光補正量の設定
（ファンクションダイヤルが**P**、**S**、**A**、**M**のとき： P.113）

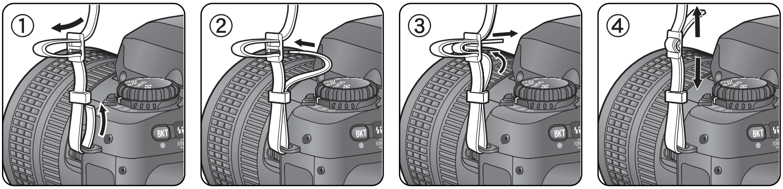


撮影前の準備

カメラを初めてご使用になる前に、次の準備を行う必要があります。

ステップ１：ストラップを取り付ける

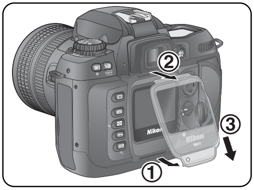
ストラップは下図のように取り付けます。カメラボディに2箇所ある吊り環に、確実に取り付けてください。



LCDモニタカバーBM-2

D100の液晶モニタには、透明なプラスチック製のLCDモニタカバー（以下、モニタカバー）がついています。カメラをご使用にならない場合や持ち運ぶ場合は、汚れや破損を防ぐため、モニタカバーを取り付けてください。

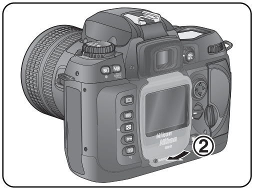
モニタカバーを取り外す場合は、カメラをしっかりと支え、右図のようにモニタカバーの下からゆっくりと外します（①）。モニタカバーを液晶モニタから少し離し（②）、斜め下の方向に引いてください（③）。



取り外すときにモニタカバーの下部を持ち上げすぎないようにご注意ください。

モニタカバーを装着する場合は、液晶モニタ部の上にある2つの溝にモニタカバーの上部をはめ込み（①）、モニタカバーの透明な部分が液晶モニタと重なるように置き、カチッと音がするまで上から軽く押してください（②）。





ステップ2：バッテリーを入れる

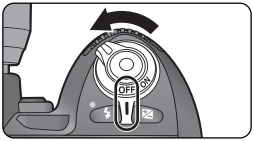
カメラにバッテリーを入れ、残量を確認します。バッテリーには、付属の専用Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL3を使用します。

2.1　バッテリーを充電する。

- Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL3は、出荷時にはフル充電されておりません。ご使用の前に付属のクイックチャージャーMH-18でフル充電してください。残量のない状態のバッテリーを充電する場合、約2時間で充電が完了します。充電方法はクイックチャージャーの使用説明書をご覧ください。

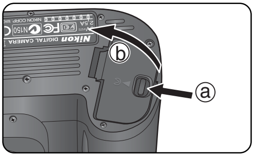
2.2　カメラの電源スイッチをOFFにする。

- バッテリーの挿入･取り出しを行うときは、必ずカメラの電源スイッチをOFFにしてください。



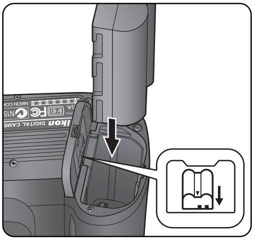
2.3　バッテリーカバーを開ける。

- バッテリーカバー開閉ノブを⊃側へ押して（a）、バッテリーカバーを開けます（b）。



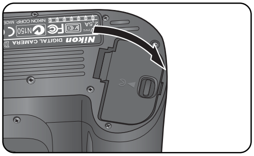
2.4　バッテリーを入れる。

- バッテリーは右のイラストで示されている向きで入れてください。



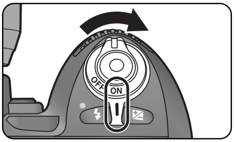
2.5　バッテリーカバーを閉じる。

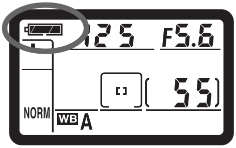
- バッテリーカバーを確実に閉じてください。
- カメラの操作中にバッテリーが外れてしまわないよう、バッテリーカバー開閉ノブがしっかりとロックされていることをご確認ください。



2.6 バッテリーの残量を確認する。

- カメラの電源スイッチをONにして、表示パネルまたはファインダー内のバッテリーチェック表示を確認します。







表示 パネル	表示 ファインダー	意味	内容
	—	バッテリー残量は十分です。	操作が行われないまま約6秒経過すると、表示パネルのシャッタースピード/絞り表示とファインダー内のすべての表示が消灯します。シャッターボタンを半押しする（軽く押す）と、半押しタイマーが作動してこれらの表示が再点灯します。
	—	バッテリーが減り始めました。	
		バッテリー残量は残りわずかです。	バッテリー交換の準備をしてください。
（点滅）	（点滅）	バッテリーを交換してください。	シャッターはきれなくなります。

* ACアダプタEH-5（別売）を使用した場合、バッテリーチェック表示は表示されません。

バッテリーを取り出すには

バッテリーをカメラから取り出す場合は、電源スイッチをOFFにし、バッテリーカバー開閉ノブを側へ押してバッテリーカバーを開け、バッテリーを取り出してください。

カメラの電源スイッチをOFFにした場合の表示について

バッテリーが入っている状態でカメラの電源スイッチをOFFにすると、撮影可能コマ数表示のみが表示されます。



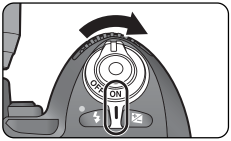
CSM 7：半押しタイマーの作動時間の変更（P.157）

半押しタイマーがオフになるまでの時間を、4秒、6秒、8秒、16秒、30分のいずれかに設定できます（半押しタイマーの作動時間を短く設定すると、バッテリーの消耗を抑えることができます）。

ステップ３：日付と時刻を設定する

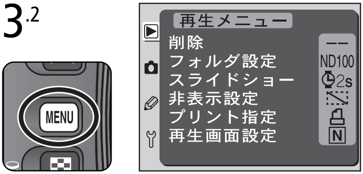
撮影したすべての画像に撮影日時が記録されます。正しい日時を記録するため、ご使用の前に次の手順で日時を設定してください。

3.1



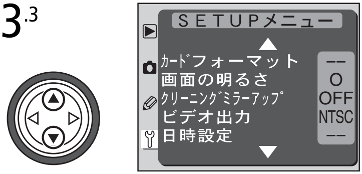
電源スイッチをONにします。

3.2



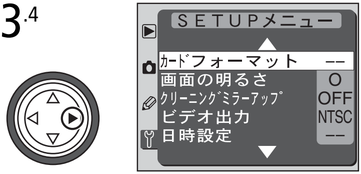
メニューボタン MENU を押します。液晶モニタにメニュー画面が表示されます。（メニュー項目がすでに選択されている場合は、マルチセレクターの◀を押して選択を解除してください。）

3.3



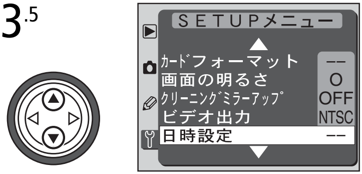
マルチセレクターの▲または▼を押してSETUPメニュー画面を表示させせます。

3.4



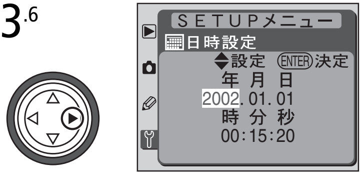
マルチセレクターの▶を押すとSET UPメニュー項目を選択できるようになります。

3.5



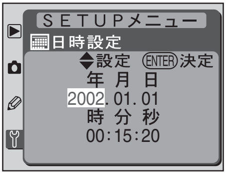
▲または▼を操作して「**日時設定**」を選択します。

3.6



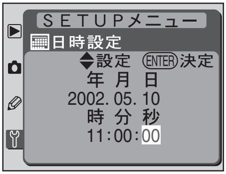
マルチセレクターの▶を押すと日時設定画面が表示されます。

3.7

この状態では「年」の数値が選択されています。マルチセレクターの▲または▼で「年」の数値を合わせます。

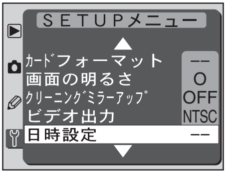
3.8

マルチセレクターの▶を押すごとに、「月」「日」「時」「分」「秒」の選択が順番に切り換わります。それぞれの項目について、マルチセレクターの▲または▼で数値を合わせます。

3.9





日時の設定が終わったら、実行ボタン ENTER を押して、数値を確定します。同時に日付設定画面が終了し、SET UP メニュー画面に戻ります。

時計用電池について

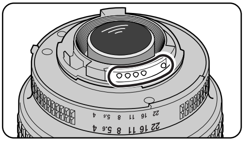
カメラ内蔵の時計は、Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL3とは別のカメラに内蔵されている時計用電池で作動します。カメラに充電されたバッテリーを入れるか、専用ACアダプタEH-5（別売）を使用して家庭用電源に接続すると、時計用電池の充電が開始されます。この状態で約３日間継続すると、カメラのバッテリーを取り出したりACアダプタを外しても、記憶された日時は約５ヶ月間保持されます。表示パネルにクロックマーク CLOCK が点滅した場合、カメラ動作には支障がありませんが、日時は正しく記録されません（クロックマーク CLOCK が点滅中は、「2002.01.01 00:00:00」からカウントされた日時となります）。その場合は、日時の設定を正しく行ってください。

カメラ内蔵の時計について

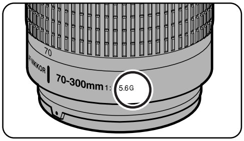
カメラの内蔵時計は一般的な時計（腕時計など）ほど精度は良くありません。定期的に日時設定を行うことをおすすめします。

ステップ4：レンズを取り付ける

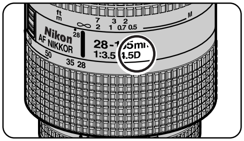
カメラの機能を十分に活用するためには、GまたはDタイプのCPUレンズの使用をおすすめします。



CPUレンズには信号接点があります。



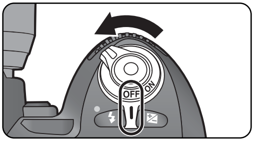
Gタイプレンズ



Dタイプレンズ

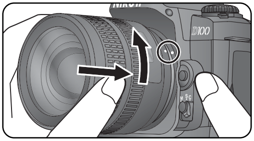
4.1 カメラの電源スイッチをOFFにする。

- レンズの取り付け・取り外しを行うときは、カメラの電源スイッチをOFFにしてください。



4.2 レンズをカメラに取り付ける。

- レンズの着脱指標とカメラの着脱指標を合わせ、時計と反対回りにカチッと音がするまでレンズを回します。
- レンズ取り外しボタンは押さないでください。

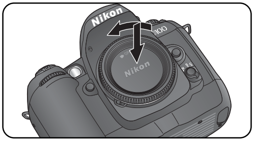


レンズの取り付け・取り外しを行うときのご注意

ボディキャップやレンズの取り付け、取り外しをする場合は、カメラ内部にゴミや異物が入らないように、カメラのレンズ装着部を下向きにしてください。ゴミや異物が入ると、画像に悪影響を及ぼす恐れがあります。レンズを装着していないときは、カメラにボディキャップBF-1Aを取り付けてください。

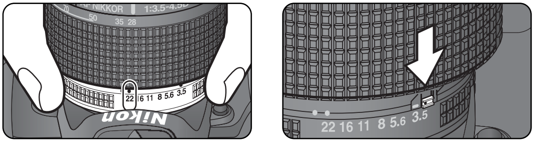
カメラからレンズを外しておくときは

カメラからレンズを外しておくときは、ミラーやファインダースクリーンなどへのゴミやホコリの付着を防ぐため、付属のボディキャップBF-1Aを装着してカメラ内部を保護してください。



4.3 絞りリングを最小絞りにセットする（Gタイプ以外のCPUレンズの場合）。

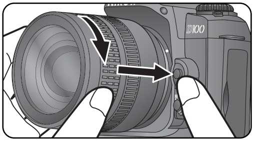
- 絞りリングを最小絞り（最大値）にセットして、ロックします。
- CPUレンズでは最小絞りにセットされていない場合、カメラの電源スイッチをONにすると表示パネルとファインダー内にFEEが点滅し、撮影することができません。



- Gタイプレンズを使用される場合､最小絞りにセットする必要はありません。

レンズを取り外すには

カメラの電源スイッチをOFFにして､レンズ取り外しボタンを押しながら時計回りにレンズを回します。



非CPUレンズを使用する場合は

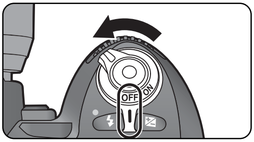
露出モードを**M**（マニュアル）にセットした場合のみ､非CPUレンズを装着して撮影できます（**M**以外の露出モードでは､シャッターはきれません）｡ただし､カメラの露出計の使用や､コマンドダイヤルによる絞りのセットはできません｡表示パネルとファインダー内表示の絞り表示は、F-- となりますので､絞りのセットと確認は､レンズの絞りリングで行ってください。

ステップ５：コンパクトフラッシュカードを入れる

このカメラは、コンパクトフラッシュカードに画像を記録します。ここではコンパクトフラッシュカードの挿入、フォーマットの手順について説明します。使用可能なコンパクトフラッシュカードについては、「資料ー別売アクセサリー」の推奨コンパクトフラッシュカード一覧（ P.195）をご確認ください。

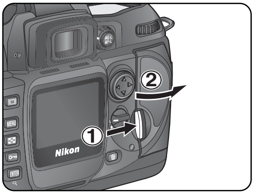
5.1 カメラの電源スイッチをOFFにする。

- コンパクトフラッシュカードの挿入・取り出しを行うときは、必ずカメラの電源スイッチをOFFにしてください。



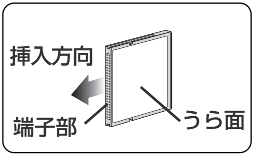
5.2 コンパクトフラッシュカードカバーを開ける。

- コンパクトフラッシュカードカバー開閉ノブを右に押して（①）、コンパクトフラッシュカードカバーを開けます（②）。

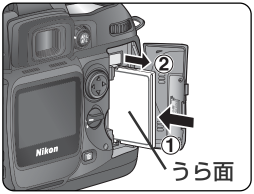


5.3 コンパクトフラッシュカードを入れる。

- コンパクトフラッシュカードは右図のような挿入方向でコンパクトフラッシュカードスロットの中に入れます。

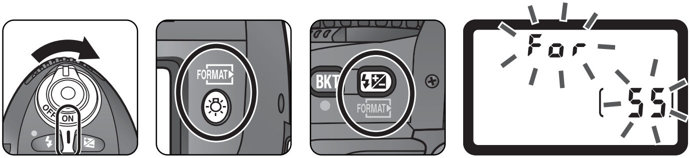


- コンパクトフラッシュカードの裏面を液晶モニタ側に向け、奥まで確実に押し込んでください（①）。正常に挿入されるとコンパクトフラッシュカードイジェクトレバーが出てきます（②）。
- 挿入後、コンパクトフラッシュカードカバーを閉めます。



5.4 コンパクトフラッシュカードをフォーマットする。

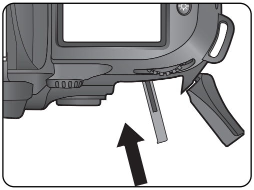
- 新しく購入したコンパクトフラッシュカードを使用するには、フォーマットする必要があります。
- フォーマットするには、カメラの電源スイッチをONにして、2つの FORMAT ボタン（イルミネーターボタン と調光補正ボタン ）を同時に約2秒以上押します。
- 表示パネルに For という文字と撮影可能コマ数表示の数値が点滅したら、再度2つの FORMAT ボタンを押します。コンパクトフラッシュカードのフォーマットが始まります。



- フォーマット中は、表示パネルの撮影可能コマ数表示部にForが表示されます。
- フォーマットが完了すると、撮影可能コマ数表示部に撮影可能コマ数が表示されます。
- For（フォーマット）表示が点滅しているときに FORMAT ボタン以外のボタンを押すと、フォーマットは解除されます。

✔ コンパクトフラッシュカードを入れる場合のご注意

- コンパクトフラッシュカードは正しい向きに入れてください。また、無理に押し込まないでください。カメラ破損の原因となります。
- コンパクトフラッシュカードスロットは図のように少し傾いています。コンパクトフラッシュカードを入れる場合は、コンパクトフラッシュカードスロットに沿って入れるようにしてください。



✔ コンパクトフラッシュカードをフォーマットする前に

コンパクトフラッシュカードをフォーマットすると、カード内の画像はすべて消去されます。必要な画像がある場合は、フォーマットする前にパソコンなどに保存してください。

コンパクトフラッシュカードフォーマット中のご注意

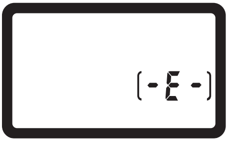
コンパクトフラッシュカードのフォーマット中は、カメラの電源スイッチをOFFにしたり、バッテリーやコンパクトフラッシュカードを取り出さないでください。

コンパクトフラッシュカードの取り扱いについて

カメラをご使用後、コンパクトフラッシュカードが熱くなっていることがあります。取り出しの際は、ご注意ください。

コンパクトフラッシュカードが入っていない場合

カメラに充電されたバッテリーを入れたり、ACアダプタEH-5（別売）をつないだ時点でコンパクトフラッシュカードが入っていない場合、表示パネルおよびファインダー内の撮影可能コマ数表示には [-E-] マークが表示されます。

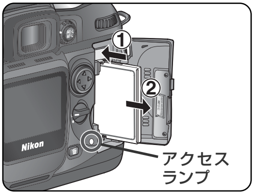


大容量のコンパクトフラッシュカードを使用する場合

すでにたくさんのフォルダや画像が記録されているコンパクトフラッシュカードを使用する場合、コンパクトフラッシュカードを挿入した時や、カメラの電源スイッチをONにした時などに行われるファイル検索に時間がかかるため、撮影や再生にも時間がかかる場合があります。

コンパクトフラッシュカードを取り出すには

アクセスランプの消灯を確認して、カメラの電源スイッチをOFFにします。コンパクトフラッシュカードカバー開閉ノブを右に押してコンパクトフラッシュカードカバーを開け、コンパクトフラッシュカードイジェクトレバーを奥に押し込むと（①）、コンパクトフラッシュカードを取り出すことができます（②）（アクセスランプ点灯中は、絶対にカードを取り出さないでください。データ消去、カード破損、カメラの不具合の原因となります）。



コンパクトフラッシュカードのフォーマット（P.170）

コンパクトフラッシュカードは「SETUPメニュー」でもフォーマットすることができます。

基本操作

この章は次の２部で構成されています。

撮影の基本ステップ（ P.26～34）

オートフォーカスやマルチプログラムオートを使用した簡単な撮影方法を説明しています。マルチプログラムオートによる撮影は、ほとんどの撮影状況に対応します。

基本的な再生（ P.35～36）

撮影した画像を液晶モニタに表示するための、基本的な再生方法について説明しています。

撮影の基本ステップ

ここでは撮影の基本的な手順を６つのステップに分けて説明します。

ステップ１　撮影を始める前に　P.27

バッテリーチェック表示の詳細については次の項目をご覧ください。
•撮影前の準備：バッテリーを入れる P.16
各メニュー項目の設定を初期状態に戻すには次の項目をご覧ください。
•撮影機能の詳細：ツーボタンリセット P.116
•メニューガイド：カスタムメニュー P.149

ステップ２　撮影に関する設定をする　P.28～29

各機能の設定についての詳細は次の項目をご覧ください。
•撮影機能の詳細：撮影動作モード .... P.41～42
•撮影機能の詳細：画質モードと記録サイズ............ P.43～47
•撮影機能の詳細：撮像感度 .... P.48～49
•撮影機能の詳細：ホワイトバランス .... P.50～59
•撮影機能の詳細：画像の調整 .... P.60～64
•撮影機能の詳細：フォーカス .... P.65～77
•撮影機能の詳細：測光・露出 .... P.78～99

ステップ３　構図を決める　P.30

被写界深度の確認方法（プレビュー）については次の項目をご覧ください。
•撮影機能の詳細：測光・露出 P.79
ファインダー用アクセサリーについては次の項目をご覧ください。
•資料：別売アクセサリー P.192

ステップ４　ピントを合わせる　P.31

フォーカス機能についての詳細は次の項目をご覧ください。
•撮影機能の詳細：フォーカス .... P.65～77

ステップ５　露出を確認する　P.32

露出の調整については次の項目をご覧ください。
•撮影機能の詳細：測光・露出 .... P.78～99
スピードライトについての詳細は次の項目をご覧ください。
•撮影機能の詳細：スピードライト撮影 .... P.100～113

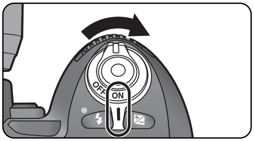
ステップ６　撮影する　P.34

セルフタイマーについては次の項目をご覧ください。
•撮影機能の詳細：セルフタイマー撮影 .... P.114～115

ステップ 1：撮影を始める前に

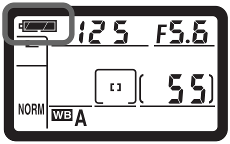
撮影を始める前に、以下の手順で準備を完了してください。

1.1 カメラの電源スイッチを ON にする。



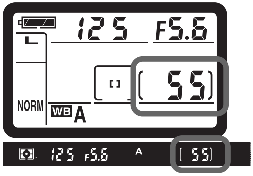
- 表示パネルおよびファインダー内の表示が点灯します。

1.2 バッテリー残量を確認する。

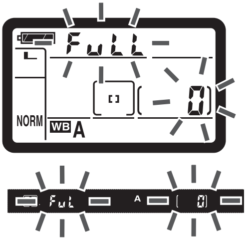


- 表示パネルのバッテリーチェック表示 が点滅している場合は、バッテリー残量がありません。バッテリーを再充電するか、充電されたバッテリーに交換してください。

1.3 撮影可能コマ数を確認する。



- 表示パネルまたはファインダー内で撮影可能コマ数を確認します。



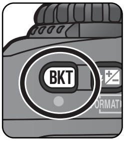
- 撮影可能コマ数がゼロの場合、表示パネルおよびファインダー内の撮影可能コマ数表示の 0、およびシャッタースピード表示部の FuLL、FuL が点滅します。撮影する前に、画像を削除するか、別のコンパクトフラッシュカードに交換してください。
- 画質モードや記録サイズの設定を変更すると、撮影可能コマ数が増加または減少することがあります。

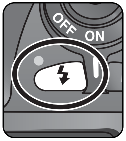
ステップ2：撮影に関する設定をする

この「基本操作」部では、各機能を初期設定状態にして撮影を行います。初期状態から撮影者の好みに合わせて設定を変更する場合は、「撮影機能の詳細」をご覧ください。

2.1 カメラの初期状態を確認する。

- ご購入時もしくはツーボタンリセット（P.116）後は、画質モード、記録サイズ、撮像感度、ホワイトバランス、AFエリアモード、フォーカスエリアが、次のように設定されています。





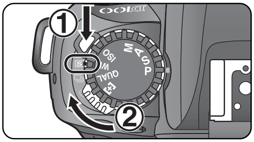
機能	設定	内容	
画質モード	Normal	通常のスナップ写真などの撮影に適しており、画質とファイルサイズのバランスに優れています。	P.44～P.46
記録サイズ	L	画像は3008×2000ピクセルの画素数で記録されます。	P.46～P.47
撮像感度	200	ISO200に相当する撮像感度で撮影します。	P.48～P.49
ホワイトバランス	**A**（**オート**）	照明光の種類に応じて、カメラが自動的にホワイトバランスを調節します。	P.50～P.59
AFエリアモード	（**シングルエリアAF**）	5つのフォーカスエリアの中から、撮影者自身が選択した1つのフォーカスエリア だけでピント合わせを行うモードです。	P.67～P.71
フォーカスエリア	**中央**	シャッターボタンを半押ししたときに、中央のフォーカスエリアと重なる被写体にピントを合わせます。	P.66

非CPUレンズを使用する場合は

P（マルチプログラムオート）は、CPUレンズを使用している場合のみ作動します。非CPUレンズを取り付けた場合は、ファインダーと表示パネルの絞り値表示が F-- が点滅し、シャッターをきることができません。非CPUレンズを取り付けた場合は、露出モードが**M**（マニュアル）でのみ撮影できます（P.86）。

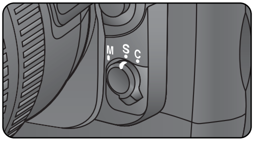
2.2 撮影動作モードダイヤルを S（1 コマ撮影）に設定する（P.41）。

- 撮影動作モードダイヤルロックボタンを押しながら（①）、撮影動作モードダイヤルを回して、S（1 コマ撮影）に合わせます（②）。1 コマ撮影はシャッターボタンを押すたびに 1 コマずつ撮影するモードです。



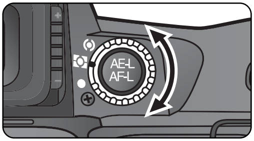
2.3 フォーカスモードを**S**（シングルエリアAFサーボ）に設定する（P.65）。

- フォーカスモードセレクトダイヤルを、カチッと音がするまで回し、**S**に合わせます。このモードでシャッターボタンを半押しすると、選択されたフォーカスエリア内の被写体に自動的にピントが合います。被写体にピントが合っている場合のみ、撮影できます。



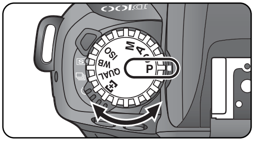
2.4 測光モードを設定する（P.78）。

- 測光モードセレクトダイヤルを（マルチパターン測光）の位置にセットしてください。この測光モードでは撮影画面を10分割して、それぞれの部分を独立して測光した情報に基づいて、最適な露出値を決定します。さらにDタイプまたはGタイプレンズを装着した場合には、画面内の最大輝度、輝度差情報に加え、カメラから被写体までの距離情報を加味して測光の精度を高めた「3D-10分割マルチパターン測光」となります。



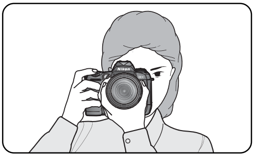
2.5 露出モードを設定する（P.79）。

- ファンクションダイヤルを**P**（マルチプログラムオート）の位置にセットしてください。マルチプログラムオートは、撮影状況に応じて最適露出となるようにプログラム線図にしたがって自動的に露出制御を行います。

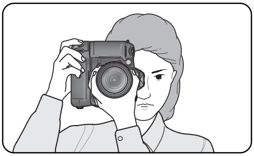


ステップ3：構図を決める

構図を決める場合は、わきを締め、ひじを軽く体につけ、カメラを構えます。右手でカメラのグリップを包み込むように持ち、左手でレンズを支えます。片足を軽く踏み出すと、上半身が安定します。







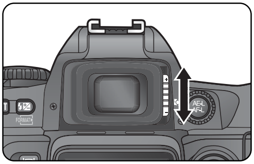
・マルチファンクションバッテリーパックMB-D100（別売）を装着すると、縦位置シャッターボタンの使用が可能になります。

視度調節レバーをスライドさせるときのご注意

ファインダーをのぞきながら視度調節レバーをスライドさせるとき、目に近い位置での操作となりますので、指先や爪で目を傷つけないように注意してください。

視度調節機能について

視度調節機能により、ファインダー内の像を見やすくできます。ファインダーをのぞきながら、ファインダー内のフォーカスフレーム、またはファインダー内表示が最もシャープに見える位置まで視度調節レバーをスライドさせます。

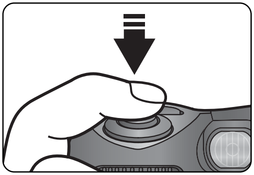


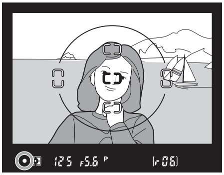
視度調節は－2～＋1m^{-1}（近視～遠視）の間で可能です。また、別売の接眼補助レンズは－5～＋3m^{-1}の間で9種類が用意されています（P.192）。

- 視度調節レバーは接眼目当てを取り外すと調節しやすくなります。接眼目当てを取り付ける場合は、文字面を下にした状態で取り付けてください。
- 接眼補助レンズを使用している場合、接眼目当ては使用できません。

ステップ4：ピントを合わせる

フォーカスモードが**S**（シングルAFサーボ）設定時は、シャッターボタンを半押しすると、選択したフォーカスエリア内の被写体にピントが合います。被写体をフォーカスフレームの中心に合わせて、シャッターボタンを半押ししてください。





ファインダー内 ピント表示	意味
● （点灯）	被写体にピントが合っています。
● （点滅）	オートフォーカスでピントを合わせることができません。

- 被写体が暗い場合は、AF補助光（P.74）を自動的に照射してピント合わせを行います。
- ピントを合わせたい被写体がフォーカスエリアから外れる構図で撮影する場合は、マルチセレクターでフォーカスエリアを選択し直すか（P.66）、フォーカスロック撮影（P.72）を行ってください。
- ピントを合わせることができない場合の対処方法については「オートフォーカスの苦手な被写体について」（P.75）をご覧ください。

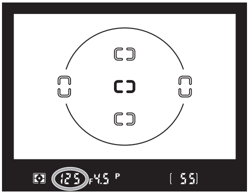
ファンクションダイヤル

ファンクションダイヤルを**P**、**S**、**A**または**M**にセットしている場合にのみシャッターがきれます。他のモードに設定されているときは撮影できません。

構図を決める際の注意

このファインダーで確認できる範囲（ファインダー視野率）は、実際に撮影される画面の上下、左右約95%です。したがって、ファインダーをのぞいて見た視野よりも、実際に撮影される画面は多少広くなります。

ステップ５：露出を確認する



露出モードが**P**（マルチプログラムオート）の場合、シャッターボタンを半押しすると、自動的にシャッタースピードと絞り値がセットされます。シャッターをきる前に、ファインダー内のシャッタースピード表示と絞り表示を確認してください。被写体が明るすぎる、または暗すぎる場合は、ファインダー内、表示パネルに以下の表示が点灯します。

表示	意味
HI	被写体が明るすぎます。ND（光量調節用）フィルターをご使用ください。
Lo	被写体が暗すぎます。スピードライトを使用してください。または、撮像感度を高く設定してください。

手ブレとシャッタースピードについて

手ブレを防ぐには、一般にシャッタースピードを「1/装着しているレンズの焦点距離」秒より高速にします。たとえば50mmレンズの場合、シャッタースピードを1/50秒より高速にすると手ブレをある程度防ぐことができます。シャッタースピードを低速にした場合は、三脚の使用をおすすめします。

CSM 3：感度の自動制御（P.154）

設定した撮像感度で適正露出が得られない場合、ISO200～1600の範囲で自動的に撮像感度を変更して適正露出を得る（もしくは適正露出に近づける）ことができます。

CSM 9：露出値のステップ幅の変更（P.158）

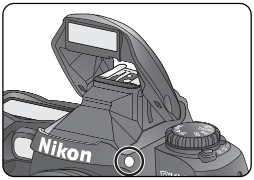
上面表示パネルとファインダー内表示に表示されるシャッタースピードと絞り値のステップを1/3段から1/2段に変更できます。

内蔵スピードライトを使用する

被写体が暗い、シャッタースピードが 1/60 秒より低速になる場合など、手ブレのおそれがある場合には、内蔵スピードライトを使用すると便利です。

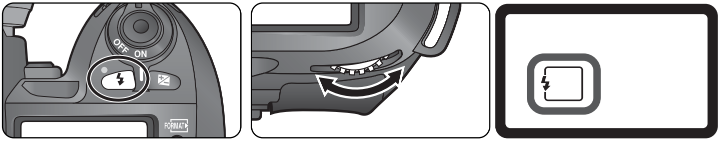
a. 内蔵スピードライトをセットする。

- 内蔵スピードライトロック解除ボタンを押して、スピードライトをポップアップさせせると充電が開始されます。



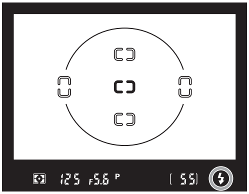
b. シンクロモードを選択する。

- シンクロモードボタン ⚡ を押しながらメインコマンドダイヤルを回し、先幕シンクロを選択します。



c. ファインダー内にレディライト ⚡ が点灯していることを確認する。

- スピードライトの充電が完了すると、ファインダー内表示にレディライト ⚡ が点灯します。
- スピードライトが上がっている状態でレディライト ⚡ が点灯していないときは撮影できません。しばらく待ってからもう一度レディライト ⚡ を確認してください。



スピードライトの収納

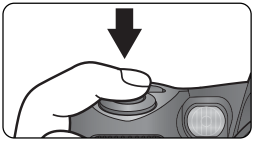
スピードライトを収納するときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げます（使用しないときはバッテリーの消耗を防ぐため、常に収納状態にしてください）。

被写体が暗い場合

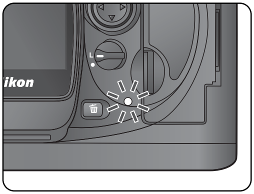
被写体が暗い場合やシャッタースピードが 1/60 秒より低速になる場合などは、手ブレのおそれがあるので撮像感度を上げるか、内蔵スピードライトを使用するか（P.104）、もしくは三脚の使用をおすすめします。

ステップ6：撮影する

シャッターボタンを下まで押し込むと、撮影できます。



撮影すると、コンパクトフラッシュカードに撮影した画像の記録が行われている間、コンパクトフラッシュカードアクセスランプが点灯します。点灯が消えるまで、カメラの電源スイッチをOFFにしたり、コンパクトフラッシュカード、バッテリーを取り出したり、ACアダプタEH-5（別売）を取り外したりしないでください。



撮影をする際のご注意

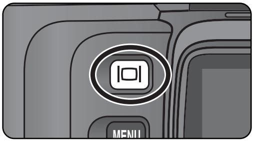
太陽を直接撮影するなど、高輝度被写体の撮影は避けてください。過度の光照射はCCDを劣化させる恐れがあります。また、その際撮影された画像には、真っ白くにじみが発生することがあります。

CSM 1：撮影時の撮影画像の確認（P.153）

撮影後、画像の記録中に撮影画像を液晶モニタに表示させる場合はモニタボタンを押します。また、カスタムセッティング1をONに設定すると、撮影画像は自動的に液晶モニタに表示されます。

基本的な再生

このカメラは、ワンタッチでコンパクトフラッシュカードに記録した画像を再生できます。撮影済みの画像を再生するにはモニタボタン [モニタ] を押します。最後に撮影した画像が液晶モニタに表示されます。



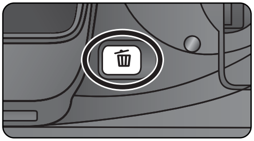


画像を選択する

- マルチセレクターの▲または▼を押すと、撮影画像のコマ送りができます。▲を押すと、現在表示されている画像の前に撮影した画像が、▼を押すと、後に撮影した画像が表示されます。マルチセレクターを押し続けると、画像を連続的にコマ送りで表示できます。
- 最後に撮影された画像が表示されている場合にマルチセレクターの▼を押すと、先頭画像を表示します。先頭画像を表示している場合に▲を押すと、最終画像を表示します。

不要な画像を削除する

- 削除する画像を表示させ、削除ボタン [削除] を押すと、表示中の画像を削除することができます。削除確認画面が表示されたら、マルチセレクターの▼を押して「**はい**」を選択して実行ボタン [ENTER] を押すと、表示中の画像が削除されて再生画面に戻ります。
- 削除確認画面で、「**いいえ**」を選択して実行ボタン [ENTER] を押すと、画像の削除をキャンセルできます。





撮影モードに戻る

- モニタボタン を押す、またはシャッターボタンを半押しすると、モニタの表示画面が消え、撮影可能状態になります。

画像の削除（P.128）

再生メニューの「**削除**」では、複数の画像を選択して削除したり、全画像を一括して削除することができます。

1：撮影時の撮影画像の確認（P.153）

カスタムセッティング1「**撮影画像確認**」をONに設定すると、モニタボタン を押さなくても、撮影した画像をコンパクトフラッシュカードに記録しながら自動的に液晶モニタに表示します。

6：液晶モニタのパワーオフ設定（P.157）

初期設定では、20秒間何も操作を行わないと、液晶モニタ表示は自動的にOFFになります。カスタムセッティング6を使用すると、自動的にOFFになるまでの時間を変更できます。

撮影機能の詳細

このカメラでは、撮影状況に合わせてさまざまな機能を撮影者自身で設定することができます。この章では、これらの機能の設定方法を説明します。

ここでは各機能を設定して撮影する場合の操作の流れを説明します。

1コマ撮影/連続撮影の設定をする。

画像の使用目的に合わせる。

撮影時の照明光に合わせる。

ピントを被写体に合わせる。

被写体の明るさを計測する。

シャッタースピードと絞り値を組み合わせる。

露出の微調整をする。

スピードライトを使用する。

セルフタイマーを使用する。

メニュー画面の表示方法

カメラの電源スイッチをONにセットした状態でメニューボタン MENU を押すとメニュー画面が表示されます。

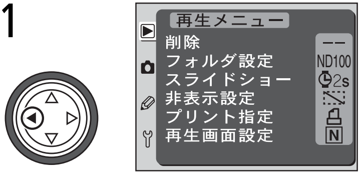




メニュー画面の選択

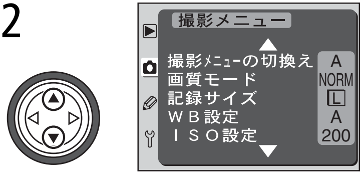
メニューボタン MENU を押すと、前回使用していたメニュー画面が表示されます。メニュー画面は次の方法で選択します。

1



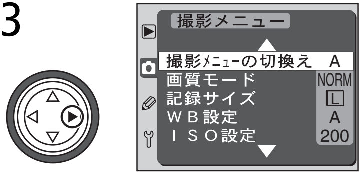
メニュー画面内のメニュー項目がすでに選択されている場合は、マルチセレクターの◀を押します。

2



マルチセレクターの▲または▼を操作して、使用するメニュー画面を選択します。

3



マルチセレクターの▶で選択したメニュー画面にカーソルを表示させます。

マルチセレクターの操作

液晶モニタが点灯している場合は、フォーカスエリアロックスイッチの設定位置に関係なく、マルチセレクターで上記の操作を行うことができます。

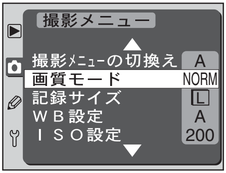
撮影機能の詳細

メニュー項目の実行

メニュー項目を実行する方法は次のとおりです。

1

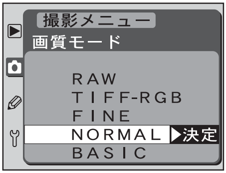




マルチセレクターの▲または▼を操作して、メニュー項目を選択します。

2

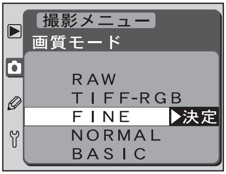




マルチセレクターの▶を押し、メニュー項目の詳細を表示させせます。

3





マルチセレクターの▲または▼を操作して、メニュー項目の詳細を選択します。

4





マルチセレクターの▶を押すと、選択を実行し、メニュー画面に戻ります。

- 撮影した画像をコンパクトフラッシュカードに記録している間は、設定できないメニュー項目があります。
- ファンクションダイヤルが**P**、**S**、**A**、**M**以外にセットされているときには設定できないメニュー項目があります。
- 選択をキャンセルする場合はマルチセレクターの◀またはメニューボタン MENU を押します。
- マルチセレクターの▶と実行ボタン ENTER は同じ機能ですので、どちらを押してもメニュー項目の実行ができます。マルチセレクターの▶が使用できない場合は、実行ボタン ENTER を使用してください。
- メニュー項目にはサブメニュー項目が表示される場合があります。この場合は、上記手順の３および４を繰り返して選択を完了してください。

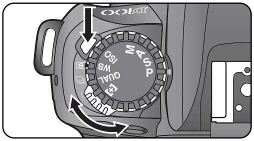
メニュー画面を終了するには

- メニュー画面表示中にメニューボタン MENU を押すと、メニュー画面が終了し、撮影モードに戻ります（メニュー項目がすでに選択されている場合はメニューボタン MENU を二度押すとメニュー画面が終了します）。
- モニタボタン を押して再生モードにするか、カメラの電源スイッチをOFFにした場合もメニュー画面を終了できます。
- メニュー画面表示中にシャッターボタンを半押しすると、メニュー画面を終了して撮影準備状態（撮影モード）に切り換わります。

撮影動作モード

撮影動作モードダイヤルにより、撮影動作を S（1コマ撮影）、（連続撮影）、（セルフタイマー撮影）から選択できます。

撮影動作モードを変更するには、撮影動作モードダイヤルロックボタンを押しながら、撮影動作モードダイヤルを回してセットします。撮影動作モードは、次のとおりです。

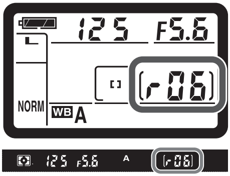


撮影動作モード	内容
S（1コマ撮影）	シャッターボタンを押すたびに1コマずつ撮影と記録が行われ、記録中はアクセスランプが点灯します。バッファメモリに空きがある場合は、すぐに次の撮影が可能です。
（連続撮影*）	シャッターボタンを押し続けると、約3コマ/秒で連続して撮影が行えます。動きのある被写体などに使用すると便利です。連続して撮影できるコマ数は6コマ（画質モードをRAWに設定した場合は4コマ）です。ノイズ除去設定時は3コマ（画質モードをRAWに設定した場合は2コマ）になります。また、コンパクトフラッシュカードへの記録が終わったコマ数分だけ、引き続き次の撮影が行えます。
（セルフタイマー撮影）	手ブレを軽減したい場合や撮影者自身も被写体として加わりたいような場合はセルフタイマー撮影が行えます（P.114）。

* 連続撮影速度は、フォーカスモード**M**、露出モード**M**、1/250秒以上の高速シャッタースピード、常温（20℃）での平均値です。

連続撮影可能コマ表示について

シャッターボタンを押し続けている間、または半押ししている間、連続撮影可能なコマ数が表示パネルとファインダー内に表示されます。連続撮影可能コマ数は、6から始まり、1コマずつカウントダウンします。ただし、コンパクトフラッシュカードの残りメモリ容量によっては、6コマより少なくなることもあります（S（1コマ撮影）モード時には、繰り返し撮影が可能なコマ数が表示されます）。

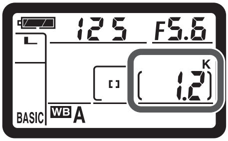


連続撮影時の記録時間

- 連続撮影終了直後にコンパクトフラッシュカードアクセスランプが点灯している間は、カメラ本体からコンパクトフラッシュカードを取り出さないでください。(6コマ連続撮影を行った場合、画質モード、記録サイズによっては、数秒から数分間アクセスランプが点灯します)。
- データ書き込み中にカメラ本体からコンパクトフラッシュカードを取り出すと、画像データが消失するだけでなく、カメラ本体とコンパクトフラッシュカードに不具合が生じるおそれがあります。
- コンパクトフラッシュカードアクセスランプ点灯中に電源スイッチをOFFにすると、**書き込み中の画像（1コマ）が記録されてから電源が切れますが、バッファメモリに保存されている書き込み動作待ちの画像データは消去されます。**また、連続撮影時にバッテリーの容量がなくなった場合は、新たな撮影動作は行われず、バッファメモリ内の画像データがコンパクトフラッシュカードに記録されて終了します。

撮影可能コマ数が 1,000 コマ以上の場合

撮影可能コマ数が1,000コマ以上の場合は、撮影可能コマ数表示は10の位が切り捨てられ、1,000コマ以上補助表示により表示されます。たとえば、約1,260コマ撮影可能な場合は、「1.2K」と表示されます。



各画質モードでの撮影可能コマ数表示について

表示パネルやファインダー内に表示される撮影可能コマ数は、おおよその目安です。画質モードでRAW圧縮やFINE/NORMAL/BASICの圧縮記録を設定した場合は、撮影条件によりファイルサイズが異なるため、撮影コマ数が増減します。

画質モードと記録サイズ

撮影された画像のファイルサイズは、画質モードと記録サイズによって決定されます。そのため、コンパクトフラッシュカードに記録できる画像の数は画質モードと記録サイズの組み合わせによって変化します。96MBのコンパクトフラッシュカードで撮影できるコマ数は、それぞれの設定で以下のようになります。

画質モード		記録サイズ	1コマあたりのファイル容量	撮影可能コマ数*	記録時間（秒）**
RAW	非圧縮	–	約9.4MB	約9コマ	約66（4コマ）
RAW	圧縮	–	***	****	約178（4コマ）
TIFF-RGB		L	約17.3MB	約5コマ	約217（5コマ）
TIFF-RGB		M	約9.5MB	約9コマ	約147（6コマ）
TIFF-RGB		S	約4.3MB	約20コマ	約67（6コマ）
FINE		L	約2.9MB	約28コマ	約30（6コマ）
FINE		M	約1.6MB	約50コマ	約18（6コマ）
FINE		S	約770KB	約106コマ	約9（6コマ）
NORMAL		L	約1.5MB	約55コマ	約21（6コマ）
NORMAL		M	約850KB	約97コマ	約11（6コマ）
NORMAL		S	約410KB	約198コマ	約6（6コマ）
BASIC		L	約770KB	約106コマ	約10（6コマ）
BASIC		M	約440KB	約181コマ	約8（6コマ）
BASIC		S	約220KB	約349コマ	約5（6コマ）

* 撮影条件により、撮影可能コマ数は増減します。

** バッファメモリが一杯になるまで撮影した場合に、すべての記録が終了するまでの時間です（ご使用のコンパクトフラッシュカードにより、記録時間は異なります）。

*** RAW（非圧縮）に対して約50%～60%のファイルサイズになります。

**** 連続撮影可能コマ数表示部に表示される撮影可能コマ数は、撮影開始時はRAWの非圧縮に設定した場合と同じコマ数で表示されますが、RAWの非圧縮よりもファイルサイズが小さいため、撮影を行うとコマ数の減少が少なくなり、実際の撮影可能コマ数は撮影開始時よりも多くなります。

画質モード

画像を記録する際の画質を選択します。RAWの画質が一番高く、以下の順に画質は低くなります。

項目	内容
RAW	CCD（撮像素子）からの生出力を12bitのデータで記録します。復元には、Nikon View 5またはNikon Capture 3（P.181）が必要です。RAWには非圧縮RAWと圧縮RAWがあります。 • **非圧縮RAW** 圧縮せずに記録します。 • **圧縮RAW** ロスレス圧縮で記録されます。ロスレス圧縮は、見た目の画質を損なうことなく、RAWの非圧縮記録に対して約50～60%のファイルサイズで保存することができます。非圧縮RAWと比較して記録に時間がかかります（P.43）。
TIFF-RGB	画像を8bit非圧縮のTIFF-RGB形式で記録します。多くの画像アプリケーションで復元できます。
FINE	画像データを約1/4のJPEG圧縮で記録します。
NORMAL	画像データを約1/8のJPEG圧縮で記録します。
BASIC	画像データを約1/16のJPEG圧縮で記録します。

ファイル名について

このカメラで撮影された画像はDSC_nnnn.xxxという名称が付きます。nnnnには0001～9999までの数字が、xxxには選択した画質モードの拡張子が入ります。拡張子は次のとおりです。RAWの場合：.NEF、TIFF-RGB の場合：.TIF、FINE/NORMAL/BASICの場合：.JPGとなります。

RAW画像とホワイトバランスブラケティングの組み合わせについて

画質モードを「RAW」に設定すると、ホワイトバランスブラケティングの設定はできません。また、ホワイトバランスブラケティング設定時に画質モードを「RAW」に設定するとホワイトバランスブラケティングの設定が解除されます。

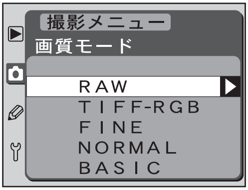
画質モードの設定には、撮影メニューの「**画質モード**」で設定する方法、およびファンクションダイヤルとメインコマンドダイヤルで設定する方法があります。

撮影メニューの「画質モード」で設定する場合

- 撮影メニュー画面の「**画質モード**」(P.141)を選択して、マルチセレクターの▶を押します。



- 画質モード選択画面が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定する画質モードを選択します。マルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になり、撮影メニュー画面に戻ります。



- 「**RAW**」を選択した場合、マルチセレクターの▶を押すと、RAWモード指定画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、「**非圧縮RAW**」または「**圧縮RAW**」を選択します。マルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になり、撮影メニュー画面に戻ります。

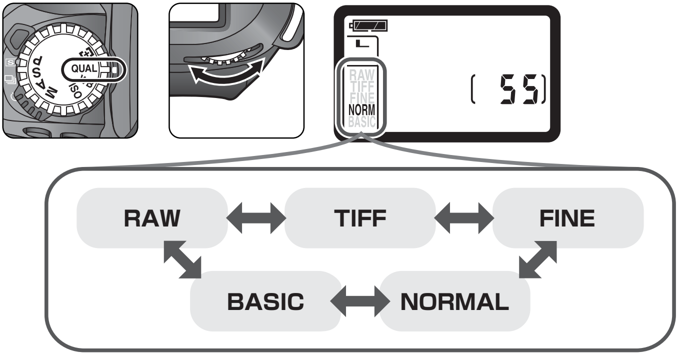


ファンクションダイヤルを **QUAL** にセットしている場合の注意

- ファンクションダイヤルを**QUAL**にセットしている場合は撮影できません。撮影はファンクションダイヤルが**P**、**S**、**A**、**M**のいずれかの露出モードにセットされている場合のみ可能です。
- ファンクションダイヤルを **QUAL** にセットしている場合、撮影メニュー画面の「**撮影メニューの切換え**」、「**画質モード**」、「**記録サイズ**」、「**WB設定**」、「**ISO設定**」は選択できません。

ファンクションダイヤルとメインコマンドダイヤルで設定する場合

ファンクションダイヤルを**QUAL**にセットし、メインコマンドダイヤルを回して使用する画質モードを表示パネルに表示させます。ただし、RAWの場合は非圧縮と圧縮の選択はできません。RAWの非圧縮と圧縮を選択する場合は、撮影メニューの「**画質モード**」で設定してください。



記録サイズ

画像を記録する際のサイズ（大きさ）を選択します。D100では、次の３種類の選択が可能です。一般的に記録サイズが大きければ、大きいサイズでの出力（プリント）が可能になります。

記録サイズ	内容	出力サイズ*
L	画像を3008 × 2000ピクセルで記録します。	A3
M	画像を2240 × 1488ピクセルで記録します。	A4
S	画像を1504 × 1000ピクセルで記録します。	A5

*　200dpiの解像度でプリントした場合のおおよそのサイズです。

ファンクションダイヤルを **QUAL** にセットしている場合のご注意

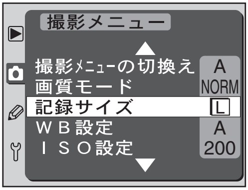
- ファンクションダイヤルを**QUAL**にセットしている場合は撮影できません。撮影はファンクションダイヤルが **P**、**S**、**A**、**M**のいずれかの露出モードにセットされている場合のみ可能です。
- ファンクションダイヤルを **QUAL** にセットしている場合、撮影メニュー画面の「**撮影メニューの切換え**」、「**画質モード**」、「**記録サイズ**」、「**WB設定**」、「**ISO設定**」は選択できません。

記録サイズの設定には、撮影メニューの「**記録サイズ**」で設定する方法、およびファンクションダイヤルとサブコマンドダイヤルで設定する方法があります。

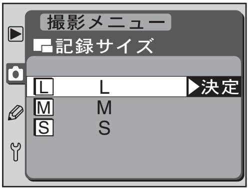
- 画質モードでRAWを選択した場合は、記録サイズの設定ができません。RAWで保存した画像をNikon View 5、Nikon Capture 3で復元する場合は、3008×2000ピクセルサイズになります。

撮影メニューの「記録サイズ」で設定する場合

- 撮影メニュー画面の「**記録サイズ**」(P.142)を選択して、マルチセレクターの▶を押します。

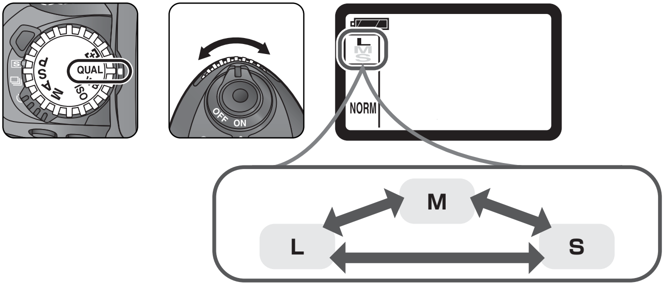


- 記録サイズ選択画面が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定する記録サイズを選択します。マルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になり、撮影メニュー画面に戻ります。



ファンクションダイヤルとサブコマンドダイヤルで設定する場合

ファンクションダイヤルを**QUAL**にセットし、サブコマンドダイヤルを回して使用する記録サイズを表示パネルに表示させます。



撮像感度

撮像感度を標準（ISO200相当）よりも高く設定することができ、暗いところでの撮影にも対応します。

撮像感度はISO200～1600相当の間で1/3段ステップで設定できます。また、露出不足になりやすい暗い場所での撮影や、シャッタースピードを重視したナイタースポーツの撮影では、撮像感度をISO1600相当に対してさらに約1段、または約2段増感できます。増感を行った状態では、表示パネルに撮像感度表示のかわりにHI-1（およそISO3200相当）またはHI-2（およそISO6400相当）が表示されます。

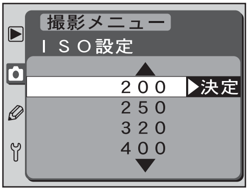
撮像感度の設定には、撮影メニューの「**ISO設定**」で設定する方法、およびファンクションダイヤルとメインコマンドダイヤルで設定する方法があります。

撮影メニューの「ISO設定」で設定する場合

- 撮影メニュー画面で「**ISO設定**」(P.144）を選択して、マルチセレクターの▶を押します。



- ISO設定選択画面が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定する撮像感度を選択します。マルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になり、撮影メニュー画面に戻ります。

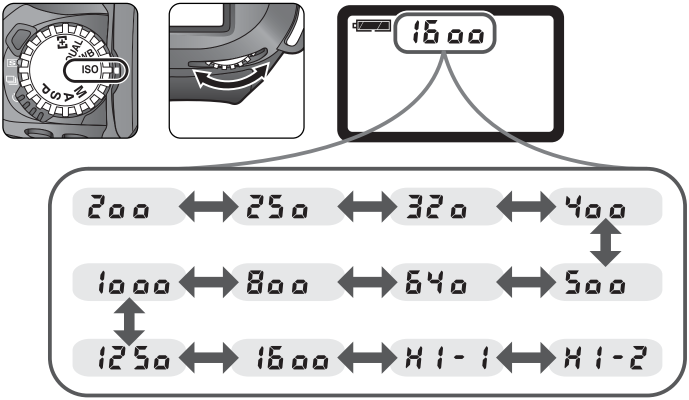


高感度に設定した場合

撮像感度を高く設定すると、低く設定したときに比べて、多少ザラついた画像になることがあります。特に、約1段増感（HI-1、およそISO3200相当）、または約2段増感（HI-2、およそISO6400相当）した設定では、撮影した画像上にザラつきが発生する傾向が強くなります。

ファンクションダイヤルとメインコマンドダイヤルで設定する場合

ファンクションダイヤルを**ISO**にセットし、メインコマンドダイヤルを回して希望する撮像感度を表示パネルに表示させます。



ファンクションダイヤルを **ISO** にセットしている場合のご注意

- ファンクションダイヤルを**ISO**にセットしている場合は撮影できません。撮影はファンクションダイヤルが**P**、**S**、**A**、**M**のいずれかの露出モードにセットされている場合のみ可能です。
- ファンクションダイヤルを**ISO**にセットしている場合、撮影メニュー画面の「**撮影メニューの切換え**」、「**画質モード**」、「**記録サイズ**」、「**WB設定**」、「**ISO設定**」は選択できません。

CSM 3：感度の自動制御（P.154）

設定した撮像感度で適正露出が得られない場合、ISO200～1600の範囲で自動的に撮像感度を変更して適正露出を得る（もしくは適正露出に近づける）ことができます。ただし、増感時（HI-1 または HI-2 設定時）は、カスタムセッティング3「**感度の自動制御**」をONに設定できません。また、カスタムセッティング3「**感度の自動制御**」をONに設定している場合は、HI-1、HI-2 を選択できません。なお、スピードライト使用時には、感度自動制御は機能せず、設定撮影感度での撮影となります。

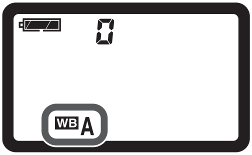
ホワイトバランス

人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。これに対してデジタルカメラでは、照明光の色に合わせてバランス調整を行うことにより、白い被写体が白に見えるようになります。この調整を、ホワイトバランスを合わせるといいます。D100で設定できるホワイトバランスは次の通りです。

ホワイトバランス	設定される色温度	内容
A オート	約4000～8000K	撮影した画像から色温度を測り、カメラが自動的に調節します。**A**（オート）で十分な効果を得るには、GまたはDタイプレンズのご使用をおすすめします。
電球	約3000K	白熱電球下での撮影に適しています。
蛍光灯	約4200K	白色蛍光灯下での撮影に適しています。
晴天	約5200K	晴れの日の順光での撮影に適しています。
スピードライト	約5400K	ニコン製スピードライト、特に内蔵スピードライト撮影に適しています。
曇天	約6000K	曇りの日の撮影に適しています。
晴天日陰	約8000K	晴れの日の日陰での撮影に適しています。
PRE プリセット	—	撮影者が被写体を基準にホワイトバランスを合わせることができます（P.56）。

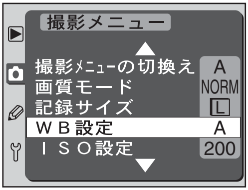
- ほとんどの場合は**A**（オート）で撮影できますが、**A**（オート）では対応できない場合や、特定の照明光に固定したい場合は、適応するホワイトバランスを表から選択してセットします。また、「**ホワイトバランスの微調整**」（P.53）（プリセットモード時を除く）や、撮影者自身がホワイトバランスをセットする「**プリセットホワイトバランス**」（P.56）も使用可能です。
- このカメラは、ホワイトバランスの設定にTTL方式を採用しています。オートモード時、プリセットモード時にカメラと被写体とが異なる照明下にある場合でも、被写体に対する正確なホワイトバランスが設定できます。
- アクセサリーシューにAS-15を装着してスタジオ用ストロボを使用する場合は、**A**（オート）に設定していても適正なホワイトバランスが得られない場合があります。その場合は、スピードライトモードにして微調整を行うか、プリセットホワイトバランスをご使用ください。

ホワイトバランスの設定には、撮影メニューの「**WB設定**」で設定する方法、およびファンクションダイヤルとメインコマンドダイヤルで設定する方法があります。いずれの場合も、設定されたホワイトバランスのアイコンが表示パネルに表示されます。

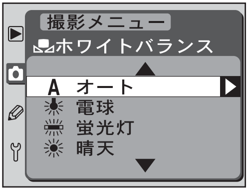


撮影メニューの「WB設定」で設定する場合

- 撮影メニュー画面の「**WB設定**」(P.143)を選択して、マルチセレクターの▶を押します。

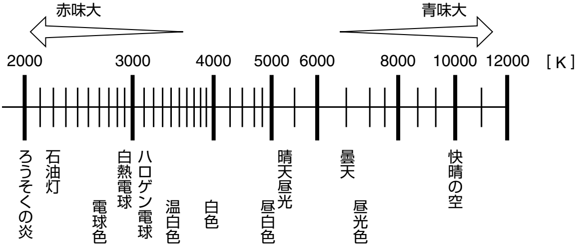


- ホワイトバランス選択画面が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定するホワイトバランスを選択します。**PRE**(プリセット)を選択した場合は、**PRE** プリセット画面が表示されます(P.56)。それ以外のモードを選択した場合は、ホワイトバランスの微調整を設定する画面が表示され、微調整値を決定すると、設定が有効となります(P.53)。



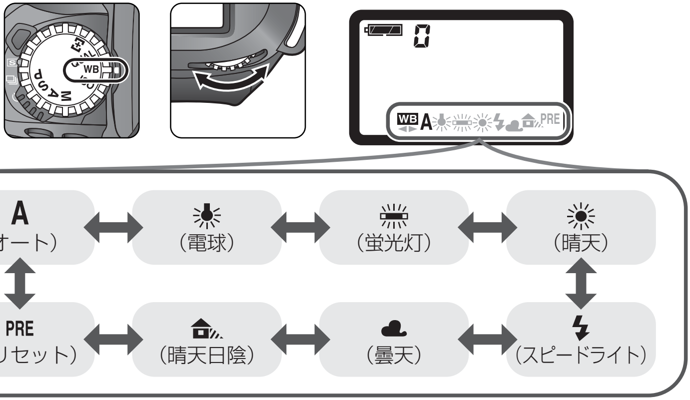
色温度について

光の色には、赤味を帯びたものや青味を帯びたものがあり、人間の主観で光の色を表すと、見る人によって微妙に異なってしまいます。そこで、光の色を絶対温度(K：ケルビン)という客観的な数字で表したのが色温度です。下図のように色温度が低くなるほど赤味を帯びた光色になり、色温度が高くなるほど青味を帯びた光色になります。



ファンクションダイヤルとメインコマンドダイヤルで設定する場合

ファンクションダイヤルを**WB**にセットし、メインコマンドダイヤルを回して希望するホワイトバランスのマークを選択します。



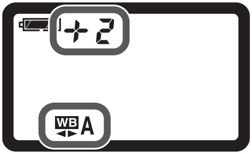
ファンクションダイヤルを **WB** にセットしている場合の注意

- ファンクションダイヤルを**WB**にセットしている場合は撮影できません。撮影はファンクションダイヤルが**P**、**S**、**A**、**M**のいずれかの露出モードにセットされている場合のみ可能です。
- ファンクションダイヤルを**WB**にセットしている場合、撮影メニュー画面の「**撮影メニューの切換え**」、「**画質モード**」、「**記録サイズ**」、「**WB設定**」、「**ISO設定**」は選択できません。

ホワイトバランスブラケティング

カスタムセッティング11「**ブラケティングのセット**」(P.159)で「**WBブラケティング**」を選択すると、設定したホワイトバランスに対して、自動的に調整量を変化させながら複数の画像を記録することが可能です。詳しくは「ブラケティング」(P.93)をご覧ください。

ホワイトバランスの微調整



P.51～52の操作でホワイトバランスを PRE（プリセット）以外を選択した場合は、さらに微調整を行うことができます。ホワイトバランスの微調整は撮影メニューの「**WB設定**」、もしくはファンクションダイヤルとサブコマンドダイヤルで行います。いずれの場合も、微調整値が 0 以外に設定されると表示パネルにホワイトバランス微調整表示 ◄► が点灯します。

- 調整範囲は１段ステップで±３段です。
- １段は約10ミレッドに相当します。設定される色温度は光源の種類によって異なります。
- 「−」方向に微調整を行った場合は画像が赤味がかり、「＋」方向に微調整を行った場合は画像が青味がかります。

ミレッド（MIRED）について

色温度の逆数を百万倍（10^6）したものです。色温度は、同じ色温度差でも、色温度の低い場合では色の変化が大きく、色温度の高い場合では、色の変化が小さくなります。たとえば同じ100ケルビンの違いでも6000ケルビン付近では変化はほとんどありませんが、3000ケルビン付近では100ケルビンの違いで光色が大きく変わります。ミレッドは、その変化幅をほぼ同じに表現する尺度であり、色温度補正フィルターの単位としても利用されます。

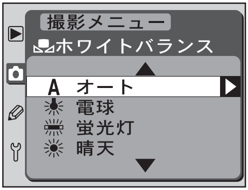
例）　色温度の差（K：ケルビン）　：ミレッドの差（M：ミレッド）

4000K－3000K＝1000 K　：　83 M

7000K－6000K＝1000 K　：　23 M

撮影メニューの「WB 設定」で設定する場合

- 撮影メニュー画面の「**WB 設定**」(P.143) を選択して、マルチセレクターの▶を押し、**PRE**(プリセット) 以外の希望するホワイトバランスを選択してマルチセレクターの▶を押すと、微調整画面が表示されます。

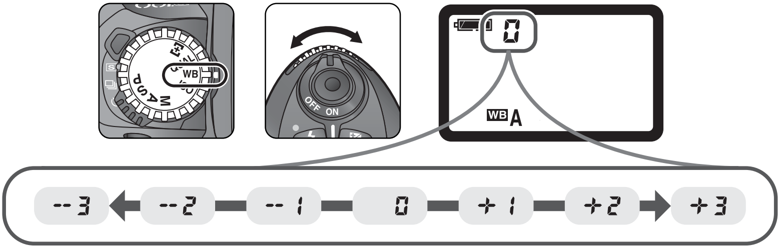


- マルチセレクターの▲または▼で設定する微調整量を－3～3の範囲で選択してマルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になり、撮影メニュー画面に戻ります。



ファンクションダイヤルとサブコマンドダイヤルで設定する場合

ファンクションダイヤルを**WB**にセットし、サブコマンドダイヤルを回して希望するホワイトバランスの微調整量を表示パネルに表示させます。



ホワイトバランスの微調整について

ホワイトバランスの**A**（オート）以外の各ホワイトバランスで微調整を行うと、設定色温度は次のように変化します。

	設定色温度					
	電球	蛍光灯※	晴天（自然光）	スピードライト	曇天（自然光）	晴天日陰（自然光）
＋3	約2700K	約2700K	約4800K	約4800K	約5400K	約6700K
＋2	約2800K	約3000K	約4900K	約5000K	約5600K	約7100K
＋1	約2900K	約3700K	約5000K	約5200K	約5800K	約7500K
±0	約3000K	約4200K	約5200K	約5400K	約6000K	約8000K
－1	約3100K	約5000K	約5300K	約5600K	約6200K	約8400K
－2	約3200K	約6500K	約5400K	約5800K	約6400K	約8800K
－3	約3300K	約7200K	約5600K	約6000K	約6600K	約9200K

※ 蛍光灯モードの場合、他のモードと異なり多様な蛍光灯に対して以下のように選択できます。

調整	色温度	適した蛍光灯
＋3	約2700K	野球場、体育館などのナトリウム灯の混合光など
＋2	約3000K	電球色蛍光灯
＋1	約3700K	温白色蛍光灯
0	約4200K	白色蛍光灯
－1	約5000K	昼白色蛍光灯
－2	約6500K	昼光色蛍光灯
－3	約7200K	高色温度の水銀灯など

- 写真用カラーメータで測定した色温度値とカメラの設定色温度は異なる場合があります。

プリセットホワイトバランス

プリセットホワイトバランスは、カクテル照明や特殊照明下で、撮影者の好みに合わせてホワイトバランスのプリセットデータを取得するときに使います。

プリセットデータ取得時の露出モード設定

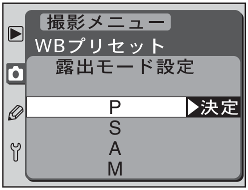
- 撮影メニュー画面の「**WB設定**」(P.143)を選択してマルチセレクターの▶を押し、PRE(プリセット)を選択した後、再度▶を押すと、PREプリセット画面が表示されます。



- マルチセレクターの▼を押して「**露出モード**」を選択し、▶を押すと、露出モード設定画面が表示されます。



- マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、プリセットホワイトバランスに使用する露出モードを選択します。▶を押すと、設定が有効になり、PREプリセット画面に戻ります。



- PREプリセット画面で「**設定終了**」を選択して、▶を押すと、撮影メニュー画面に戻ります。



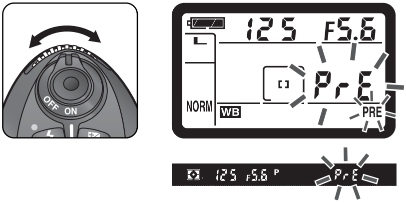
プリセットデータの取得

1 プリセットホワイトバランスをセットする照明下で、白またはグレー（無彩色）の被写体を用意します。

2 ファンクションダイヤルを**WB**にセットします。プリセットホワイトバランスが選択されていない場合は、表示パネルに **PRE** が表示されるまでメインコマンドダイヤルを回してください。画面はプリセットモードになります。



3 サブコマンドダイヤルを回します。撮影可能コマ数表示部の Pr-E の文字と **PRE** のアイコンが表示パネルに点滅し、画面はプリセット取得モードになります。



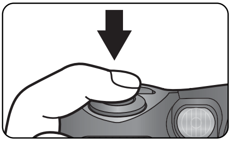
プリセットデータ取得時の露出について

プリセットデータを取得する場合、より正確なデータを得るために、通常の露出より光量を多く取り込みます。露出モードを**M**（マニュアル）に設定する場合は、露出インジケータを確認して、適正露出になるように設定してください。

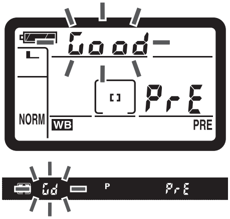
4 露出値を設定します。

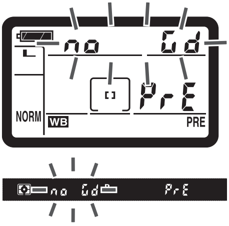
- この時の露出モードは、「プリセットデータ取得時の露出モード設定」（ P.56）で設定したモードになります。
- 露出レベルが極端にアンダーまたはオーバーの状態では、最適なプリセットホワイトバランスがセットできないことがありますのでご注意ください。
- スタジオ用ストロボにてプリセットホワイトバランスをセットする場合は、被写体をグレー（18%標準反射板）にすることをおすすめします。また、白い被写体でセットする場合は、白い被写体を撮影した結果がグレーになるような露出値をカメラ側で設定してください。

5 プリセット取得モードで、撮影する照明下でファインダーいっぱいに白またはグレー（無彩色）の被写体をとらえてシャッターボタンを押すと、その被写体をもとにプリセットホワイトバランスがセットされ、カメラに記憶されます。



- フォーカスモードは**M**（マニュアルフォーカス）にセットして手動でピントを合わせてください。シングルAFサーボ（AF-S）（ P.65）では白またはグレーの被写体にピントを合わせることができず、シャッターがきれないことがあります。
- プリセットデータが取得されると、表示パネルのシャッタースピード表示部に Good の文字が、ファインダー内のシャッタースピード表示部に Gdの文字が点滅します。このとき、半押しタイマー（ P.17）のオフまたはシャッターボタンの半押しで、プリセット取得モードが終了します。





- カメラがプリセットデータを取得できない場合は、表示パネルおよびファインダー内のシャッタースピード表示部/絞り値表示部に no Gd の文字が点滅します。この場合、以下の方法でプリセット取得モードにしてから、露出レベルが極端にアンダー、またはオーバーにならないように設定し直してください。
  - no Gd が点滅中の場合：シャッターボタンを半押しすると、プリセット取得モード（手順3）に戻ります。
  - 半押しタイマーがオフになった場合：プリセットモード（手順2）に戻ります。サブコマンドダイヤルを回すと、プリセット取得モードになります。
- プリセットホワイトバランスをセットするためにシャッターボタンを押しても、コンパクトフラッシュカードへの画像の記録は行われません。
- 取得したプリセットデータは、ホワイトバランスを **PRE**（プリセット）に設定して撮影した場合に適用されます。再度プリセットホワイトバランスをセットすると以前のプリセット値は上書きされます。
- プリセットホワイトバランスのセットが完了するまでに半押しタイマーがオフになった場合は、再度手順3のプリセット取得モード（P.57）に戻り、設定し直してください。

プリセットデータを取得する場合のご注意

プリセットデータは、撮影した画像の記録が終了した後（コンパクトフラッシュカードアクセスランプが消灯した後）に取得してください。画像の記録中にプリセット取得モードになった場合、プリセットの結果が出るまでに時間がかかる場合があります。

7：半押しタイマーの作動時間の変更（P.157）

半押しタイマーがオフになるまでの時間を、4秒、6秒、8秒、16秒、30分のいずれかに設定できます（半押しタイマーの作動時間を短く設定すると、バッテリーの消耗を抑えることができます）。

画像の調整

輪郭強調

撮影シーンや好みに応じて、記録する画像の輪郭（シャープネス）を設定します。輪郭（シャープネス）を強調する度合いを意図的に調整できます。

設定	内容
A　オート（初期設定）	撮影した画像から、最適な輪郭をカメラが自動的に調整します（調整は画像によって異なります）。**A**（オート）を十分に活用するために、GまたはDタイプレンズのご使用をおすすめします。
ノーマル	標準的なレベルで輪郭強調を行います。
弱	輪郭強調の度合いはノーマルよりも弱くなります。
強	輪郭強調の度合いはノーマルよりも強くなります。
しない	輪郭強調を行いません。

輪郭強調の設定は撮影メニューの「**輪郭強調**」で行います。

- 撮影メニュー画面で「**輪郭強調**」（P.145）を選択して、マルチセレクターの▶を押します。



- 輪郭強調選択画面が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定する輪郭強調を選択します。マルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になり、撮影メニュー画面に戻ります。



階調補正

記録する画像のコントラストを設定します。撮影シーンや好みに応じて次のいずれかに変更できます。

設定		内容
A	オート（初期設定）	撮影した画像から、最適なガンマカーブをカメラが自動的に選択します（ガンマカーブの選択は画像によって異なります）。**A**（オート）を十分に活用するために、GまたはDタイプレンズのご使用をおすすめします。
◑0	ノーマル	標準的なガンマカーブです。暗いシーンから明るいシーンまで、さまざまな撮影状況を再現します。
◑−	コントラストLow	軟調な画像に仕上げるガンマカーブです。晴天時の人物撮影など、顔などの白飛びが気になる場合などに適しています。
◑+	コントラストHigh	硬調な画像に仕上げるガンマカーブです。霞んだ遠景を撮影する場合などに適しています。
◑✎	ユーザーカスタム※	Nikon Capture 3（別売）でユーザー定義し、カメラにダウンロードしたガンマカーブを使用します。出荷時のガンマカーブはノーマルに設定されています。

※ユーザーカスタムは、Nikon Capture 3のカメラコントロール機能を使って定義したガンマカーブをD100にダウンロードできます。Mac OSでダウンロードする場合は、Nikon Capture 3 ver. 3.5以降が必要となります。

ガンマカーブについて

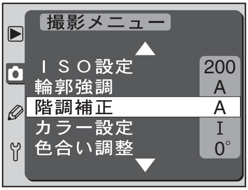
被写体の輝度の対数値を横軸に、再生画像の輝度の対数値を縦軸にとって出力特性を表わした場合、出力特性曲線の傾斜角をθとして、tan θをガンマ（γ）といいます。被写体の輝度が忠実に再生される場合、つまり横軸（入力）1の増域に対して縦軸（出力）も1だけ増域するような場合はグラフ上傾斜角45度の直線となり、tan45°=1 でガンマは1となります。ガンマが1以上の場合は、傾斜角度は45度以上となります。つまり、被写体コントラスト以上にコントラストの強い「硬い」出力画調になり、逆にガンマ1以下の場合はコントラストの少ないフラットな「軟らかい」出力画調になることを意味します。つまり、ガンマは画像再生時の画調の硬さの度合いを示すものです。

階調補正についてのご注意

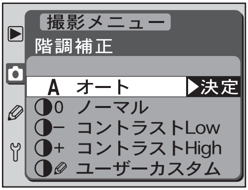
階調補正を**A**（オート）に設定して撮影する場合、撮影画像を使用して最適なガンマカーブを適用します。同じようなシーンを撮影する場合でも、被写体の位置、大きさ、または露出が変わると、適用されるガンマカーブが変化することがあります。ガンマカーブを固定して撮影したい場合には、**A**（オート）以外の設定を選択することをおすすめします。

階調補正の設定は撮影メニューの「**階調補正**」で行います。

- 撮影メニュー画面で「**階調補正**」(P.146) を選択して、マルチセレクターの▶を押します。



- 階調補正選択画面が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定する階調補正を選択します。マルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になり、撮影メニュー画面に戻ります。



カラー設定

記録する画像の色再現を設定します。フィルムカメラでは好みの色調に応じてフィルムを選択しますが、D100では、カラーモードの選択により色相、彩度、色域を特徴づけることができます。

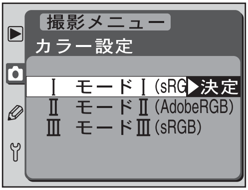
	設定	内容
Ⅰ	モードI (sRGB)（初期設定）	sRGB 色空間に最適化したモードで、記憶色を重視した色再現です。画像処理等を行わなくても記憶色（特に肌色）をきれいに再現します。
Ⅱ	モードII (Adobe RGB)	AdobeRGB色空間に最適化したモードで、素材性を重視した色再現です。sRGBに比べて色域が広いため、画像処理のしやすい画像が得られます。撮影した画像を積極的に調整、加工する場合に最適です。
Ⅲ	モードIII (sRGB)	sRGB色空間に最適化したモードで、特に風景撮影などに適した色再現です。このモードは、画像処理を行わなくてもきれいに再現します。

カラー設定は撮影メニューの「**カラー設定**」で行います。

- 撮影メニュー画面で「**カラー設定**」(P.147)を選択して、マルチセレクターの▶を押します。



- カラー設定選択画面が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定するカラー設定を選択します。マルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になり、撮影メニュー画面に戻ります。



カラーモードについてのご注意

- カラーマネジメント機能を持たないアプリケーションで画像を開く場合、または印刷する場合には、モードIまたはモードIII をおすすめします。
- モードII の画像にはICC プロファイルが埋め込まれています。Adobe Photoshop などのカラーマネジメント機能を持ったアプリケーションで画像を開く場合、自動的に正しい色空間を設定することができます。詳細については、アプリケーションの説明書をご覧ください。
- モードII の画像は Exif や DCF をベースに記録していますが、厳密には Exif、DCF とも異なっています。ExifPrint、市販プリンタなどのダイレクトプリント、Exif/DCF 対応のカメラや機器による画像再生、キオスク端末プリント、およびプリントサービスなどでプリントする場合、モードIまたはモードIII をおすすめします。
- モードIIで記録した画像でも、市販プリンタなどのダイレクトプリント、キオスク端末プリント、およびプリントサービスで印刷できることは確認していますが、彩度の低下する場合があります。

色合い調整

記録する画像に対して色相の調整が可能です。色合い調整の数値は約−9°〜約9°（1ステップ約3°）の7段階で、0°が初期設定です。肌色を基準とした場合、＋側に数値を高くすると黄色みが増し、−側に数値を低くすると赤みが増します。他の色の場合、調節の度合いにより多少変化することがあります。

色合い調整の設定は撮影メニューの「**色合い調整**」で行います。

- 撮影メニュー画面で「**色合い調整**」(P.148)を選択して、マルチセレクターの▶を押します。



- 色合い調整選択画面が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定する色合いを選択します。マルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になり、撮影メニュー画面に戻ります。



色相とは

色の3原色（赤、緑、青）のうち、2色の光を組み合わせると、さまざまな色を作り出すことができます。例えば、赤い光と緑の光の分量を変えて混ぜ合わせた場合の色の変化を見ると、次のようになります。

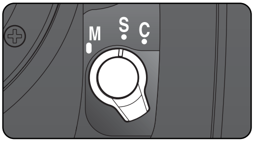
赤の光のみ	赤の光多め	赤と緑が同量	緑の光多め	緑の光のみ
赤	オレンジ色	黄色	黄緑色	緑色

同様に、赤の光と青の光を混ぜ合わせた場合は、赤紫色〜ピンク色〜紺色に変化します。また、緑の光と青い光を混ぜ合わせた場合は、エメラルド色〜水色と変化します。これらの色を順番に環状に並べたものを色相、あるいは色相環といいます。
2色以外の3番目の色を混ぜ合わせると、だんだんと色が薄くなっていきます。3つ色が同量になると、色はなくなって無彩色となり、白またはグレーになります。

フォーカス

フォーカスモード、フォーカスエリア、AFエリアモードを設定することにより、カメラのフォーカス（ピント合わせ）機能をコントロールします。

フォーカスモード



フォーカスモードセレクトダイヤルを **S**（シングルAFサーボ）、または **C**（コンティニュアスAFサーボ）にセットして、シャッターボタンの半押しを続けると、フォーカスエリア内の被写体に自動的にピントを合わせます。また、**M**（マニュアルフォーカス）にセットして、撮影者自身がレンズの距離リングを回してピントを合わせることもできます。

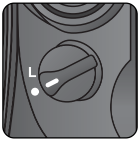
フォーカスモード	内容
S シングルAFサーボ （AF-S・フォーカス優先モード）	ファインダー内のピント表示●が点灯しているときのみシャッターがきれるフォーカス優先モードです。ピント表示●が点灯した状態でシャッターボタンの半押しを続けると、ピントはそこで固定（フォーカスロック）されます。ただし、被写体が初めから動いている場合には予測駆動フォーカス（ P.68）に切り換わり、被写体の動きに応じてピントを追い続け、ピントが合っているとカメラが判断するとシャッターはきれます。シャッターをきる前に被写体が静止した場合は、ピント表示●が点灯して、ピントはそこでロックされます。
C コンティニュアスAFサーボ （AF-C・レリーズ優先モード）	ファインダー内のピント表示●の点灯/消灯にかかわらず、いつでもシャッターをきることができるレリーズ優先のモードです。いったんピント表示●が点灯してもフォーカスロックは行われず、シャッターをきるまでピント合わせの動作を続けます。また、シャッターボタンの半押しを続けると、被写体が動いている場合には予測駆動フォーカス（ P.68）に切り換わり、被写体の動きに応じてピントを追い続けます。
M マニュアルフォーカス	撮影者自身がレンズの距離リングを回してピントを合わせるモードです。開放絞り値がf/5.6よりも明るいレンズを装着すると、ファインダー内のピント表示●によって合焦状態を確認できる「フォーカスエイドによるピント合わせ」（ P.77）が行えます。また、フォーカス表示の点灯/消灯にかかわらず、いつでもシャッターをきることができます。

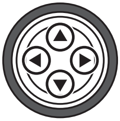
ピント合わせ重視の場合は**S**（シングルAFサーボ）に、動きのある被写体を撮影する場合は**C**（コンティニュアスAFサーボ）に、オートフォーカスに対応していないレンズを使用している場合や、オートフォーカスでピント合わせができない場合は**M**（マニュアルフォーカス）にセットしてください。

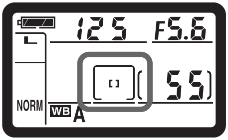
フォーカスエリアの選択

このカメラには、撮影画面内の広い範囲をカバーする5つのフォーカスフレームがあります。撮影時には、被写体の位置や構図に合わせてフォーカスエリアの位置を選択できますので、被写体の状況によっては撮影したい構図のままピント合わせが行え、フォーカスロック（P.72）の手間を省くことができます。ただし、至近優先ダイナミックAF（P.165）が「**ON**」になっている場合は、フォーカスエリアは選択できません。

- フォーカスエリアロックスイッチを回転させてロックを解除すると、マルチセレクターがフォーカスエリアセレクターとして機能します。
- 撮影モード時には、マルチセレクターの▲/▼/◀/▶を押してフォーカスエリアを選択します。







- 選択されたフォーカスエリアはファインダー内に点灯し、被写体が暗い場合は瞬間的に赤色に自動照明（バリブライト・フォーカスエリア）されます（P.11）。また、表示パネルのフォーカスエリアも表示されます。
- フォーカスエリアを選択した後にフォーカスエリアを選択した位置に固定したい場合、フォーカスエリアロックスイッチを回転させてロックできます。

フォーカスエリアの選択について

液晶モニタ表示中およびメニュー表示中は、フォーカスエリアを選択できません。

CSM 17：フォーカスエリアの選択を循環方式に変更（P.163）

マルチセレクターの押す位置を変えることなく反対側のフォーカスエリアの選択が可能になります。

CSM 18：フォーカスエリアの照明（P.164）

通常、ファインダー内のフォーカスエリア（フレーム）は、マルチセレクターで選択されたフォーカスエリアを、被写体の明るさに応じて見やすいように瞬間的に赤色に自動照明しますが、照明しない、もしくは被写体の明るさに関係なく照明するように変更できます。

オートフォーカス

フォーカスモードセレクトダイヤルを**S**（シングルAFサーボ）、または**C**（コンティニュアスAFサーボ）にセットしてシャッターボタンを半押しすると、オートフォーカスでピント合わせを行うことができます。

AFエリアモード

オートフォーカスでAFエリアモードを切換えると、選択したフォーカスエリアだけでピントを合わせるシングルエリアAFモード、または5つのフォーカスフレームすべてを活用してピントを合わせるダイナミックAFモードのいずれかを選ぶことができます。

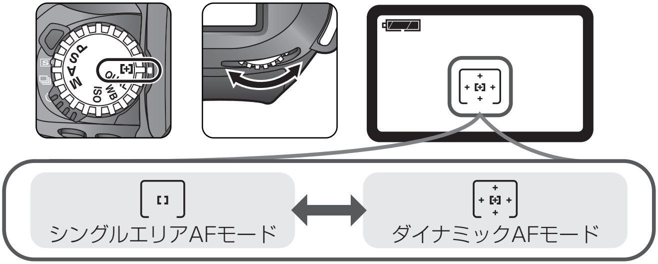
AFエリアモード	内容
シングルエリアAFモード	5つのフォーカスフレームから、撮影者が選択した1つのフォーカスエリアのみでピントを合わせるモードです。このモードは、動きの少ない被写体に対して、選択したフォーカスエリア単独で正確にピントを合わせたい場合などに便利です。
ダイナミックAFモード*	複数のフォーカスフレームを使用してピントを合わせます。撮影者が選択した1つのフォーカスエリアからピントを合わせたい被写体が一時的に外れた場合でも、他のフォーカスフレームからのピント情報を利用してピントを合わせることができます（ファインダー内のフォーカスエリア表示は変化しません）。このモードは、動いている被写体（特に不規則な動きをする被写体）を追い続けるときなど、被写体をフォーカスエリアに正確に捉え続けることが困難な場合に便利です。

* 至近優先ダイナミックAF（P.69）の場合、表示パネルおよびファインダー内にフォーカスエリアは表示されません。

CSM 14：AE/AFロックボタン操作の変更（P.161）

シャッターボタンの半押しではなく、AE/AFロックボタンの操作でオートフォーカスが作動するように変更できます。

AFエリアモードはファンクションダイヤルとメインコマンドダイヤルでセットします。ファンクションダイヤルを**[+]**にセットし、メインコマンドダイヤルを回して希望するAFエリアモード表示を表示パネルに表示させます。



予測駆動フォーカスについて

フォーカスモードセレクトダイヤルを**S**（シングルAFサーボ）、または**C**（コンティニュアスAFサーボ）にセットして、シャッターボタンを半押しまたはAE/AFロックボタン（カスタムセッティング14「**AE/AFロックボタン操作の変更**」を「**AF作動**」に設定している場合）を押し続けてピント合わせを行っている時、動いている被写体をカメラが認識すると、このカメラは自動的に予測駆動フォーカスに切換わります。予測駆動フォーカス作動時は被写体がカメラに向かって近づいてくる場合や、遠ざかっていく場合に、シャッターがきれる時点での被写体の到達位置を予測しながらピントを追い続けます。**S**（シングルAFサーボ）の場合は、初めから動いている被写体には予測駆動フォーカスが作動し、被写体が静止した時点で、ピントがロックされます。**C**（コンティニュアスAFサーボ）の場合は、途中から動き出した被写体に対しても予測駆動フォーカスに切り換わり、被写体が静止してもピントがロックされることはありません。

至近優先ダイナミックAFについて

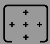
至近優先ダイナミックAFとは、AFエリアモードがダイナミックAFモードの時に使用可能な機能で、５つのフォーカスフレームのうち、一番手前にある被写体に重なっているフォーカスフレームを使用して、自動的にピントを合わせる方法です。5つのフォーカスフレームのうちいずれかにピントが合いますので、ピントのはずれた画像を避けることができます。

- 至近優先ダイナミックAF時は、表示パネル、ファインダー内表示ともにフォーカスエリアは表示されません。また、任意のフォーカスフレームを選択することもできません。
- 望遠レンズ使用時および被写体の輝度が低い場合には、至近のフォーカスエリアが選択されない場合があります。その際にはシングルエリアAFモードのご使用をおすすめします。

CSM 20、21：至近優先ダイナミックAF（AF-S、AF-C) (P.165)

至近優先ダイナミックAFを使用する場合は、カスタムセッティングの20または21の設定を「ON」に変更してください。初期設定はOFFです。

フォーカス機能の一覧表

フォーカスモード	AFエリアモード	至近優先ダイナミックAF	表示パネル	フォーカスフレーム（ファインダー内/表示パネル上）の表示	フォーカスエリアの選択
AF-S	シングルエリアAF	—		点灯	手動
	ダイナミックAF	OFF（初期値）		点灯	手動
		ON（カスタムセッティング20で設定）		消灯	自動
AF-C	シングルエリアAF	—		点灯	手動
	ダイナミックAF	OFF（初期値）		点灯	手動
		ON（カスタムセッティング21で設定）		消灯	自動

CSM 20：至近優先ダイナミックAF（AF-S）（P.165）

シングルAFサーボ（AF-S）での至近優先ダイナミックAFをONにできます。初期設定はOFFです。

ピント合わせの動作	次のような被写体に便利です
撮影者が選択したフォーカスエリアだけを使用してピントを合わせます。ピントが合うとシャッターボタンを半押ししている間はフォーカスロックされます。	静止被写体を撮影する場合など、一般的な撮影に便利です。
撮影者が選択したフォーカスエリアを使用してピントを合わせます。ピントが合うとシャッターボタンを半押ししている間はフォーカスロックされます。ただし、ピントが合う前に選択したフォーカスエリアから被写体がはずれると、他のフォーカスエリアからのピント情報を利用してピントを合わせます。	静止被写体を撮影する場合など、一般的な撮影に便利です。
5つのフォーカスエリアのうち、自動的にいちばん手前にある被写体に重なっているフォーカスフレームを使用してピントを合わせます。ピントが合うとフォーカスロックされますが、ピントが合う前に使用しているフォーカスエリアから被写体がはずれると、他のフォーカスエリアからのピント情報を利用してピントを合わせます。	スナップ写真などピント合わせをカメラまかせにして気軽に撮影する場合に便利です。
撮影者が選択したフォーカスエリアだけを使用してピントを合わせます。ピントが合ってもフォーカスロックされず、シャッターをきるまでピントを合わせ続けます。	モータースポーツや陸上競技など、前後方向に直線的に動き続ける被写体を1つのフォーカスエリアで捕らえ続ける場合に便利です。
撮影者が選択したフォーカスエリアを使用してピントを合わせます。ピントが合ってもフォーカスロックされません。選択したフォーカスエリアから被写体がはずれると、他のフォーカスエリアからのピント情報を利用してピントを合わせます。	サッカー競技など、複雑に動く被写体を正確に1つのフォーカスエリアで捕らえ続けられない場合に便利です。
5つのフォーカスエリアのうち、自動的にいちばん手前にある被写体に重なっているフォーカスフレームを使用してピントを合わせます。ピントが合ってもフォーカスロックされません。使用しているフォーカスエリアから被写体がはずれると、他のフォーカスエリアからのピント情報を利用してピントを合わせます。	動きのある被写体を、ピント合わせはカメラまかせにして、気軽に撮影する場合に便利です。

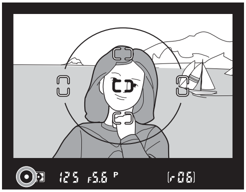
CSM 21：至近優先ダイナミックAF（AF-C）（P.165）

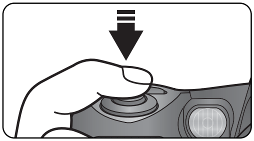
コンティニュアスAFサーボ（AF-C）での至近優先ダイナミックAFをONにできます。初期設定はOFFです。

フォーカスロック撮影

オートフォーカスで主要被写体（ピントを合わせたい人物や物など）が5つのフォーカスフレームのいずれからも外れる構図の場合に使用します。また、オートフォーカスが苦手な被写体（P.75）にも有効です。操作手順はシングルAFサーボ（AF-S）とコンティニュアスAFサーボ（AF-C）で異なります。

1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスエリアを重ね、シャッターボタンを半押しします。



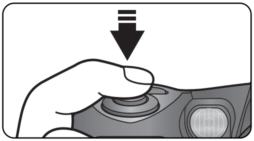


- ピントが合うと、ピント表示●が点灯します。

2 ピント表示●が点灯したら、フォーカスロックを行います。

シングルAFサーボ（AF-S）の場合

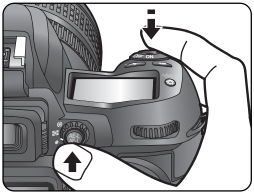
シャッターボタンを半押ししたままにすると、ピントがそのまま固定（フォーカスロック）されます。



- AE/AFロックボタン AE-L AF-L を押してフォーカスロックを行うこともできます。以下のコンティニュアスAFサーボ（AF-C）の場合をご覧ください。

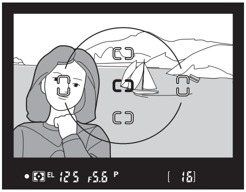
コンティニュアスAFサーボ（AF-C）の場合

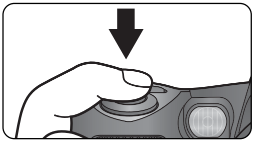
シャッターボタンを半押ししたまま、AE/AFロックボタンを押すと、ピントがそのまま固定（フォーカスロック）されます。



- シャッターボタンから指を離しても、AE/AFロックボタン AE-L/AF-L を押している間はフォーカスロックされます。また、AEロック（P.89）も同時に行われます。

3 フォーカスロックを行ったまま、構図を決めて撮影します。





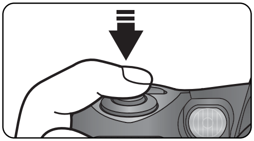
- フォーカスロック後は、主要被写体との撮影距離を変えないでください。
- シャッターボタンの半押しでフォーカスロックした場合は、シャッターをきった後も指をはなさずに再度シャッターボタンを押し込めば、ピントを固定したまま繰り返し撮影できます。AE/AFロックボタン AE-L/AF-L でフォーカスロックした場合は、AE/AFロックボタンを押したまま再度シャッターボタンを押せば、ピントを固定したまま繰り返し撮影できます。
- ピントが固定された後に被写体が動いた（撮影距離が変化した）場合は、いったんシャッターボタンやAE/AFロックボタン AE-L/AF-L から指を離し、フォーカスロックを解除してからピントを合わせ直してください。

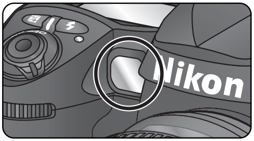
CSM 14：AE/AFロックボタン操作の変更（P.161）

AE/AFロックボタン AE-L/AF-L を押したときに、AFロックだけ行われるように変更できます。

AF補助光について

このカメラはAF補助光ランプを搭載しています。被写体が暗い場合でも、シャッターボタンを半押しすると自動的にAF補助光を照射し、被写体を照らしてオートフォーカスでのピント合わせが可能となります。





- 以下の条件を満たしているときに、自動的に照射を行います。
  フォーカスモードがシングルAFサーボ（AF-S）で、AFレンズを装着し、被写体が暗く、フォーカスエリアが中央に選択された状態か、または至近優先ダイナミックAF時。
- 使用可能なAFレンズの焦点距離は24～200mm、AF補助光が届く距離範囲の目安は約0.5～3mです。
- 下記のレンズではケラレが発生し、撮影距離1m以内では内蔵AF補助光を使用してのオートフォーカス撮影は行えません。
  - AFマイクロED 200mm f/4
  - AF-S ED 17～35mm f/2.8
  - AF ED18～35mm f/3.5～4.5
  - AF20～35mm f/2.8
  - AF24～85mm f/2.8～4
  - AF24～120mm f/3.5～5.6
  - AF-S ED 28～70mm f/2.8
  - AFマイクロED 70～180mm f/4.5～5.6
- AF-S ED 80～200mm f/2.8、AF ED 80～200mm f/2.8、AF VR ED 80～400mm f/4.5～5.6は内蔵AF補助光を使用したオートフォーカス撮影は行えません。
- 別売スピードライトSB-80DX、SB-50DX、28/28DX、27、26、25、24を使用して撮影した場合、アクティブ補助光の発光条件が満たされると、別売スピードライト側のアクティブ補助光が自動的に照射を行います。その他の別売スピードライトでは、カメラ側のAF補助光が自動的に照射を行います。

AF補助光の連続使用について

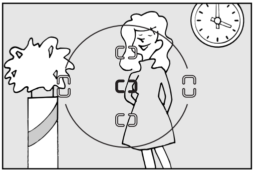
AF補助光を連続的に使用すると、照射ランプを保護するため一時的に照射が制限されます。少し時間をおくと照射可能になります。また、短時間に何回も使用すると、AF補助光の窓が熱くなることがありますので、ご注意ください。

CSM 22：内蔵AF補助光の照射 (P.166)

AF補助光の照射を禁止することができます。

オートフォーカスの苦手な被写体について

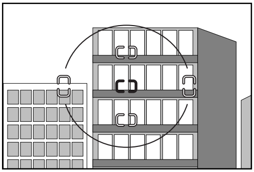
次のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができないことがあります。このような場合は、フォーカスモードを**M**（マニュアルフォーカス P.76）に切り換えてピントを合わせるか、フォーカスロック（ P.72）を利用しておおよそ同じ距離の被写体にピントを合わせ、そのまま構図を元に戻して撮影してください。



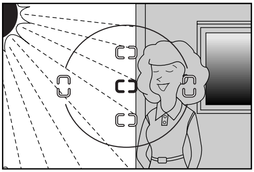
明暗差がはっきりしない場合
（白壁や背景と同色の服をきている人物等）



フォーカスフレーム内に遠いものと近いものが混在する被写体
（オリの中の動物や木の前の人物等）



連続した繰り返しパターンの被写体
（ビルの窓等）

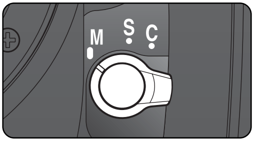


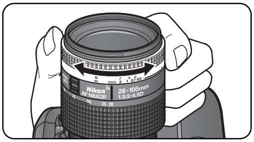
フォーカスフレーム内の被写体の輝度差が著しく異なる場合
（太陽が背景に入った日陰の人物等）

マニュアルフォーカス

マニュアルフォーカス（手動）によるピント合わせ

フォーカスモードセレクトダイヤルを**M**にセットすると、マニュアルフォーカス（手動）でピント合わせが行えます。

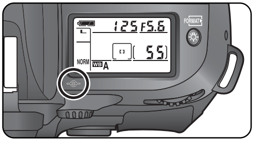




- フォーカスモードセレクトダイヤルを**M**（マニュアル）にセットし、レンズの距離リングを回して、ファインダースクリーンのマット面の像がはっきり見えるように合わせます。ピント表示●の点灯・消灯にかかわらず、シャッターをきることができます。オートフォーカスが苦手な被写体（P.75）を撮影するときや、AFニッコール以外のレンズ装着時にご使用ください。
- A-M切換え方式のレンズを装着して、マニュアルフォーカスでピントを合わせる場合は、レンズ側もMにしてください。また、M/A（マニュアル優先オートフォーカス）モード機能を搭載しているレンズを装着する場合は、レンズ側はM/AまたはMのどちらにセットしてもフォーカスは可能です。詳細はご使用になる各レンズの使用説明書をご覧ください。

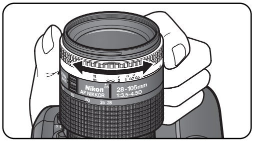
距離基準マークについて

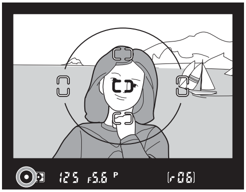
距離基準マークは撮影距離の基準となるマークで、カメラ内の撮像面の位置を示します。マニュアルフォーカスや接写などでカメラから被写体までの距離を実測する場合、このマークが基準となります。レンズ取り付け面（レンズマウント）から撮像面までの寸法（フランジバック）は46.5mmです。



フォーカスエイドによるピント合わせ

フォーカスモードセレクトダイヤルを**M**（マニュアル）にセットしたとき、開放絞りがf/5.6以上の明るいレンズを装着すると、ファインダー内のピント表示●によって合焦状態を確認できる「フォーカスエイドによるピント合わせ」が行えます。

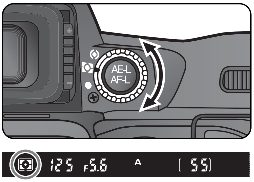




- シャッターボタンを半押しして、半押しタイマーが作動中にレンズの距離リングを回し、ピントを合わせたい物を選択しているフォーカスエリアを重ねて、ピント表示●を点灯させます。シャッターは、いつでもきることができます。また、いずれのフォーカスエリアを選択してもフォーカスエイドが行えます（P.66）。

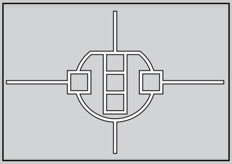
測光・露出

測光モード



測光モードセレクトダイヤルを切換えることにより、3つの測光モードから被写体の光の状況に最適な測光モードを選ぶことができます。

- 各測光モードをセットすると、ファインダー内に測光モード表示が表示されます。
- CPUレンズ以外では、測光できません。

測光モード	内容
10分割マルチパターン測光・3D-10分割マルチパターン測光	 「10分割マルチパターン測光」は、撮影画面を10分割して、それぞれの部分を独立して測光した情報にもとづいて、最適な露出値を決定します。さらにGタイプまたはDタイプレンズを装着した場合には、画面内の最大輝度、輝度差情報に加え、カメラから被写体までの距離情報を加味して測光の精度を高めた、「3D-10分割マルチパターン測光」となります。このモードを使えば、ほとんどの被写体で適正露出を得ることができます。 ただし、AEロック（P.89）や露出補正（P.92）を行うときは、中央部重点測光またはスポット測光をおすすめします。
中央部重点測光	「中央部重点測光」はファインダー中央部（φ8mmの内側）を重点的に測光して露出値を決定しますので、ファインダー内のφ12mmの円を参考に測光範囲を決定してください。
スポット測光	「スポット測光」はフォーカスエリアに重なるφ3mm相当（全画面の約2%）を部分的に測光して露出値を決定します。逆光時やコントラストの差が激しいときなど、フォーカスエリア相当の狭い範囲での露出を基準に撮影したい場合に適しています。 •測光エリアは、選択されているフォーカスエリアに連動するため、撮影したい構図のまま、マルチセレクターを操作して測光エリアを変えることができます。 •至近優先ダイナミックAFモード時（P.69）は、フォーカスエリアの連動は行われず、画面中央のフォーカスフレームに相当する部分を測光します。

露出倍数のかかるフィルターの使用について

露出倍数のかかるフィルター（P.192）を使用する場合、10分割マルチパターン測光、または3D-10分割マルチパターン測光の効果が得られない場合がありますので、測光モードを中央部重点測光に切換えて撮影することをおすすめします。

露出モード

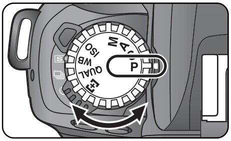
このカメラには、**P**（マルチプログラムオート）、**S**（シャッター優先オート）、**A**（絞り優先オート）、**M**（マニュアル）の４つの露出モードがあります。

P：マルチプログラムオート

マルチプログラムオート時は、プログラム線図（P.81）にしたがって、シャッタースピードと絞りが自動的に制御され、適正露出が得られます。マルチプログラムオートは、スナップ撮影など迅速な対応が必要な撮影に適しています。プログラムシフト、ブラケティング（P.93）、露出補正（P.92）などを併用すると、より高度な撮影が楽しめます。

- マルチプログラムオートはCPUレンズ装着時のみ撮影できます。

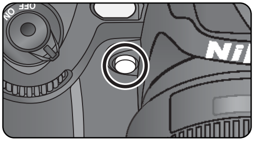
1 ファンクションダイヤルを**P**にセットします。



2 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

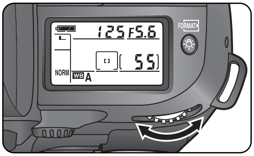
被写界深度のプレビュー

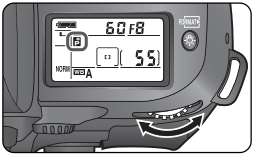
プレビューボタンを押し続けると、露出モードが **P**（マルチプログラムオート）、**S**（シャッター優先オート）のときは制御される絞りまで、露出モードが**A**（絞り優先オート）、**M**（マニュアル）のときはセットしてある絞りまで、レンズの絞り羽根が絞り込まれます。この状態でファインダーをのぞくと、そのときの絞りのおおよその被写界深度（ピントの合う前後の範囲）が確認できます。



プログラムシフトについて

マルチプログラムオートで撮影中にメインコマンドダイヤルを回すと、露出を一定にしたままシャッタースピードと絞りの組み合わせを変えることができます。この機能により、マルチプログラムオートにセットしたままシャッター優先オートや、絞り優先オートのような使い方ができます。プログラムシフト中は表示パネルにプログラムシフトマーク P* が点灯します。解除する場合は、プログラムシフトマーク P* が消灯するまでメインコマンドダイヤルを回す、他の露出モードに切換える、電源スイッチをOFFにする、内蔵スピードライトを使用する (P.104)、ツーボタンリセット (P.116) のいずれかを行います。





レンズの絞りリングについて

CPUレンズ（Gタイプレンズを除く）の絞りリングが最小絞り（最大値）にセットされていない場合、表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません。

非CPUレンズを取り付けた場合

非CPUレンズを取り付けた場合は、表示パネルとファインダー内表示の絞り値表示に F- - が点滅し、シャッターがきれません。この場合、露出モードを**M**（マニュアル）にして (P.86)、絞りのセットと確認はレンズの絞りリングで行って撮影してください。ただし、カメラの露出計は使用できません。詳細は「装着可能なレンズおよび使用可能な機能」(P.188) をご覧ください。

3：感度の自動制御 (P.154)

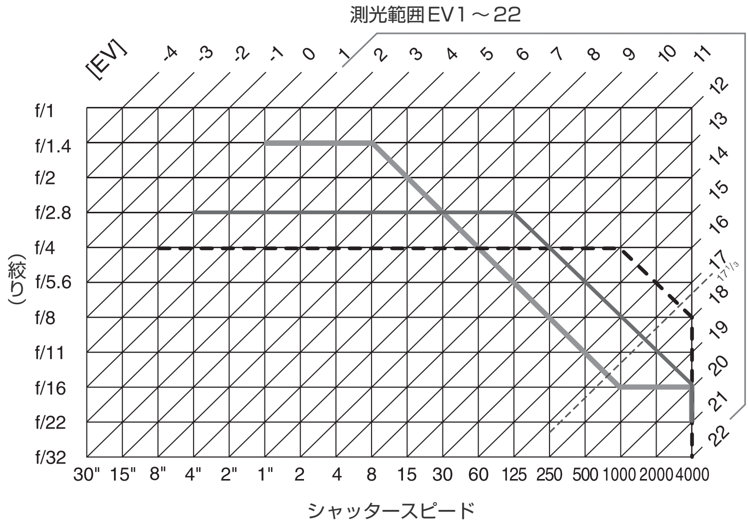
P（マルチプログラムオート）で感度自動制御をONにすると、設定している撮像感度でカメラの露出制御範囲を超えた場合に、ISO200～ISO1600の範囲内で自動的に撮像感度を変更して、適正露出を得る（もしくは適正露出に近づける）ことができます。ただし、増感時（H1-1 または H1-2 設定時）は、カスタムセッティング3「**感度の自動制御**」をONに設定できません。また、「**感度の自動制御**」がONの場合は増感（H1-1 または H1-2）をセットできません。感度自動制御が機能して、撮像感度が変更されている場合は、ファインダー内の露出モード**P** が点滅します。感度が上がった場合、通常の感度で撮影した場合と比較して、画像が多少ザラつくことがあります。なお、スピードライト使用時には、感度自動制御は機能せず、設定撮影感度での撮影となります。

感度自動制御が機能して撮影された画像は、再生モードの撮影情報表示時に撮影感度値（ISO）が赤く表示されます。

プログラム線図について

プログラム線図はマルチプログラムオート撮影時の露出制御をグラフにしたものです（ISO200の場合）。

- AF50mm f/1.4Dを使用した場合（灰色の太線）
- AF ED180mm f/2.8Dを使用した場合（実線）
- AF-S ED300mm f/4Dを使用した場合（破線）



- 撮像感度に応じた測光範囲により、EV値の両端に制限があります。
- マルチパターン測光では、ISO200の場合17 1/3を超えるEV値では、すべて17 1/3として制御されます。

露出警告表示について

次の警告がファインダー内表示や表示パネルに点灯した場合は、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。

HI: 被写体が明るすぎます。ND（光量調節用）フィルターをご使用ください。また、撮像感度（ISO）が高く設定されている場合は、低く設定してください。

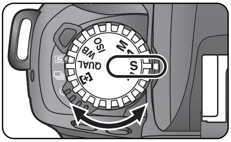
Lo: 被写体が暗すぎます。スピードライトを使用してください。また、撮像感度（ISO）が低く設定されている場合は、高く設定してください。

S：シャッター優先オート

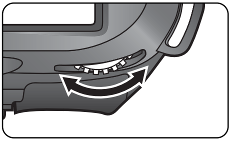
撮影者が好みのシャッタースピード（30秒～1/4000秒）をセットすると、カメラが自動的に絞りを決定します。スポーツシーンの撮影など被写体の動きを速いシャッタースピードで写し止める、または遅いシャッタースピードで強調するなど、シャッタースピードを重視した撮影に最適です。

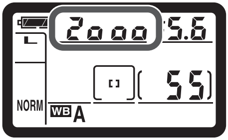
- シャッター優先オートはCPUレンズ装着時のみ撮影が行えます。

1 ファンクションダイヤルを**S**にセットします。



2 メインコマンドダイヤルで好みのシャッタースピード（30秒～1/4000秒）をセットします。





3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

bulbが点滅した場合について

露出モードを**M**（マニュアル）にしてbulbにセットした後、bulbを解除しないで**S**（シャッター優先オート）にセットすると、bulb表示が点滅してシャッターはきれません。**S**で撮影する場合はメインコマンドダイヤルを回してbulb以外のシャッタースピードにセットしてください。

長時間露出の画像について

シャッタースピードを長秒時（約1/2秒より低速）にセットして撮影した場合は、多少ザラついた画像となる場合があります。

レンズの絞りリングについて

CPUレンズ（Gタイプレンズを除く）の絞りリングが最小絞り（最大値）にセットされていない場合、表示パネルとファインダー内表示にFEEが点滅し、シャッターがきれません。

非CPUレンズを取り付けた場合

非CPUレンズを取り付けた場合は、表示パネルとファインダー内表示の絞り値表示に F-- が点滅し、シャッターがきれません。この場合、露出モードを**M**（マニュアル）にして（P.86）、絞りのセットと確認はレンズの絞りリングで行って、撮影してください。ただし、カメラの露出計は使用できません。詳細は「装着可能なレンズおよび使用可能な機能」（P.188）をご覧ください。

露出警告表示について

次の警告がファインダー内表示や表示パネルに点灯した場合は、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。

HI：被写体が明るすぎます。シャッタースピードをより高速側にセットし、それでも警告表示が消えない場合は、ND（光量調節用）フィルターを使用してください。また、撮像感度（ISO）が高く設定されている場合は、低く設定してください。

Lo：被写体が暗すぎます。シャッタースピードをより低速側にセットし、それでも警告表示が消えない場合はスピードライトを使用してください。また、撮像感度（ISO）が低く設定されている場合は、高く設定してください。

CSM 3：感度の自動制御 （P.154）

S（シャッター優先オート）で感度自動制御をONにすると、設定している撮像感度でカメラの露出制御範囲を超えた場合に、ISO200～ISO1600の範囲内で自動的に撮像感度を変更して、適正露出を得る（もしくは適正露出に近づける）ことができます。ただし、増感時（HI-1またはHI-2設定時）は、カスタムセッティング3「**感度の自動制御**」をONに設定できません。また、「**感度の自動制御**」がONの場合は増感（HI-1またはHI-2）をセットできません。感度自動制御が機能して、撮像感度が変更されている場合は、ファインダー内の露出モード**S**が点滅します。感度が上がった場合、通常の感度で撮影した場合と比較して、画像が多少ザラつくことがあります。なお、スピードライト使用時には、感度自動制御は機能せず、設定撮影感度での撮影となります。

感度自動制御が機能して撮影された画像は、再生モードの撮影情報表示時に撮影感度値（ISO）が赤く表示されます。

CSM 4：ノイズ除去 （P.155）

シャッタースピードを長秒時（約1/2秒より低速）にて撮影を行った場合に、撮影画面に生じる星状ノイズを低減することができます。

CSM 9：露出値のステップ幅の変更 （P.158）

表示パネルとファインダー内表示に表示されるシャッタースピードと絞りのステップを1/2段に変更できます。

CSM 13：コマンドダイヤルの変更 （P.160）

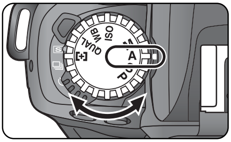
サブコマンドダイヤルでシャッタースピードをセットできます。

A：絞り優先オート

撮影者が絞り（最小絞り～開放絞り）をセットすると、カメラが自動的にシャッタースピードを制御します。手前から奥まで鮮明に写す、背景をボカすなど、被写界深度（ピントの合う前後の範囲）を優先した撮影に最適です。また、スピードライト撮影時には、絞りを変えることにより調光範囲の変更も行えます（P.106）。

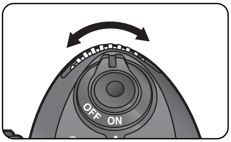
- 絞り優先オートはCPUレンズ装着時のみ撮影できます。

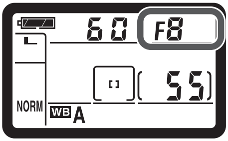
1 ファンクションダイヤルで露出モードを**A**にセットします。



2 サブコマンドダイヤルで好みの絞り（最小絞り～開放絞り）をセットします。

- セットできる最小絞り、開放絞りはレンズの種類によって異なります。





3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

非CPUレンズを取り付けた場合

非CPUレンズを取り付けた場合は、表示パネルとファインダー内表示の絞り値表示に F-- が点滅し、シャッターがきれません。この場合、露出モードを**M**（マニュアル）にして（ P.86）、絞りのセットと確認はレンズの絞りリングで行って、撮影してください。ただし、カメラの露出計は使用できません。詳細は「装着可能なレンズおよび使用可能な機能」（ P.188）をご覧ください。

露出警告表示について

次の警告がファインダー内表示や表示パネルに点灯した場合は、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。

HI：被写体が明るすぎます。より大きな数値の絞りにセットして、それでも警告表示が消えない場合は、ND（光量調節用）フィルターを使用してください。また、撮像感度（ISO）が高く設定されている場合は、低く設定してください。

Lo：被写体が暗すぎます。より小さい数値の絞りにセットして、それでも警告表示が消えない場合はスピードライトを使用してください。また、撮像感度（ISO）が低く設定されている場合は、高く設定してください。

3：感度の自動制御 （ P.154）

A（絞り優先オート）で感度自動制御をONにすると、設定している撮像感度でカメラの露出制御範囲を超えた場合に、ISO200～ISO1600の範囲内で自動的に撮像感度を変更して、適正露出を得る（もしくは適正露出に近づける）ことができます。ただし、増感時（HI-1またはHI-2設定時）は、カスタムセッティング3「**感度の自動制御**」をONに設定できません。また、「感度の自動制御」がONの場合は増感（HI-1またはHI-2）をセットできません。感度自動制御が機能して、撮像感度が変更されている場合は、ファインダー内の露出モード**A**が点滅します。感度が上がった場合、通常の感度で撮影した場合と比較して、画像が多少ザラつくことがあります。なお、スピードライト使用時には、感度自動制御は機能せず、設定撮影感度での撮影となります。

感度自動制御が機能して撮影された画像は、再生モードの撮影情報表示時に撮影感度値（ISO）が赤く表示されます。

9：露出値のステップ幅の変更（ P.158）

表示パネルとファインダー内表示に表示されるシャッタースピードと絞りのステップを1/2段に変更できます。

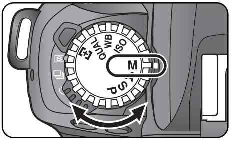
13：コマンドダイヤルの変更（ P.160）

メインコマンドダイヤルで絞りをセットできるように変更できます。

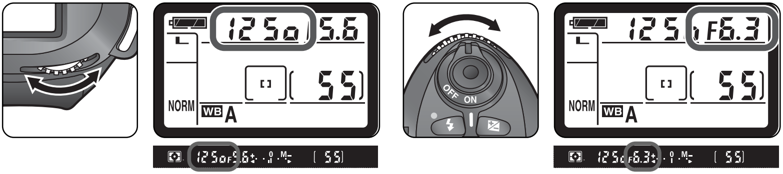
M：マニュアル

シャッタースピード（bulb および30秒～1/4000秒）と絞り（最小絞り～開放絞り）を、撮影者が自由にセットできるので、ファインダー内の露出インジケーターを見ながら、撮影状況や目的に合わせた露出決定ができます。長時間露出（バルブ）もこのモードでセットします。

1 ファンクションダイヤルを**M**にセットします。



2 露出インジケーター（P.88）を確認しながら、シャッタースピードと絞りをセットします。



- シャッタースピード（bulb および30秒～1/4000秒）はメインコマンドダイヤルでセットし、絞り（最小絞り～開放絞り）はサブコマンドダイヤルでセットします（どちらが先でもかまいません）。
- シャッタースピードをbulbにセットしてシャッターボタンを押し続けると、シャッターが開いたままとなる長時間露出（バルブ）撮影となります。

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

レンズの絞りリングについて

CPU レンズ（G タイプレンズを除く）の絞りリングが最小絞り（最大値）にセットされていない場合、表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません。

非 CPU レンズを取り付けた場合

非CPUレンズを取り付けた場合は、表示パネルとファインダー内表示の絞り値表示に F-- が点灯します。絞りのセットと確認はレンズの絞りリングで行って下さい。ただし、カメラの露出計は使用できません。また、感度自動制御は作動しません。詳細は「装着可能なレンズおよび使用可能な機能」（P.188）をご覧ください。

長時間露出（バルブ）について

シャッタースピードを bulb にセットしてシャッターボタンを押し続けると、シャッターが開いたままとなる長時間露出（バルブ）撮影となります。ただし、シャッタースピードを長秒時（約1/2秒よりも低速）にセットして撮影を行った場合は、星状ノイズにより多少ザラついた画像になります。このノイズはカスタムセッティング４「**ノイズ除去**」（P.155)により低減することができます。

3：感度の自動制御 （P.154)

M（マニュアル）で感度自動制御をONにすると、セットしたシャッタースピード、絞り値で適正露出が得られない場合に、ISO200～ISO1600の範囲内で自動的に撮像感度を変更して、適正露出を得る（もしくは適正露出に近づける）ことができます。ただし、増感時（HI-1 または HI-2 設定時）は、カスタムセッティング3「**感度の自動制御**」をONに設定できません。また、「感度の自動制御」がONの場合は増感（HI-1 または HI-2）をセットできません。
感度自動制御が機能して、撮像感度が変更されている場合は、ファインダー内の露出モード**M**が点滅します。感度自動制御が機能しても適正露出が得られない場合は、適正露出とのズレの量が露出インジケーターに表示されます。感度が上がった場合、通常の感度で撮影した場合と比較して、画像が多少ザラつくことがあります。なお、スピードライト使用時には、感度自動制御は機能せず、設定撮影感度での撮影となります。
M（マニュアル）で感度自動制御をＯＮした場合、上述のように適正露出が得られるように撮像感度を変更します。そのためAEブラケティングをさらに設定した場合、撮像感度を変更できる範囲内では適正露出が維持され、露出レベルは変化しません。

感度自動制御が機能して撮影された画像は、再生モードの撮影情報表示時に撮影感度値（ISO）が赤く表示されます。

4：ノイズ除去 （P.155)

シャッタースピードを長秒時（約 1/2 秒より低速）にて撮影を行った場合に、撮影画面に生じる星状ノイズを低減することができます。

露出インジケーターについて

長時間露出（バルブ）を除いて、撮影者がセットしたシャッタースピードと絞り値の組み合わせによる露出値と、カメラが測光した露出値との差が表示されます。露出インジケーターの見方は次のとおりです。

露出値のステップが 1/3 段の場合	露出値のステップが 1/2 段の場合
適正露出の場合 	適正露出の場合 
1/3 段アンダーの場合 	1/2 段アンダーの場合 
２段以上オーバーの場合 	３段以上オーバーの場合 

- 光量がカメラの測光範囲を超えると、露出インジケーターが点滅して警告します。

9：露出値のステップ幅の変更 (P.158)

表示パネルとファインダー内表示に表示されるシャッタースピードと絞りのステップを1/2段に変更できます。

13：コマンドダイヤルの変更 (P.160)

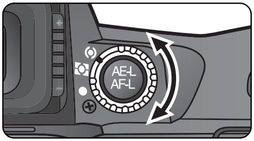
シャッタースピードをサブコマンドダイヤルで、絞り値をメインコマンドダイヤルでセットできるように変更できます。

AEロック撮影

AEロック撮影は、撮影画面内の特に露出を合わせたい部分をスポット測光などにより測光し、AE/AFロックボタン AE-L AF-L を押してその露出をカメラに記憶させたまま、構図を変えて撮影する方法です。露出を合わせたい部分とその周囲とで、著しく明るさが異なる場合などに便利です。露出モードは**M**（マニュアル）以外にセットしてください。

1 測光モードをスポット測光または中央部重点測光にセットします。

- マルチパターン測光は十分なAEロックの効果が期待できないため、おすすめできません。



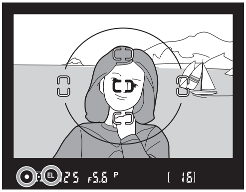
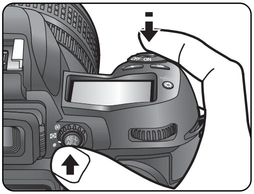
CSM 14：AE/AFロックボタン操作の変更 (P.161)

AE/AFロックボタン AE-L AF-L を押した場合に、AEロックだけ行われるように変更できます。また、AE/AFロックボタン AE-L AF-L を押すと、指を放してもAEロックの状態が保持され、再度押すと解除されるように変更できます。

CSM 15：シャッターボタン半押しによるAEロック (P.162)

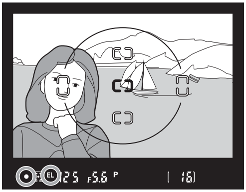
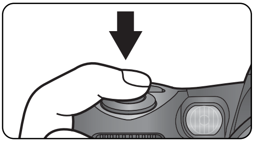
通常はAE/AFロックボタン AE-L AF-L を押した場合にAEロックが行われますが、シャッターボタンを半押ししたときにAEロックが行われるように変更できます。

2 露出を合わせたい部分にフォーカスエリアを重ねてシャッターボタンを半押ししたまま、AE/AFロックボタン AE-L/AF-L を押して、ピント表示●の点灯を確認します。

- AE/AF ロックボタン AE-L/AF-L を押している間は、測光モードに応じた部分の露出が記憶（ロック）され、構図を変えても露出は変わりません（ファインダー内にAEロック表示**EL**が点灯します）。
- スポット測光にセットした場合、次の部分が測光エリアとなります：
  - ・ スポット測光で、測光エリアとフォーカスエリアが連動する場合（P.78）は、選択してあるフォーカスエリアを重ねた部分の露出が記憶されます。
  - ・ スポット測光で、至近優先ダイナミックAFモード時（P.69）は、画面中央のフォーカスフレームに相当する部分の露出が記憶されます（P.78）。
- 中央部重点測光にセットした場合は、中央部円内のϕ8mm相当の内側の露出が記憶されます。
- フォーカスモードがシングルAFサーボ（AF-S）または コンティニュアスAFサーボ（AF-C）の場合、フォーカスロックも同時に行われますので、ピント表示●の点灯も確認してください。

3 AE/AFロックボタン AE-L/AF-L を押したまま、構図を決めて撮影します。

シャッタースピードと絞り値の変更

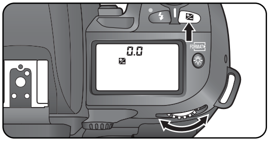
AE/AFロックボタン (AE-L AF-L) を押している間も次の操作ができます。

露出モード	操作
P(マルチプログラムオート)	プログラムシフト (P.80)
S(シャッター優先オート)	シャッタースピードの変更
A(絞り優先オート)	絞り値の変更

- いずれも、変更した後の露出表示はそれぞれ制御されるシャッタースピード、絞り値が表示されます。
- AEロック中は、測光モードセレクトダイヤルを切換えても測光モードは変わりません(AEロックを解除すれば変わります)。

露出補正

露出補正とは、カメラが制御する適正露出値を意図的に変えることをいいます。たとえば、ハイキー（全体的に明るいトーン）、ローキー（全体的に暗いトーン）など、作画意図に応じた露出表現をしたい場合などに使用します。測光モードは中央部重点測光またはスポット測光をおすすめします。いずれの露出モードでもセット可能です（ただし露出モードがM時は、インジケータ表示が変わるのみで、撮影者がセットしたシャッタースピードと絞り値は変わりません）。



1 露出補正ボタン を押しながら、メインコマンドダイヤルで補正量（1/3段ステップで±5段）をセットします。

- 補正量をセットすると、表示パネルとファインダー内表示に露出補正マーク が表示されます。補正量の確認は露出補正ボタン を押すだけで行えます。ファインダー内表示には、露出インジケーターが露出補正インジケーターとして表示されます。その際、露出インジケーターの「**0**」が点滅します。





－0.3段補正



＋2段補正

- 補正の目安としては、被写体（たとえば人物など）に対して、背景が明るい場合は＋側に、背景が暗い場合は－側に補正するのが基本です。
- スピードライトの光量のみを補正する調光補正についてはP.113をご覧ください。

2 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

- 露出補正を解除する場合は、露出補正ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルで補正量を0.0にセットするか、ツーボタンリセット（P.116）を行ってください（カメラの電源スイッチをOFFにしても解除されません）。

CSM 9：露出値のステップ幅の変更（P.158）

露出補正量のステップを1/2段に変更できます。

CSM 10：露出補正簡易設定（P.158）

露出補正ボタン を使用せずに、コマンドダイヤル（メインおよびサブ）の操作だけで、露出補正が行えます。

ブラケティング

D100のブラケティングには大きく分けて、露出値をずらすAEブラケティング、主要被写体のTTL調光レベルをずらすSBブラケティング、色温度をずらすWB（ホワイトバランス）ブラケティングの３種類があります。

- AEブラケティング：AEブラケティングをセットすると、シャッターをきるたびにカメラが表示する適正露出値（露出モードがマニュアルの場合は撮影者がセットした露出値）に対して、セットした撮影コマ数（最大３コマ）と補正ステップで自動的に露出をずらして（露出補正なしで最大±２段）撮影します。いずれの露出モードでもセットが可能です。
- SBブラケティング：SBブラケティングをセットすると、シャッターをきるたびに、セットした撮影コマ数（最大３コマ）と補正ステップで、自動的にスピードライトの光量をずらして（調光補正なしで最大±２段）撮影します。
- WBブラケティング：WBブラケティングは、１回の撮影で、設定したホワイトバランスに対してセットした撮影コマ数分（１回の撮影で最大３コマ）だけ自動的に色温度をずらして記録します。複数の光源が混在しているなど、ホワイトバランスの決定が難しい場合や、微妙な白の色味を好みで選びたいときなどに効果的です。ただし、WBブラケティングは、画質モードがRAWの場合は使用できません。

AE、SBブラケティングの設定

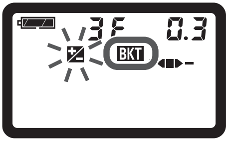
1 カスタムセッティング11「**ブラケティングのセット**」（P.159）でブラケティングを行う内容を、「**AE/SBブラケティング**」、「**AEブラケティングのみ**」、「**SBブラケティングのみ**」から選択します。



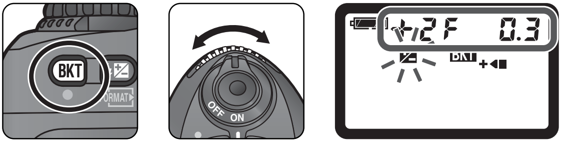
2 ブラケティングボタン BKT を押しながら、メインコマンドダイヤルでブラケティングマーク BKT が表示され、露出補正マーク が点滅します。



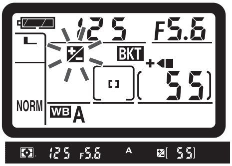




3 ブラケティングボタン BKT を押しながら、サブコマンドダイヤルで撮影コマ数と補正ステップ（ P.158）をセットします。



4 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。



AE/SB ブラケティング時の
表示パネル、およびファインダー

- 撮影中、シャッタースピードと絞りは補正された値が表示されます。
- シャッターをきるたびに 1 コマずつ撮影されます。
- AE ブラケティングと露出補正（ P.92）、またはSBブラケティングと調光補正（ P.113）が同時にセットしてある場合、両方の補正値が加算されたブラケティング撮影が行えます。±2段を超えるブラケティング撮影を行う場合に便利です。
- 表示パネルのブラケティングバーグラフ（+◀■▶–/+◀■/■▶–）から、補正なしのコマの撮影時に ■ 、マイナス側のコマの撮影時に ▶– 、プラス側のコマの撮影時に +◀ のブロックがそれぞれ消灯します。
- 解除する場合は、ブラケティングボタン BKT を押しながら、メインコマンドダイヤルで表示パネルのブラケティング表示 BKT を消灯させます。この場合、セットした撮影コマ数と補正ステップは次回のブラケティング時まで保持されます。また、ツーボタンリセット（ P.116）でも解除できますが、この場合はセットした撮影コマ数と補正ステップは保持されません。

WBブラケティングの設定

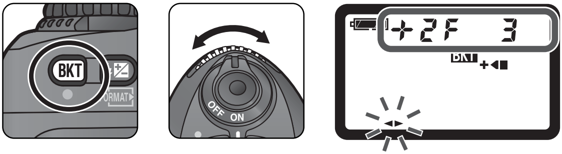
1 カスタムセッティング11「**ブラケティングのセット**」(P.159) で「**WBブラケティング**」を選択します。



2 ブラケティングボタン BKT を押しながら、メインコマンドダイヤルでブラケティングマーク BKT が表示され、ホワイトバランス微調整表示 ◀▶ が点滅します。



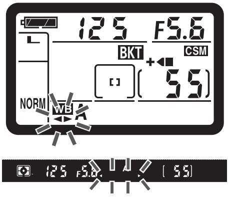
3 ブラケティングボタン BKT を押しながら、サブコマンドダイヤルで撮影コマ数と補正ステップ（P.158）をセットします。WBブラケティングの撮影コマ数が撮影可能コマ数より多い場合には、ブラケティングバーグラフが点滅して警告します。



画質モードをRAWに設定している場合

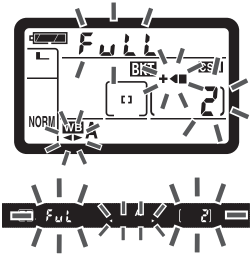
WBブラケティングは、画質モードがRAWの場合は使用できません。

4 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。



WB ブラケティング時の
表示パネル、およびファインダー

- WBブラケティングでは、1回の撮影でセットされたすべてのコマ数が記録されます。
- WBブラケティングとホワイトバランスの微調整が同時にセットしてある場合、微調整にブラケティングの補正が加算されます。
- 解除する場合は、ブラケティングボタン BKT を押しながら、メインコマンドダイヤルで上面表示パネルのブラケティング表示 BKT を消灯させます。この場合はセットした撮影コマ数と補正ステップは次回のブラケティング時まで保持されます。また、ツーボタンリセット（P.116）でも解除できますが、この場合はセットした撮影コマ数と補正ステップは保持されません。WB ブラケティングセット後画質モードを RAW にすると WB ブラケティングの設定が解除されます。
- WB ブラケティングの撮影コマ数が撮影可能コマ数より多い場合には、絞り値が消灯し、シャッタースピード表示部に FuLL（FuL）およびブラケティングバーグラフが点滅するとともに撮影可能コマ数が点滅し、レリーズできません。新しいカードを挿入すれば撮影できます。



次の撮影コマ数と補正ステップがセットできます。

撮影コマ数と補正ステップの組み合わせ

カスタムセッティング11を「**AE/SBブラケティング**」、「**AEブラケティングのみ**」、「**SB ブラケティングのみ**」に設定した場合

カスタムセッティング9の設定	表示パネル	撮影コマ数	補正値	撮影順序
1/3段（初期設定）	3F 0.3 +◀▮▶−	3	±$^1/_3$段	0/−0.3/+0.3
	3F 0.7 +◀▮▶−	3	±$^2/_3$段	0/−0.7/+0.7
	3F 1.0 +◀▮▶−	3	±1段	0/−1.0/+1.0
	3F 1.3 +◀▮▶−	3	±1$^1/_3$段	0/−1.3/+1.3
	3F 1.7 +◀▮▶−	3	±1$^2/_3$段	0/−1.7/+1.7
	3F 2.0 +◀▮▶−	3	±2段	0/−2.0/+2.0
	+2F 0.3 +◀▮	2	+$^1/_3$段	0/+0.3
	+2F 0.7 +◀▮	2	+$^2/_3$段	0/+0.7
	+2F 1.0 +◀▮	2	+1段	0/+1.0
	+2F 1.3 +◀▮	2	+1$^1/_3$段	0/+1.3
	+2F 1.7 +◀▮	2	+1$^2/_3$段	0/+1.7
	+2F 2.0 +◀▮	2	+2段	0/+2.0
	−2F 0.3 ▮▶−	2	−$^1/_3$段	0/−0.3
	−2F 0.7 ▮▶−	2	−$^2/_3$段	0/−0.7
	−2F 1.0 ▮▶−	2	−1段	0/−1.0
	−2F 1.3 ▮▶−	2	−1$^1/_3$段	0/−1.3
	−2F 1.7 ▮▶−	2	−1$^2/_3$段	0/−1.7
	−2F 2.0 ▮▶−	2	−2段	0/−2.0
1/2段	3F 0.5 +◀▮▶−	3	±$^1/_2$段	0/−0.5/+0.5
	3F 1.0 +◀▮▶−	3	±1段	0/−1.0/+1.0
	3F 1.5 +◀▮▶−	3	±1$^1/_2$段	0/−1.5/+1.5
	3F 2.0 +◀▮▶−	3	±2段	0/−2.0/+2.0

カスタムセッティング9の設定	表示パネル	撮影コマ数	補正値	撮影順序
1/2段	+2F 0.5 +◀■	2	$+{}^{1}/_{2}$段	0/+0.5
	+2F 1.0 +◀■	2	+1段	0/+1.0
	+2F 1.5 +◀■	2	$+1{}^{1}/_{2}$段	0/+1.5
	+2F 2.0 +◀■	2	+2段	0/+2.0
	--2F 0.5 ■▶–	2	$-{}^{1}/_{2}$段	0/−0.5
	--2F 1.0 ■▶–	2	−1段	0/−1.0
	--2F 1.5 ■▶–	2	$-1{}^{1}/_{2}$段	0/−1.5
	--2F 2.0 ■▶–	2	−2段	0/−2.0

※ カスタムセッティング9の設定によってセットできる補正ステップが異なります。

カスタムセッティング11を「**WBブラケティング**」に設定した場合

表示パネル	撮影コマ数	補正ステップ	撮影順序
3F 1 +◀■▶–	3	±1	0/−1/+1
3F 2 +◀■▶–	3	±2	0/−2/+2
3F 3 +◀■▶–	3	±3	0/−3/+3
+2F 1 +◀■	2	+1	0/+1
+2F 2 +◀■	2	+2	0/+2
+2F 3 +◀■	2	+3	0/+3
--2F 1 ■▶–	2	−1	0/−1
--2F 2 ■▶–	2	−2	0/−2
--2F 3 ■▶–	2	−3	0/−3

CSM 9：露出値のステップ幅の変更（P.158）

セットする補正ステップを1/2段に変更できます。

CSM 12：BKT撮影時の補正順序の変更（P.159）

マイナス側からプラス側へ順番に撮影されるように変更できます。

ブラケティング時の連続撮影について

撮影動作モードを （連続撮影）にセットして撮影する場合、AE、SB、AE/SBブラケティングでは、シャッターボタンを押し続けるとセットしたコマ数の撮影が終了した時点でいったん停止します。シャッターボタンを押し直すと次の連続撮影が可能になります。WBブラケティングでは、1 回のシャッターボタンの押し込みで 1 回の撮影を行い、セットしたコマ数の記録を行います。シャッターボタンを押し続けても連続撮影にはなりません。

メモリー残量がなくなった場合 / 電源スイッチを OFF にした場合

- AE、SB、AE/SB ブラケティングの場合は、撮影中にコンパクトフラッシュカードのメモリー残量がなくなっても、メモリー残量のある他のコンパクトフラッシュカードに交換すれば残りを撮影できます。WB ブラケティングの場合、撮影可能コマ数が撮影コマ数よりも少ないと、シャッタースピード表示部の Full、ブラケティングバーグラフおよび撮影可能コマ数表示が点滅し、シャッターをきることができません。
- AE/SB ブラケティング・AE ブラケティング・SB ブラケティングの場合は、撮影中に電源スイッチをOFFにしても、再びONにすれば残りを撮影できます。WBブラケティングの場合は、撮影中に電源スイッチをOFFにした場合、すべてのコマの記録が終了してから電源が切れます。

セルフタイマー撮影時

セルフタイマー撮影時（P.114）には、AE、SB、AE/SBブラケティングでセットした撮影コマ数のブラケティング撮影が 1 コマずつ行われます。ホワイトバランスブラケティングの場合は、一回のセルフタイマー撮影で設定された撮影コマ数が全て記録されます。

AE ブラケティング

AEブラケティングの場合は、露出モードによって補正される内容（シャッタースピード/絞り値）が異なります。

露出モード	変化する内容
P（マルチプログラムオート）	シャッタースピードと絞り値
S（シャッター優先オート）	絞り値
A（絞り優先オート）	シャッタースピード
M（マニュアル）	シャッタースピード※

※ 感度自動制御をONにした場合、適正露出となるように撮像感度を制御します。したがって、撮像感度を変更できる範囲内では適正露出が維持され、露出レベルは変わりません。露出レベルを変えて撮影したい場合には、感度自動制御を OFF にしてください。

スピードライト撮影

内蔵スピードライトについて

このカメラは20mmレンズの画角をカバーする、ガイドナンバー17（ISO200・m、20℃）/12（ISO100・m、20℃）のスピードライトを内蔵しており、モニター発光を行う専用TTLモード（D-TTLモード）によって制御され、D-3D-マルチBL調光やD-マルチBL調光によるスピードライト撮影ができます。暗いところではもちろん、昼間の屋外撮影などでも、逆光の場合や主要被写体の陰影を弱めたいとき、人物の目にキャッチライトを入れたいときなどに、補助光としても使用できます。

D-TTLモードで可能な撮影

装着レンズによって、次のような内蔵スピードライト撮影が行えます。

装着レンズ	可能な内蔵スピードライト撮影	内容
GまたはDタイプレンズ	D-3D-マルチBL調光	マルチパターンによる測光情報をもとに主要被写体と背景光のバランスを考慮したBL（バランス）調光を行います。シャッターボタンを押すと、スピードライトがシャッター開口直前にモニター発光を行い、画面内の各部から戻ってくる反射光をカメラ内のTTL自動調光用5分割センサーが瞬時にモニターし、さらにレンズから得られた被写体までのレンズ情報も加味して、主要被写体と背景光のバランスを考慮した最適な発光量を決定します。 •測光モードをスポット測光、もしくは露出モードを**M**（マニュアル）にすると、内蔵スピードライトはスタンダードD-TTL調光になります。
上記以外のCPUレンズ	D-マルチBL調光	GおよびDタイプ以外のCPUレンズを装着すると、D-3D-マルチBL調光のレンズからの距離情報を省略された、D-マルチBL調光になります。 •測光モードをスポット測光、もしくは露出モードを**M**（マニュアル）にすると、内蔵スピードライトはスタンダードD-TTL調光になります。
すべてのレンズ	スタンダードD-TTL調光	レンズの種類に関係なく使用可能です。背景の明るさは考慮されず、主要被写体が適正露出となるように調光されます。主要被写体のみを強調する場合や、スピードライト撮影で露出補正を行う場合に適しています。 •測光モードがスポット測光に設定されている場合、または露出モードが**M**（マニュアル）のときに使用できます。

内蔵スピードライトの照射角

内蔵スピードライトの照射角は20mmまでカバーしますが、装着するレンズや絞りの条件によっては、周辺が若干暗くなることがあります。

スピードライト使用時のご注意

感度自動制御をONにしていても、スピードライト使用時には、設定撮像感度で撮影されます。

別売スピードライト使用時のご注意

別売スピードライトを使用するとき、測光モードをスポット測光にするとスタンダードD-TTL調光となります。内蔵スピードライトをポップアップして外部スピードライトを装着した場合、外部スピードライトは発光しません。ただし、SB-50DXの場合、SB-50DXの発光モード設定をマニュアルフル発光、かつフラッシュヘッドをバウンス撮影位置にすると、内蔵スピードライトとSB-50DXの両方が発光します。

CSM 23：内蔵スピードライトの発光モード (P.167)

内蔵スピードライトの発光モードは、通常D-TTL調光ですが、カスタムセッティング23「**内蔵スピードライトの発光モード**」を「**マニュアルフル発光モード**」に設定できます。このとき、内蔵スピードライトはフル発光し、ガイドナンバーは18（ISO200・m、20℃）/12.7（ISO100・m、20℃）となります。マニュアルフル発光モードでは、モニター発光は行われません。

シンクロモードの種類と特長

セットできるシンクロモードは次のとおりです。

シンクロモード	内容
先幕シンクロモード	通常のスピードライト撮影時にはこのモードでセットします。露出モードを**P**（マルチプログラムオート）または**A**（絞り優先オート）にセットしてスピードライト撮影を行うと、カメラが適正露出となるようにシャッタースピードを1/60～1/180秒に自動的にセットします。
赤目軽減モード	スピードライトが発光する前に約1秒間赤目軽減ランプのプリ照射を行い、暗い所で人物の目が赤く写るのを軽減することができます。 •シャッターがきれるまで、カメラや被写体の人物が動かないように注意してください（シャッターチャンスを優先するような撮影にはおすすめできません）。
赤目軽減スローシンクロモード	赤目軽減モードとスローシンクロモードが同時にセットされます。露出モードは**P**（マルチプログラムオート）または**A**（絞り優先オート）にセットしてください。 •シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚のご使用をおすすめします。
スローシンクロモード	露出モードを**P**（マルチプログラムオート）または**A**（絞り優先オート）にセットしてスピードライト撮影を行うと、通常はシャッタースピードが1/60～1/180秒に自動的にセットされますが、このモードでは、背景の露出を考慮してシャッタースピードが最長30秒まで延長されます。これにより、背景を描写しながらスピードライトを発光させ、夕景や夜景の雰囲気を活かした撮影が行えます。 •シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚のご使用をおすすめします。
後幕シンクロモード	シャッター後幕の走行開始（シャッターが閉じる）直前にスピードライトを発光させます。動く被写体をスピードライトで撮影する場合に、その被写体の動きを想像させる光の流れなどを被写体の後方に自然な形で表現できます。 •露出モードを**P**（マルチプログラムオート）または**A**（絞り優先オート）にセットすると、スローシンクロモードも自動的にセットされます。シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚のご使用をおすすめします。

赤目軽減ランプのケラレについて

装着するレンズの種類により赤目軽減ランプの光がケラレ、画面内の人物の位置によっては赤目軽減効果がそこなわれることがあります。

スタジオ用大型ストロボ使用時について

スタジオ用大型ストロボでは正しい同調が行えないため、後幕シンクロモードは使用できません。

別売スピードライト使用時について

別売スピードライトSB-26、25、24を使用する場合は、シンクロモードの設定はスピードライト側の設定が優先されます（カメラ側の設定は無効となります）。赤目軽減モード、赤目軽減スローシンクロモードで赤目軽減発光機能付の別売スピードライトSB-80DX、28DX、28、27、26を使用する場合は、スピードライト側の赤目軽減ランプが発光します。

内蔵スピードライトを使用した撮影

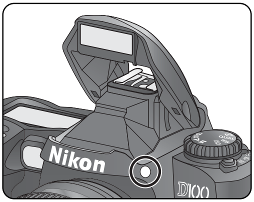
ここでは内蔵スピードライトを使用し、カメラにGまたはDタイプレンズを装着して行う撮影の方法を説明します。

1 測光モードをセットします（P.78）。

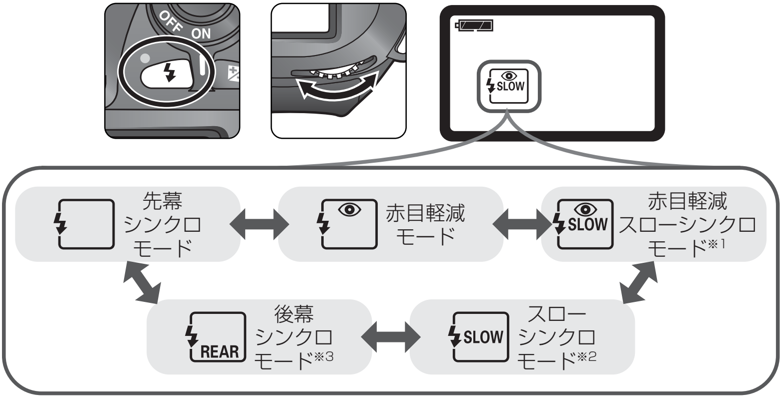
- スポット測光以外にセットしてください。

2 スピードライトロック解除ボタンを押してスピードライトを上げます。

- スピードライトの充電が開始されます。充電が完了して撮影可能な状態になると、ファインダー内のレディライト ϟ が点灯して知らせます。



3 シンクロモードボタン（ϟ）を押しながら、メインコマンドダイヤルを回してシンクロモードをセットします。



※1 露出モードが**S**または**M**の場合、赤目軽減スローシンクロモードは設定できません。このモードを選択した場合は自動的に「**赤目軽減モード**」に変更されます。

※2 露出モードが**S**または**M**の場合、スローシンクロモードは設定できません。このモードを選択した場合は自動的に「**先幕シンクロモード**」に変更されます。

※3 露出モードが**P**または**A**の場合は、スローシンクロモードも自動的にセットされ、シンクロモードボタン（ϟ）から指を離すと右のように表示されます。



4 露出モードをセットします（P.79）。

- **P**（マルチプログラムオート）、**S**（シャッター優先オート）、**A**（絞り優先オート）にセットした場合はD-3D-マルチBL調光に、**M**（マニュアル）にセットした場合はスタンダードD-TTL調光になります。

5 シャッタースピード、絞り値をセットします。

- 露出モードごとに、セット可能なシャッタースピードと絞り値は、下表のとおりです。

露出モード	セット可能なシャッタースピード	セット可能な絞り値	参照
P（マルチプログラムオート）	カメラが自動的に1/180～1/60にセット※1	カメラが自動的にセット	P.79
S（シャッター優先オート）	1/180秒～30秒※2		P.82
A（絞り優先オート）	カメラが自動的に1/180～1/60にセット※1	任意の絞り※3	P.84
M（マニュアル）	1/180秒～30秒※2、		P.86

※1　スローシンクロモード、後幕スローシンクロモード、赤目軽減スローシンクロモード選択時は、シャッタースピードが最長30秒まで延長されます。

※2　1/180秒より高速のシャッタースピードにセットしてある場合は、内蔵スピードライトを上げると（別売スピードライトの場合はスピードライトの電源をONにすると）、自動的に同調シャッタースピードの1/180秒にセットされます。この場合、ファインダー内表示には180が点灯し、表示パネルにはセットしたシャッタースピードが点滅します。

※3　調光範囲は設定している撮像感度と絞り値によって決まります。**A**（絞り優先オート）または**M**（マニュアル）時の絞りのセットは内蔵スピードライトの調光範囲（P.106）を考慮して行ってください。

6 ファインダー内のレディライト ⚡ を確認します。



- スピードライトの充電が完了して撮影可能な状態になると、ファインダー内のレディライト ⚡ が点灯して知らせます。スピードライトが上がった状態でレディライト ⚡ が点灯していないときは撮影できません。

7 構図を決めピントを合わせ、内蔵スピードライトの調光範囲（P.106）を考慮して撮影します。

- シャッターをきった後レディライト ⚡ が約3秒間点滅した場合は、スピードライトがフル発光して露出不足の可能性があることを警告しています。撮影距離、絞り値、撮像感度などを再度確認して、撮影し直してください。

内蔵スピードライトの収納

内蔵スピードライトを収納するときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げます（使用しないときはバッテリーの消耗を防ぐため、常に収納状態にしてください）。

内蔵スピードライトの調光範囲（光の届く範囲）、絞り値、撮像感度について

- スピードライトは撮像感度と絞り値によって調光範囲（光の届く範囲）が異なります。下表を参考にしてください。

撮像感度（ISO）および絞り値										調光範囲
200	250	320	400	500	640	800	1000	1250	1600	（m）
2	2.2	2.5	2.8	3.2	3.5	4	4.5	5	5.6	2～8.5
2.8	3.2	3.5	4	4.5	5	5.6	6.3	7.1	8	1.4～6
4	4.5	5	5.6	6.3	7.1	8	9	10	11	1～4.2
5.6	6.3	7.1	8	9	10	11	13	14	16	0.7～3
8	9	10	11	13	14	16	18	20	22	0.6～2.1
11	13	14	16	18	20	22	25	29	32	0.6～1.5
16	18	20	22	25	29	32	—	—	—	0.6～1.1
22	25	29	32	—	—	—	—	—	—	0.6～0.8

※ 内蔵スピードライトで調光できる最短撮影距離は 0.6m です。

- 露出モードが **P**（マルチプログラムオート）の場合、カメラが自動で設定する開放側の限界絞りは、使用する撮像感度によって下表のように制御されます。

撮像感度（ISO）と開放側の限界絞り（F）									
200	250	320	400	500	640	800	1000	1250	1600
3.3	3.5	3.8	4	4.2	4.5	4.8	5	5.3	5.6

※ 感度 1 段に対して絞りは 1/2 段変化します。制御される絞りよりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

- D-TTL モード時の撮像感度連動範囲は ISO200 ～ 1600 です。

内蔵スピードライトに使用可能なレンズについて

- 内蔵スピードライトには、20mmから300mmまでのCPUレンズが使用できます。
- ケラレを防止するため、レンズフードは取り外して使用してください。
- 撮影距離0.6m未満では使用できません。
- マクロ付きズームレンズはマクロ領域では使用できません。
- 下記のズームレンズではケラレが発生し、写真の周辺光量が低下しますので、使用できる焦点距離や撮影距離に制限があります。

制限のあるAFズームレンズ	注意していただきたいこと
AF-S ED 17～35mm f/2.8	焦点距離24mmの撮影距離0.8m以上で使用可能
AF 20～35mm f/2.8	焦点距離20mmの撮影距離1m以上で使用可能
AF-S ED 28～70mm f/2.8	焦点距離28mmの撮影距離2m以上、 焦点距離35mmの撮影距離0.7m以上で使用可能

※ 内蔵スピードライト撮影時に使える非CPUレンズは、焦点距離が20mmから200mmまでのニッコール（Ai-S、Ai、改造Ai）、ニコン レンズシリーズEが使用できます。ただし、以下のレンズは使用に制限があります。Ai改50-300mm f/4.5（200mmで使用可能）、Ai 50-300mm f/4.5（200mmで使用可能）、Ai改85-250mm f/4（135mm以上で使用可能）、Ai ED 50-300mm f/4.5（135mm以上で使用可能）、Ai-S ED 50-300mm f/4.5（135mm以上で使用可能）

内蔵スピードライト使用時のご注意

- 内蔵スピードライト撮影時は撮影動作モードが（連続撮影）にセットされても、連続撮影にはなりません。
- 内蔵スピードライトの充電中は、VRレンズのシャッターボタン半押し中の手ブレ補正を行いません。

23：内蔵スピードライトの発光モード (P.167)

内蔵スピードライトの発光モードは、通常D-TTL調光ですが、カスタムセッティング23「**内蔵スピードライトの発光モード**」を「**マニュアルフル発光モード**」に設定できます。このとき、内蔵スピードライトはフル発光し、ガイドナンバーは18（ISO200・m、20℃）/12.7（ISO100・m、20℃）となります。マニュアルフル発光モードでは、モニター発光は行われません。

D-TTLモードで撮影可能な別売スピードライトついて

スピードライトSB-80DX、SB-50DXまたはSB-28DXをカメラに装着し、スピードライトの発光モードをTTLにすると、モニター発光を行う専用TTLモード（D-TTLモード）にセットされ、使用するレンズにより、次の撮影が行えます。SB-80DX、SB-50DX、SB-28DX以外のスピードライトでは、D-TTLモードでの撮影はできません（P.111）。

装着レンズ	可能な別売スピードライト撮影
GまたはDタイプレンズ	D-3D-マルチBL調光
上記以外のCPUレンズ	D-マルチBL調光
すべてのレンズ	スタンダードD-TTL調光

別売スピードライトSB-80DX、SB-50DX

別売スピードライトSB-80DX、SB-50DXには次の共通の特長があります。

- D-TTLモード（P.100）に対応しています。GまたはDタイプレンズとの組み合わせでD-3D-マルチBL調光が可能で、画面内に極端に反射率が高い物がある場合や、背景が大きく抜けている場合でも、背景と被写体の明るさのバランスを考慮してより自然に表現します。
- 暗いところでもカメラのオートフォーカスによるピント合わせを可能にするアクティブ補助光を内蔵しています。
- レンズの焦点距離に応じて照射角を変化させるオートパワーズーム機能を備えています。

別売スピードライト使用時のご注意

別売スピードライトを使用するとき、測光モードをスポット測光にするとスタンダードD-TTL調光となります。内蔵スピードライトをポップアップして外部スピードライトを装着した場合、外部スピードライトは発光しません。ただし、SB-50DXの場合、SB-50DXの発光モード設定をマニュアルフル発光、かつフラッシュヘッドをバウンス撮影位置にすると、内蔵スピードライトとSB-50DX両方が発光します。

他社製のスピードライトについて

他社製のスピードライト（カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるものや、アクセサリーシュー部の接点をショートさせてしまうもの）を使用しないでください。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラおよびスピードライトのシンクロ回路を破損することがあります。

ニコンスピードライトSB-80DX

- ニコンスピードライトSB-80DXはガイドナンバー53（照射角35mm時、ISO200・m、20℃）/ガイドナンバー38（照射角35mm時、ISO100・m、20℃）の高性能スピードライトです。電源は単3形アルカリ乾電池を4本使用しますが、外部電源（別売）としてSD-7、8A、パワーブラケットSK-6もご使用になれます。
- フラッシュヘッドが上方向90°から下方向7°、左方向180°から右方向90°の範囲で回転し、バウンス撮影や近接撮影を簡単に行うことができます。
- 近接撮影やバウンス撮影など、広い照射角での撮影時にはワイドパネルとバウンスアダプターを併用すると、スピードライト光が拡散され、手前の被写体と背景がバランスよく照明された、ソフトな雰囲気の写真が撮れます。
- 周囲が暗い場合でも操作しやすいように、表示パネルにイルミネーターを備えています。
- カスタムセッティングにより、各種の設定が効率よく行えます。

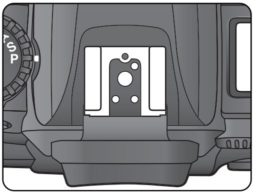
ニコンスピードライトSB-50DX

- ニコンスピードライトSB-50DXはガイドナンバー32（照射角35mm時、ISO200・m、20℃）/ガイドナンバー22（照射角35mm時、ISO100・m、20℃）の小型高性能スピードライトです。電源は3Vリチウム電池CR123Aタイプを2本使用します。
- フラッシュヘッドが上方向90°から下方向18°の範囲で回転し、バウンス撮影や近接撮影を簡単に行うことができます。
- スローシンクロ、後幕シンクロ、マニュアル発光などのスピードライト撮影が簡単に行えます。
- 内蔵スピードライトをポップアップした場合、SB-50DXの発光モードの設定をマニュアルフル発光、かつフラッシュヘッドをバウンス撮影位置にすると、内蔵スピードライトとSB-50DXの両方の発光が可能です。

詳細はご使用になるスピードライトの使用説明書をご覧ください。スピードライトSB-80DX・SB-50DXの使用説明書のカメラ分類表は、デジタル一眼レフカメラに該当する箇所をお読みください。ただし、FP発光の使用はできません。

アクセサリーシュー

このカメラはアクセサリーシューを装備しています。別売スピードライトSB-80DX・50DX・27・23・22S・29Sなどを使用する場合、アクセサリーシューに差し込むだけでコードレスで接続できます。セーフティロック機構（ロック穴）を備えていますので、セーフティロックピン付きのスピードライト（SB-80DX・27など）を取り付けると、スピードライトが不用意に外れるのを防止できます。



ホットシューアダプターAS-15

ホットシューアダプターAS-15（別売）を使用すると、シンクロターミナルが利用できます。

CSM 3：感度の自動制御 （P.154）

カスタムセッティング3「**感度の自動制御**」をONに設定していても、スピードライト使用時には設定撮像感度で撮影されます。

使用可能な別売スピードライト

このカメラには、次の別売スピードライトが使用できます。装着レンズ欄の①はGまたはDタイプレンズ（IXニッコールを除く）、②はGおよびDタイプ以外のCPUレンズ（F3AF用を除く）、③は非CPUレンズを示します。

スピードライト	装着レンズ	区分 D-TTL			AA	A	M		REAR	
		D-3D-マルチBL調光	D-マルチBL調光	スタンダードD-TTL調光	絞り連動自動調光	外部自動調光	マニュアル	マルチフラッシュ	後幕シンクロ	赤目軽減発光
SB-80DX SB-28DX	①	○※1		○※2	○		○	○	○	○
	②		○※1	○※2	○		○	○	○	○
	③			○		○	○	○	○	○
SB-50DX	①	○※1		○※2			○		○	
	②		○※1	○※2			○		○	
	③			○			○		○	

以下のスピードライトを使用する場合、外部自動調光（A）あるいはマニュアル発光撮影となります。TTLにセットすると、カメラのシャッターボタンはロックされ、撮影できません。装着レンズ欄の①はGまたはDタイプレンズ（IXニッコールを除く）、②はGおよびDタイプ以外のCPUレンズ（F3AF用を除く）、③は非CPUレンズを示します。

スピードライト	装着レンズ	区分 A	M		REAR	
		外部自動調光	マニュアル	マルチフラッシュ	後幕シンクロ	赤目軽減発光
SB-28 SB-26※3	①	○	○	○	○	○
	②	○	○	○	○	○
	③	○	○	○	○	○
SB-27※4	①	○	○		○	○
	②	○	○		○	○
	③	○	○		○	○
SB-25 SB-24	①	○	○	○	○	
	②	○	○	○	○	
	③	○	○	○	○	
SB-23※5 SB-29※6、※5 SB-21B※6、※5 SB-29S※6、※5	①		○		○	
	②		○		○	
	③		○		○	
SB-30 SB-22S SB-22 SB-20 SB-16B SB-15	①	○	○		○	
	②	○	○		○	
	③	○	○		○	
SB-11※7 SB-14※7	①	○	○		○	
	②	○	○		○	
	③	○	○		○	

※1　測光モードをスポット測光以外にセットしてください。

※2　測光モードをスポット測光にしてください。

※3　SB-26はスレーブ発光が行えます。ワイヤレススレーブセレクターをDにした場合、カメラのシャッタースピードは自動的に1/125秒より低速側に切り換わります。

※4　D100とSB-27を組合わせると自動的にTTLモードにセットされますが、TTLモードでは使用できませんので、SB-27を強制Aモードへセットし直して下さい。

※5　マニュアル発光撮影のみのため、おすすめしません。

※6　SB-29S・29・21B使用時のオートフォーカス撮影は、AFマイクロ（60mm・105mm・200mm・70～180mm）レンズ装着時のみ可能です。

※7　SB-11・14を使用して、Aモード、またはMモードを使用する場合は、SC-13にSU-2を併用して、それぞれ接続します。SB-11・14とも、SC-11かSC-15を使用して接続することもできますが、この場合、カメラのファインダー内表示のレディライトは使用できません。また、シャッタースピードの自動切り換えも行われません。

別売スピードライト使用時の注意

- 詳細はご使用になる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。
  D-TTLが可能な別売スピードライトの使用説明書にカメラ分類表が記載されている場合は、デジタル一眼レフに該当する箇所をお読みください。
- スピードライト使用時の同調シャッタースピードは1/180秒以下の低速シャッタースピードです。
- D-TTL モード時の撮像感度連動範囲はISO200～1600相当です。
- SB-26･25･24使用時、後幕シンクロモードの設定はスピードライト側の設定が優先されます（ただし、カメラ側が「**赤目軽減モード**」または「**赤目軽減スローシンクロモード**」時を除きます）。
- カメラのシンクロモードを「**赤目軽減モード**」または「**赤目軽減スローシンクロモード**」にセットし、赤目軽減発光機能を持つ別売スピードライト（SB-80DX、28DX、28、27、26のみ）を使用すると、別売スピードライト側の赤目軽減ランプが発光します。
- フォーカスモードがAF-SでAFレンズを装着し、被写体が暗く、フォーカスエリアが中央に選択された状態か、または至近優先ダイナミックAF時以外は、アクティブ補助光を備えた別売スピードライトを使用した場合でもアクティブ補助光は点灯しません。
- パワーブラケットSK-6とSB-24の組み合わせでは、スピードライト側のアクティブ補助光も、カメラ側のAF補助光も発光しません。
- 露出モードが**P**（マルチプログラムオート）の場合、カメラが自動で設定する別売スピードライトの開放側の限界絞りは、使用する感度によって下表のように制御されます。

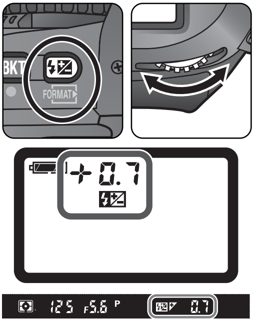
撮像感度（ISO）と開放側の限界絞り（F）									
200	250	320	400	500	640	800	1000	1250	1600
4.8	5	5.3	5.6	6	6.3	6.7	7.1	7.6	8

※ 感度1段に対して絞りは1/2段変化します。制御される絞りよりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

- シンクロターミナルを必要とする際には、ホットシューアダプタAS-15（別売）をご使用ください。
- スピードライトの調光補正時は、ファインダー内に調光補正マーク が点灯しますが、補正値は表示されません。
- D-TTLモード時に、調光コードSC-17を使用してカメラからスピードライトを離して撮影する場合、スタンダードD-TTL調光以外のD-TTLモードでは適正露出を得られない場合があります。この場合は、スタンダードD-TTL調光に切換えて撮影してください。また、あらかじめテスト撮影を行ってください
- D-TTLモード時に、発光面に内蔵パネル以外の部材（拡散板など）を装着しないでください。カメラ内の演算に誤差が生じ、適正露光とならない場合があります。
- D-TTL モード時には、TTL 増灯撮影ができません。

調光補正

調光補正とは、スピードライトとカメラが行う適正な調光を意図的に変えることをいいます。たとえば、発光量をより多くして主要被写体を一段と明るく照らしたいとき、あるいは発光量をより少なくして、主要被写体に光が強く当たりすぎないようにしたいときに使用します。



1 調光補正ボタン [調光補正ボタン] を押しながら、メインコマンドダイヤルで補正量（1/3段ステップで＋1段～－3段）をセットします。

- 補正量をセットすると、表示パネルとファインダー内表示に調光補正マーク [調光補正マーク] が表示されます。補正量の確認は調光補正ボタン [調光補正ボタン] を押すだけで行えます。
- 補正の目安としては、被写体（たとえば人物など）に対して、背景が明るい場合は＋側に、背景が暗い場合は－側に補正するのが基本です。

2 スピードライトロック解除ボタンを押してスピードライトを上げ、シンクロモードと露出モードをセットします。

3 構図を決めピントを合わせ、ファインダー内にレディライト ϟ が点灯していることを確認し、調光範囲を考慮して撮影します。詳しくは「内蔵スピードライトを使用した撮影」（P.104）をご覧ください。

- 調光補正を解除する場合は、調光補正ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルで補正量を0.0にセットするか、ツーボタンリセット（P.116）を行ってください（カメラの電源スイッチをOFFにしても解除されません）。

別売スピードライト使用時

別売スピードライトを使用時も、調光補正することができます。

CSM 9：露出値のステップ幅の変更（P.158）

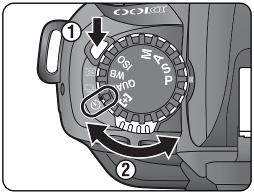
調光補正量のステップを1/2段に変更できます。

セルフタイマー撮影

セルフタイマーによる撮影は記念写真など、撮影者自身もいっしょに写りたいときなどに便利です。

1 三脚などを使用してカメラを固定してください。

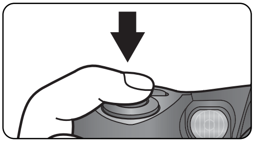
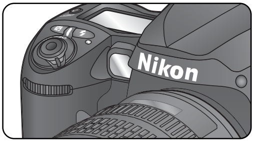
2 撮影動作モードダイヤルロックボタンを押しながら、撮影動作モードダイヤルをセルフタイマー にセットします。



3 構図を決め、ピントを合わせます。

- フォーカスモードがシングル AF サーボ（AF-S）でピントが合っていないときなど、カメラのシャッターがきれない状態ではセルフタイマーは作動しません。
- 適正露出に影響を与える接眼部からの逆入光を防ぐため、**M**（マニュアル）以外の露出モードで撮影する場合は、シャッターボタンを押す前に手または付属のアイピースキャップDK-5で接眼部を覆ってください。アイピースキャップは、接眼目当てを取り外し、ファインダー接眼部の上から差し込むように取り付けます。
- AF（オートフォーカス）でピントを合わせる場合は、セルフタイマーを作動させるときにレンズを体などで覆わないように注意してください。

4 シャッターボタンを押します。

- 作動を開始すると、セルフタイマーランプ（AF補助光）が約8秒間点滅、約2秒間点灯して合計で約10秒後にシャッターがきれます。
- 露出モードが **M**（マニュアル）で、シャッタースピードが bulb にセットされている場合は、シャッタースピードが約1/4秒でシャッターがきれます。
- 解除するときは、撮影動作モードダイヤルをセルフタイマー ⏲ 以外にセットします。

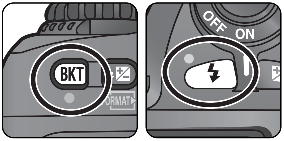
CSM 8：セルフタイマー時間の変更（P.157）

セルフタイマーの作動時間を2秒、5秒、20秒のいずれかに変更できます。

ツーボタンリセット

ツーボタンリセットにより、簡単に各機能の働きやカメラ各部の設定を初期状態に戻すことができます。カメラ操作中にいったんカメラを初期状態に戻したい場合に便利です。ただし、ツーボタンリセットでカスタムセッティングのリセットはできません。

ブラケティングボタン BKT とシンクロモードボタン ⚡（それぞれのボタンの脇に緑色の●が表示されています）を2秒以上同時に押すと、一瞬表示パネルの表示が消え、カメラの各機能が次のように初期設定に戻ります。



機能	初期設定
フォーカスエリア	中央
AFエリアモード	シングルエリア
プログラムシフト	解除
露出補正	解除（0.0）
AEロック維持	解除
ブラケティング	解除
シンクロモード	先幕シンクロ
調光補正	解除（0.0）

ツーボタンリセットでは、次の撮影メニュー項目の内容も初期状態に戻ります。ただし、初期状態に戻るのは撮影メニュー「**撮影メニューの切換え**」（P.140）で選択されている「**メニューA**」または「**メニューB**」の内容のみです。現在選択していないメニューの項目は初期状態に戻りません。

撮影メニュー項目	初期設定
画質モード	NORMAL
記録サイズ	L
ホワイトバランス	**A**（オート）
ホワイトバランス微調整	解除（0）
ISO設定	200

R：カスタムセッティングのリセット（P.150）

カスタムセッティングR「**カスタムのリセット**」で「**ON**」を選択するとリセットできます。

ツーボタンリセット時のファンクションダイヤル

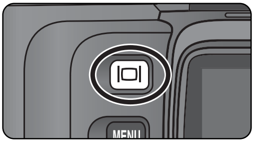
ツーボタンリセットは、ファンクションダイヤルが**P**、**S**、**A**、**M**にセットされているときにのみ機能します。

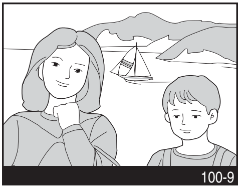
再生機能の詳細

ここでは、1コマ再生表示、画像情報の表示、サムネイル表示、拡大表示、画像のプロテクトなど再生中の操作についての詳細を説明します。

1コマ再生表示

このカメラは、ワンタッチでコンパクトフラッシュカードに記録した画像を再生できます。撮影済みの画像を再生するにはモニタボタン [▣] を押します。最後に撮影した画像が液晶モニタに表示されます。





- 1コマ再生表示中にモニタボタン MENU を押すと、再生を終了し、メニュー画面（P.39）が表示されます。
- モニタボタン [▣] を押す、またはシャッターボタンを半押しすると、モニタの表示画面が消え、撮影可能状態になります。

マルチセレクターの操作

液晶モニタが点灯している場合は、フォーカスエリアロックスイッチの設定位置に関係なく、マルチセレクターで操作を行うことができます。

1：撮影時の撮影画像の確認（P.153）

カスタムセッティング1「**撮影画像確認**」をONに設定すると、モニタボタンを押さなくても、撮影した画像をコンパクトフラッシュカードに記録しながら自動的に液晶モニタに表示します。

- 1コマ/セルフタイマー撮影時は、1コマずつ再生され表示されます。
- 連続撮影時は、撮影が終了したのちに、連写時の最初のコマから順次画像表示を行います。
- 画像の表示が完了する前に次の撮影を行うと、再生が終了します。
- 撮影後、シャッターボタンを戻すと、画像の再生が開始されます。

6：液晶モニタのパワーオフ設定（P.157）

初期設定では、20秒間何も操作を行わないと、液晶モニタ表示は自動的にOFFになります。カスタムセッティング6を使用すると、自動的にOFFになるまでの時間を変更できます。

画像情報の表示

1コマ再生表示中にマルチセレクターの▶を押すと、次のように撮影情報の表示が切換わります。マルチセレクターの◀を押すと前のページに戻ります。

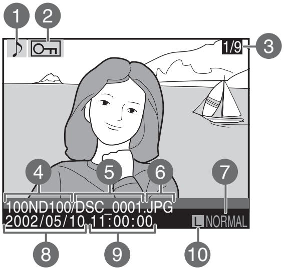
▶ページ1 → ページ2 → ページ3 → ページ4 → ページ5 → ページ6 → 表示なし →（ページ1へ）

ページ1



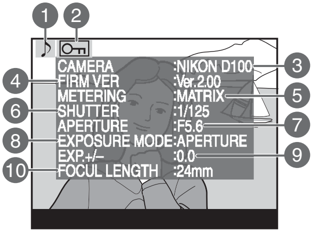
1. 音声メモの有無 P.191
2. プロテクト設定の有無.......... P.125
3. フォルダ番号/コマ番号 P.130

ページ2



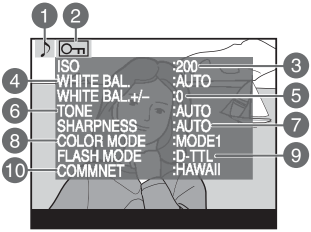
1. 音声メモの有無 P.191
2. プロテクト設定の有無.......... P.125
3. コマ番号/画像数 P.35
4. フォルダ名 P.131
5. ファイル名 P.44
6. ファイル形式 P.44
7. 画質モード P.44
8. 撮影日付 P.18
9. 撮影時間 P.18
10. 記録サイズ P.46

ページ3



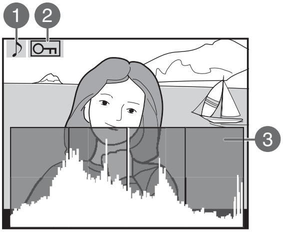
1. 音声メモの有無 P.191
2. プロテクト設定の有無.......... P.125
3. カメラ名
4. ファームウェアバージョン
5. 測光モード P.78
6. シャッタースピード ..... P.79～88
7. 絞り値 .... P.79～88
8. 露出モード P.79
9. 露出補正値 P.92
10. 焦点距離 P.190

ページ4



1 音声メモの有無 P.191
2 プロテクト設定の有無.......... P.125
3 撮像感度 P.48
4 ホワイトバランス P.50
5 ホワイトバランス微調整 P.53
6 階調補正 P.61
7 輪郭強調 P.60
8 カラー設定 P.63
9 スピードライトモード.......... P.100
10 画像コメント P.174

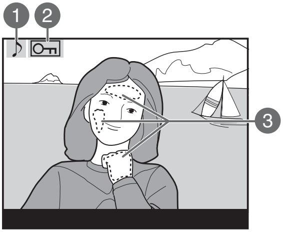
ページ5（ヒストグラム表示）※



1 音声メモの有無 P.191
2 プロテクト設定の有無.......... P.125
3 画像のヒストグラムが表示されます。横軸は輝度、縦軸は画素数を表します。

※ 再生メニューの「**再生画面設定**」(P.138) で「**ヒストグラム**」または「**ヒストグラム＆ハイライト**」が選択されている場合のみ表示されます。

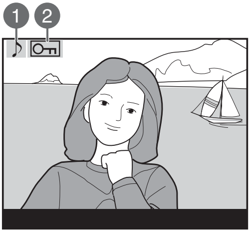
ページ6（ハイライト表示）※



1 音声メモの有無 P.191
2 プロテクト設定の有無.......... P.125
3 画像のハイライト部分がブリンキング表示されます。

※ 再生メニューの「**再生画面設定**」(P.138) で「**ハイライト**」または「**ヒストグラム＆ハイライト**」が選択されている場合のみ表示されます。

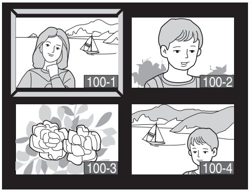
ページ7（画像のみ）



1 音声メモの有無 P.191
2 プロテクト設定の有無.......... P.125

サムネイル表示

サムネイルボタン を押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、画面に表示される画像の数を切換えることができます。設定できるのは、1コマ、4コマまたは9コマのいずれかです。4コマと9コマの表示時は、画像はサムネイル（縮小画像）で一覧表示されます。この状態では次の操作が可能です。



機能	操作	内容
表示コマ数の変更		サムネイルボタン を押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、表示コマ数（1コマ/4コマ/9コマ）が切り替わります。
画像の選択		マルチセレクターの▲/▼/◀/▶を押すと、表示画面でカーソル（黄色い枠）が移動します。選択する画像にカーソルを合わせます。
ページ送り		サムネイルボタン を押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、設定されたコマ数（4コマ/9コマ）単位でページ送りされます。
選択画像の削除		削除ボタン を押すと削除確認画面が表示されます。 •「**いいえ**」を選択して実行ボタン ENTER を押すと、画像は削除されずにサムネイル表示画面に戻ります。 •「**はい**」を選択して実行ボタン ENTER を押すと、表示中の画像の削除が実行され、サムネイル表示画面に戻ります。
選択画像の拡大表示		実行ボタン ENTER を押すと選択中の画像が拡大表示されます（P.124）。さらに、サムネイルボタン を押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、拡大率を変更できます。拡大表示中に、マルチセレクターの▲/▼/◀/▶を操作すると、画面をスクロールさせて見たい部分に移動できます。再度実行ボタン ENTER を押すと、拡大表示が終了し、サムネイル表示画面に戻ります。

機能	操作	内容
表示画像のプロテクト設定/解除	(プロテクトボタン)	画像の表示中にプロテクトボタンを押すと、選択されている画像にプロテクトマークが表示され、プロテクトがかかります。プロテクトマークが表示されている画像は、削除ボタンまたは再生メニューの「削除」では削除できません（ただし、コンパクトフラッシュカードをフォーマットすると、プロテクトをかけた画像も削除されます）。プロテクトマークが表示されている画像を選択してプロテクトボタンを押すと、プロテクトマークが消え、プロテクトが解除されます。
メニュー画面の表示	MENU	メニューボタンを押すと、再生を終了し、メニュー画面（P.39）が表示されます。
撮影モードに戻る	シャッターボタン/ (モニタボタン)	モニタボタンを押す、またはシャッターボタンを半押しすると、モニタの表示画面が消え、撮影可能状態になります。

マルチセレクターの操作

液晶モニタが点灯している場合は、フォーカスエリアロックスイッチの設定位置に関係なく、マルチセレクターで上記の操作を行うことができます。

CSM 1：撮影時の撮影画像の確認（P.153）

カスタムセッティング1「**撮影画像確認**」をONに設定すると、モニタボタンを押さなくても、撮影した画像をコンパクトフラッシュカードに記録しながら自動的に液晶モニタに表示します。

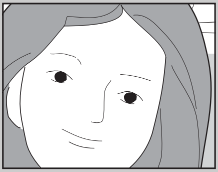
- 1コマ/セルフタイマー撮影時は、1コマずつ再生され表示されます。
- 連続撮影時は、撮影が終了したのちに、連写時の最初のコマから順次画像表示を行います。この場合、設定されているコマ数（1コマ/4コマ/9コマ）ずつ表示されます。
- 画像の表示が完了する前に次の撮影を行うと、再生が終了します。
- 撮影後、シャッターボタンを戻すと、画像の再生が開始されます。

CSM 6：液晶モニタのパワーオフ設定（P.157）

初期設定では、20秒間操作を行わないと、液晶モニタ表示は自動的に消灯します。カスタムセッティング6により、自動的に液晶モニタが消灯するまでの時間を変更できます。

拡大表示

画像の表示中に実行ボタン ENTER を押すと、表示されている画像（1コマ表示時）または選択されている画像（4コマ/9コマ表示時）が拡大表示されます。この状態では次の操作が可能です。

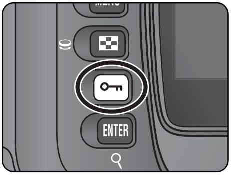
機能	操作	内容
拡大表示の開始/終了	ENTER（🔍）	実行ボタン ENTER を押すと、画像が拡大表示されます。拡大表示中に実行ボタン ENTER を押すと、拡大表示が終了し、拡大再生前の表示に戻ります。
拡大率の変更	＋ 	サムネイルボタン を押しながらメインコマンドダイヤルを右に回すと、拡大率が大きくなります。その状態でサムネイルボタン を押しながらメインコマンドダイヤルを左に回すと、拡大率が小さくなります。
拡大エリアの選択	＋ 	実行ボタン ENTER で拡大後、サムネイルボタン を押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、赤い拡大エリア選択枠が表示されます。この選択枠は、サムネイルボタン を押しながらメインコマンドダイヤルを右に回すと小さくなり、左に回すと大きくなります。マルチセレクターの▲/▼/◀/▶を操作して拡大したい画像の部分に拡大エリア選択枠を移動させ、サムネイルボタン を押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、拡大エリア選択枠内の部分が瞬時に拡大表示されます。 
画像の他の部分の表示		画像の拡大表示中にマルチセレクターの▲/▼/◀/▶を押すと、画面をスクロールさせて見たい部分に移動できます。マルチセレクターを押し続けると、フォーカスエリアロックスイッチの設定位置にかかわらず、高速移動することができます。 

画像のプロテクト

画像にプロテクトをかけると、その画像を削除することができなくなります。これにより誤って画像を削除してしまうことを防止できます。画像の表示中にプロテクトボタン（O‐π）を押すと、表示されている画像（1コマ表示時）または選択されている画像（4コマ/9コマ表示時）にプロテクトがかかります。

1 1コマ表示の場合は、プロテクトする画像を表示します。サムネイル表示の場合は、プロテクトする画像をマルチセレクターにより選択します。

2 プロテクトボタン（O‐π）を押します。画像にプロテクトマーク（O‐π）が表示されます。





画像のプロテクトを解除するには、解除する画像を表示（1コマ表示の場合）、または選択（サムネイル表示の場合）して、プロテクトボタン（O‐π）を押します。

プロテクト画像のフォーマット

コンパクトフラッシュカードをフォーマットすると、プロテクト設定した画像も消去されますのでご注意ください。

プロテクト画像のファイル属性

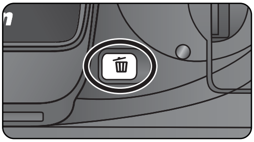
プロテクト設定した画像は、DOSファイルフォーマットの「読み取り専用」属性になります。

画像の削除

画像の再生画面では、ボタン操作によって1コマ単位で削除できます。削除した画像は元に戻せません。

1 1コマ再生表示の場合は、削除する画像を表示します。サムネイル表示の場合は、削除する画像を選択します。

2 削除ボタン 🗑 を押します。削除確認の画面が表示されます。







- マルチセレクターの▲または▼の操作により、「**いいえ**」を選択して実行ボタン ENTER を押すと、画像は削除されずにサムネイル表示画面に戻ります。
- マルチセレクターの▲または▼の操作により、「**はい**」を選択して実行ボタン ENTER を押すと、表示中の画像の削除が実行されてサムネイル表示画面に戻ります。
- 画像削除の確認画面で、削除をキャンセルする場合は、マルチセレクターの◀を押します。

プロテクト設定 / 非表示設定された画像の削除

プロテクト設定されている画像や、非表示設定されている画像は削除できません。

画像の削除（P.128）

再生メニューの「**削除**」では、複数の画像を選択して削除したり、全画像を一括して削除することができます。

メニューガイド

再生メニュー
撮影メニュー
カスタムメニュー
SETUP メニュー

液晶モニタに表示されるメニュー画面からカメラの各種設定を変更できます。

再生メニュー（P.128～138）

再生メニューには、コンパクトフラッシュカードに記録した画像をスライドショーで再生するなどのメニュー項目が含まれています。

撮影メニュー（P.139～148）

撮影メニューには、輪郭強調や階調補正など、より高度な撮影を楽しむ場合のメニュー項目が含まれています。

カスタムメニュー（P.149～168）

カスタムメニューは、カメラの各種設定を撮影者の好みに合わせて変更する、カスタムセッティングに使用します。

SETUP メニュー（P.169～175）

SETUP メニューは、コンパクトフラッシュカードのフォーマットや日付の設定など、カメラの基本的なセットアップに使用するメニュー項目が含まれています。

再生メニュー

再生メニューには、次のメニュー項目があります。



メニュー項目	参照ページ
削除	P.128～129
フォルダ設定	P.130～131
スライドショー	P.132～133
非表示設定	P.134
プリント指定	P.135～137
再生画面設定	P.138

削除

再生メニュー画面から「**削除**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、削除画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。



設定	内容
選択画像削除	選択した画像を削除します。
全画像削除	全画像を削除します。

注）選択画像削除、または全画像削除を実行する場合、作成されているフォルダ数、および、記録されている画像ファイル数により、画像の削除が完了するまで数十分の時間がかかる場合があります。

選択画像の削除

「**選択画像削除**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、再生メニュー画面の「**フォルダ設定**」（P.130）で設定したフォルダ内の画像がサムネイル表示されます。

非表示設定、プロテクト設定された画像について

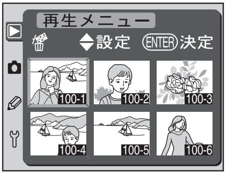
（プロテクトマーク）がついている画像はプロテクト設定されているため、削除できません。また、非表示設定（P.134）されている画像はサムネイル表示されないため、削除できません。

マルチセレクターの操作

液晶モニタが点灯している場合は、フォーカスエリアロックスイッチの設定位置に関係なく、マルチセレクターで操作を行うことができます。

1

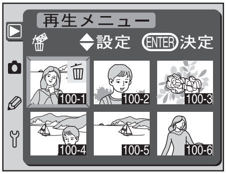




マルチセレクターの◀または▶を操作して削除する画像を選択します。

2





マルチセレクターの▲または▼の操作により削除が設定されます。削除が設定された画像には 🗑 が表示されます。

- 1と2の手順を繰り返して削除する画像をすべて設定してください。
- 削除の設定を解除する場合はマルチセレクターの▲または▼を押して、🗑 を消します。
- 削除設定を行わずに終了する場合は、メニューボタン MENU を押すと、再生メニュー画面に戻ります。

3





削除設定した状態で実行ボタン ENTER を押すと選択画像削除画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を操作して、「**いいえ**」または「**はい**」を選択します。

- 「**いいえ**」を選択してから実行ボタン ENTER を押すと、画像の削除は行われずに選択画像削除画面に戻ります。
- 「**はい**」を選択してから実行ボタン ENTER を押すと、画像の削除を実行し、削除完了表示をして再生メニュー画面に戻ります。

  注）削除される画像に関連した音声メモも同時に削除されます。

全画像削除

「**全画像削除**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、右の画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を操作して、「**いいえ**」または「**はい**」を選択します。



- 「**いいえ**」を選択してから実行ボタン ENTER を押すと画像の削除は行われずに削除画面に戻ります。
- 「**はい**」を選択してから実行ボタン ENTER を押すと、「**フォルダ設定**」（P.130）で設定したフォルダ内の全画像の削除が実行され、**削除完了**表示後、再生メニュー画面に戻ります。

フォルダ設定

画像を記録するフォルダの新規作成や、画像を再生するフォルダを設定します。再生メニュー画面（P.128）から「**フォルダ設定**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「フォルダ設定」の画面が表示されます。



マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

設定	内容
新規作成	画像を記録するフォルダを新規に作成します。選択してマルチセレクターの▶を押すと、フォルダ番号設定画面に移行します。マルチセレクターの▲または▼を操作してフォルダ番号の数値を設定し、マルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になりフォルダ設定画面に戻ります。次に撮影する画像は、ここで作成した新規フォルダに保存されます。 
フォルダの選択	画像を再生するフォルダを選択します。選択してマルチセレクターの▶を押すと、フォルダの選択画面に移行します。

記録するフォルダについて

画像を記録するフォルダは選択できません。

ボタン操作によるフォルダの新規作成

プロテクトボタン を押しながら電源をONにすると新規フォルダが作成されます。ただし、コンパクトフラッシュカードに空のフォルダがすでに存在する場合は作成されません。また、現在記録中のフォルダ番号が最大値999の場合にこの操作を行うと、新規にフォルダが作成できないためエラーが発生し、表示パネルの撮影可能コマ数表示部に CHA の文字が点滅します。

フォルダの選択画面の操作方法

フォルダの選択画面ではマルチセレクターの▲または▼を押して、再生時に画像を参照するフォルダを選択します。



マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

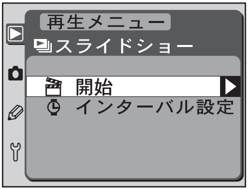
設定	内容
ND100	D100で作成されたすべてのフォルダを選択します。
全てのフォルダ	コンパクトフラッシュカードに記録されている、参照可能なすべてのフォルダを選択します。
現在記録中のフォルダ	現在記録に使用されているフォルダを選択します。

フォルダ設定内の新規作成で新しいフォルダを作成した場合

複数のフォルダを作成した状態で、再生するフォルダ設定を「**現在記録中のフォルダ**」にすると、「**新規作成**」で作成した最終フォルダのみが再生の対象となります。例えば、101ND100、102ND100に続いて103ND100が新規作成された場合、103ND100のみ再生が可能です。他のフォルダを再生する場合は、「ND100」、または「**全てのフォルダ**」を選択してください。

スライドショー

画像を一定の間隔で順次再生する「**スライドショー**」で再生する場合に使用します。再生メニュー画面（P.128）から「**スライドショー**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「スライドショー」の設定画面が表示されます。



マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

設定	内容
開始	スライドショーを開始します。
インターバル設定	画像を切換える時間間隔を設定します。

スライドショーの開始

「**開始**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、スライドショーが始まります。「**フォルダ設定**」（P.130）で設定されたフォルダ内の画像が記録された順番で再生されます。ただし、「**非表示設定**」（P.134）されている画像は再生されません。スライドショーの実行中は、次の操作が可能です。

操作	ボタン	内容
1コマ進む	▼	マルチセレクターの▼を押すと、1コマ進みます。
1コマ戻る	▲	マルチセレクターの▲を押すと、1コマ戻ります。
画像情報を見る	◀ ▶	マルチセレクターの◀または▶を押すとスライドショーの再生中に画像情報が表示され、画像情報画面の切換えができます。
一時停止する	ENTER	実行ボタン ENTER を押すとスライドショーが一時停止します（133）。

操作	ボタン	内容
再生メニューへ戻る	MENU	メニューボタンを MENU を押すと、スライドショーを中止して再生メニューに戻ります。
再生モードに戻る	[モニタボタン]	モニタボタンを [モニタボタン] を押すと、スライドショーを中止して再生モードに戻ります。
撮影モードに戻る	シャッター半押し	シャッターボタンを半押しすると液晶モニタが消灯し、スライドショーを中止して撮影モードに戻ります。

スライドショーが終了するか、一時停止をした場合には右の画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼でメニュー項目を選択し、▶を押すと実行されます。



- 「**再開**」を選択すると、現在表示されている画像の次からスライドショーが再開されます。
- 「**インターバル設定**」を選択すると、画像を切換える時間の間隔を設定できます。
- この状態でマルチセレクターの◀を押すか、メニューボタン MENU を押すと、再生メニュー画面に戻ります。

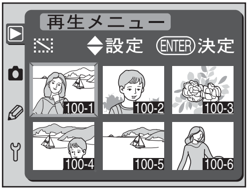
インターバル設定

1コマの画像を表示している時間の変更ができます。スライドショーの開始前、終了後、または一時停止中に表示される選択画面から、「**インターバル設定**」を選択します。画像を表示している時間を2秒、3秒、5秒、10秒のいずれかから、マルチセレクターの▲または▼を操作して選択します。



インターバル時間を選択した後、マルチセレクターの▶を押すと設定が有効になり、スライドショー画面に戻ります。「**開始**」を選択してマルチセレクターの▶を押すと、スライドショーが始まります。

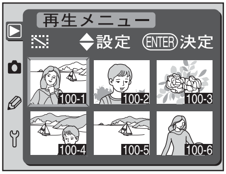
非表示設定



画像を非表示設定にすると、その画像は非表示設定画面以外では表示されなくなります。再生メニュー画面（P.128）から「**非表示設定**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「非表示設定」の画面が表示されます。

1

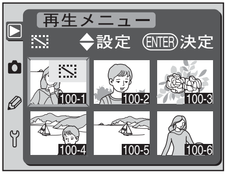




マルチセレクターの◀または▶を操作して非表示設定にする画像を選択します。

2





マルチセレクターの▲または▼をの操作により非表示設定されます。非表示設定された画像には ⬚ が表示されます。

- 1と2の手順を繰り返して非表示にする画像をすべて設定してください。
- 非表示設定を解除する場合はマルチセレクターの▲または▼を押して ⬚ を消します。
- 非表示設定を行わずに終了する場合はメニューボタン MENU を押すと、再生メニュー画面に戻ります。

3





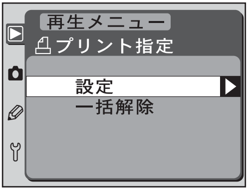
非表示設定した状態で実行ボタン ENTER を押すと非表示設定が完了し、再生メニュー画面に戻ります。

非表示画像のファイル属性とコマ番号

非表示設定画像は、DOS ファイルフォーマットの「隠しファイル」属性と「読み取り専用」属性がセットされます。画像は非表示設定画面以外では表示されませんが、コマ番号は付加されます。

プリント指定

画像のプリント指定を行います。セットした内容はプリント指定ファイルとしてコンパクトフラッシュカードに保存されます。このカメラはデジタルプリントオーダーフォーマット(DPOF)に準拠しています。ただし、画質モードをRAWに設定して撮影された画像のプリント指定はできません。再生メニュー画面 (P.128) から「**プリント指定**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「プリント指定」の設定画面が表示されます。



マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

設定	内容
設定	プリント指定を行います。
一括解除	プリント指定を一括解除します。

Exif※ Version 2.2 について

D100は、Exif Version 2.2に対応しています。Exif Version 2.2は、デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。Exif Version 2.2対応のプリンターを使用することで、撮影時のカメラ情報を活かし、プリンターが最適なプリント出力を提供することができます。プリンターの使用説明書を読んでご使用ください。

※ Exif = Exchangeable image file format for digital still cameras

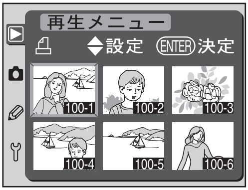
デジタルプリントオーダーフォーマット (DPOF)

DPOFは、デジタルカメラで撮影した画像をラボプリントサービスや、家庭用のプリンタで自動プリントするための記録フォーマットです。これは、現在の各社独自仕様となっているプリント情報を標準化することで、より効率的なプリントの実現をするための規格です。

- ご使用のプリンタ・プリントサービスがDPOFに対応しているかご確認ください。
- ニコンデジタルフォトプリンタNP-100は、日付機能に対応していません。

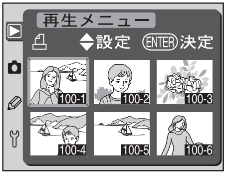
プリント指定の設定

「**設定**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「プリント画像選択」の設定画面が表示されます。



1

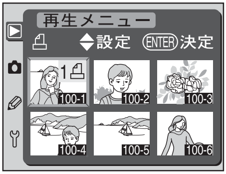




マルチセレクターの◀または▶を操作してプリント指定する画像を選択します。

2





マルチセレクターの▲または▼を操作することによりプリント指定を行います。プリント指定された画像には1凸が表示されます。マルチセレクターを使ってプリントする枚数を指定します。

- ▲を押すとプリント枚数は増加し（最高９枚）、▼を押すと減少します。
- プリント指定を解除する場合は、プリント枚数が１のときに▼を押します。
- １と２の手順を繰り返してプリントする画像をすべて選択します。
- プリント指定を行わずに終了する場合は、メニューボタン MENU を押すと再生メニュー画面に戻ります。

プリント指定を行った場合のご注意

- プリント指定ファイルを作成したコンパクトフラッシュカード内の画像を、パソコンなどで削除しないでください。
- プリント指定した画像に、後から非表示設定の操作を行わないでください。

直接プリントする場合の注意点

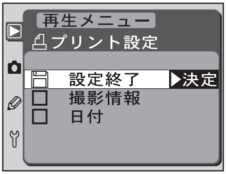
画像の修正を行わずに直接プリントする画像を撮影するときは、撮影メニューの「**カラー設定**」を「**モードI (sRGB)**」または「**モードIII (sRGB)**」にすることをおすすめします（P.63）。

RAW画像

画質モードがRAW（P.44）の場合、プリント指定はできません。

3





プリント指定した状態で実行ボタン ENTER を押すとプリント指定が完了し、プリント設定画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を押して プリント時に印字する情報を選択します。

- 指定したすべての画像にシャッタースピードと絞り値をプリントするときは、「**撮影情報**」を選択して▶を押します。**撮影情報**の前の□に✓が入ります。
- 指定したすべての画像の撮影日をプリントするときは、「**日付**」を選択して▶を押します。**日付**の前の□に✓が入ります。
- 選択した項目のチェックを外すときは、その項目を選んで▶を押します。
- 選択項目の□に✓が入った状態で、「**設定終了**」を選んで▶を押すと、プリント指定が実行され、再生メニュー画面に戻ります。

プリント指定の一括解除

「**一括解除**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「**設定終了**」画面が一瞬表示されて再生メニュー画面に戻ります。



再生画面設定

画像を1コマ再生する場合の撮影情報（P.120）にヒストグラム表示やハイライト表示のページを追加します。再生メニュー画面（P.128）から「**再生画面設定**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「再生画面設定」の画面が表示されます。



マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

設定	内容
ノーマル	ヒストグラム、ハイライトともに表示されません。
ヒストグラム	撮影情報にヒストグラム表示のページを追加します。
ハイライト	撮影情報にハイライト表示のページを追加します。
ヒストグラム&ハイライト	撮影情報にヒストグラム表示とハイライト表示のページを追加します。

それぞれの表示についての詳細は、P.121をご覧ください。

撮影メニュー

撮影メニューには、次のメニュー項目があります。





設定	
撮影メニューの切換え	P.140
画質モード	P.141
記録サイズ	P.142
WB設定	P.143
ISO設定	P.144
輪郭強調	P.145
階調補正	P.146
カラー設定	P.147
色合い調整	P.148

各メニュー項目は、マルチセレクターの▼または▲を操作して選択します。撮影メニュー画面は2ページから構成されています：

- 2ページ目を表示するときは、「**ISO設定**」を選択してマルチセレクターの▼を押すか、「**撮影メニューの切換え**」を選択して▲を押します。
- 最初のページに戻るには、「**ISO設定**」を選択して▲を押すか、「**色合い調整**」を選択して▼を押してください。

マルチセレクターの操作

液晶モニタが点灯している場合は、フォーカスエリアロックスイッチの設定位置に関係なく、マルチセレクターで操作を行うことができます。

撮影メニューの切換え



撮影メニューのセット状態を２通り、「**メニューA**」、「**メニューB**」として記憶させておくことができ、撮影状況に合わせて、あらかじめ記憶させておいたセットを一括して簡単に呼び出すことができます。

また、撮影メニューにある項目をメニュー画面やファンクションダイヤルで変更すると、現在選択されているメニュー（AまたはBのいずれか）の内容に上書きされます。

撮影メニュー画面（P.139）から「**撮影メニューの切換え**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「撮影メニューの切換え」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

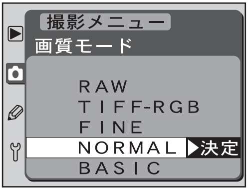
設定	内容
メニューA	メニューAを選択します。
メニューB	メニューBを選択します。

「感度自動制御」について

カスタムセッティング３「**感度自動制御**」を「**ON**」にした後、撮像感度をHI-1またはHI-2に設定した撮影メニュー（AまたはB）へ変更した場合、感度自動制御は機能しません。

画質モード

画像を記録する際の画質を選択します。撮影メニュー画面（P.139）から「**画質モード**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「画質モード」の設定画面が表示されます。



マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

設定	内容
RAW	CCD（撮像素子）からの生出力を12bitのデータで記録します。復元には、Nikon View 5またはNikon Capture 3（P.181）が必要です。RAWには非圧縮RAWと圧縮RAWがあります。 • **非圧縮RAW** 圧縮せずに記録します。 • **圧縮RAW** ロスレス圧縮で記録されます。ロスレス圧縮は、見た目の画質を損なうことなく、RAWの非圧縮記録に対して約50～60%のファイルサイズで保存することができます。非圧縮RAWと比較して記録に時間がかかります（P.43）。
TIFF-RGB	画像を8bit非圧縮のTIFF-RGB形式で記録します。多くの画像アプリケーションで復元できます。
FINE	画像データを約1/4のJPEG圧縮で記録します。
NORMAL	画像データを約1/8のJPEG圧縮で記録します。
BASIC	画像データを約1/16のJPEG圧縮で記録します。

RAW画像とホワイトバランスブラケティングの組み合わせについて

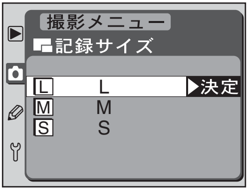
画質モードを「**RAW**」に設定すると、ホワイトバランスブラケティングの設定はできません。また、ホワイトバランスブラケティング設定時に画質モードを「**RAW**」に設定するとホワイトバランスブラケティングの設定が解除されます。

画質モードについて

画質モードの詳細については、「撮影機能の詳細－画質モードと記録サイズ」をご覧ください（P.43）。

記録サイズ

画像を記録する際のサイズ（大きさ）を選択します。D100 では、次の３種類の選択ができます。撮影メニュー画面（ P.139）から「**記録サイズ**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、記録サイズ画面が表示されます。画質モードで「RAW」を選択した場合、「記録サイズ」の設定画面は選択できません。



マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

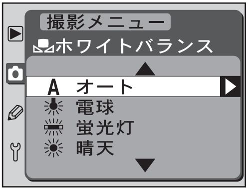
設定	内容
L	画像を 3008 × 2000 ピクセルで記録します。
M	画像を 2240 × 1488 ピクセルで記録します。
S	画像を 1504 × 1000 ピクセルで記録します。

画質モードについて

画質モードの詳細については、「撮影機能の詳細－画質モードと記録サイズ」をご覧ください（ P.43）。

WB（ホワイトバランス）設定

撮影時の照明光に合わせて、ホワイトバランスを選択します。撮影メニュー画面（P.139）から「**WB設定**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「ホワイトバランス」の設定画面が表示されます。



マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

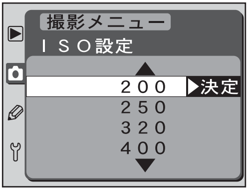
ホワイトバランス	設定される色温度	内容
A オート	約4000～8000K	撮影した画像から色温度を測り、カメラが自動的に調節します。**A**（オート）で十分な効果を得るには、GまたはDタイプレンズのご使用をおすすめします。
電球	約3000K	白熱電球下での撮影に適しています。
蛍光灯	約4200K	白色蛍光灯下での撮影に適しています。
晴天	約5200K	晴れの日の順光での撮影に適しています。
スピードライト	約5400K	ニコン製スピードライト、特に内蔵スピードライト撮影に適しています。
曇天	約6000K	曇りの日の撮影に適しています。
晴天日陰	約8000K	晴れの日の日陰での撮影に適しています。
PRE プリセット	—	撮影者が被写体を基準にホワイトバランスを合わせることができます（P.56）。

WB設定について

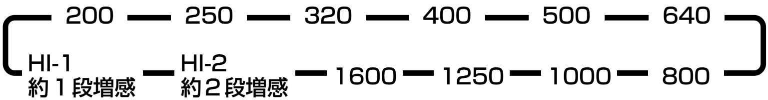
WB 設定の詳細については、「撮影機能の詳細－ホワイトバランス」をご覧ください（P.50）。

ISO 設定

撮像感度を撮影状況により標準(200)よりも高く設定セットすることができます。撮影メニュー画面(P.139) から「**ISO設定**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「ISO 設定」の画面が表示されます。感度自動制御をONにしている場合は、「**HI-1 約1段増感**」、「**HI-2 約2段増感**」を選択することはできません。



マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。



高感度に設定した場合

撮像感度を高く設定すると、低く設定したときに比べて、多少ざらついた画像になることがあります。

ISO 設定について

ISO 設定の詳細については、「撮影機能の詳細－撮像感度」をご覧ください(P.48)。

輪郭強調

撮影シーンや好みに応じて、記録する画像の輪郭（シャープネス）を設定します。輪郭（シャープネス）を強調する度合いを意図的に調整できます。撮影メニュー画面（P.139）から「**輪郭強調**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「輪郭強調」の設定画面が表示されます。

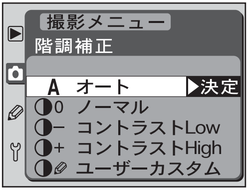


マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

設定	内容
A　**オート**（初期設定）	カメラが撮影した画像から、最適な輪郭をカメラが自動的に調整します（調整は画像によって異なります）。**A**（オート）を十分に活用するために、GまたはDタイプレンズのご使用をおすすめします。
ノーマル	標準的なレベルで輪郭強調を行います。
弱	輪郭強調の度合いはノーマルよりも弱くなります。
強	輪郭強調の度合いはノーマルよりも強くなります。
しない	輪郭強調を行いません。

階調補正

記録する画像のコントラストを変更できます。撮影メニュー画面（P.139）から「**階調補正**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「階調補正」の設定画面が表示されます。



マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

設定	内容
A　**オート**（初期設定）	撮影した画像から、最適なガンマカーブをカメラが自動的に選択します（ガンマカーブの選択は画像によって異なります。**A**（オート）を十分に活用するために、GまたはDタイプレンズのご使用をおすすめします。
◐0　**ノーマル**	標準的なガンマカーブです。暗いシーンから明るいシーンまで、さまざまな撮影状況を再現します。
◐−　**コントラストLow**	軟調な画像に仕上げるガンマカーブです。晴天時の人物撮影など、顔などの白飛びが気になる場合などに適しています。
◐+　**コントラストHigh**	硬調な画像に仕上げるガンマカーブです。霞んだ遠景を撮影する場合などに適しています。
◐✎　**ユーザーカスタム**※	Nikon Capture 3（別売）でユーザー定義し、カメラにダウンロードしたガンマカーブを使用します。出荷時のガンマカーブはノーマルに設定されています。

※ユーザーカスタムは、Nikon Capture 3のカメラコントロール機能を使って定義したガンマカーブをD100にダウンロードできます。Mac OSでダウンロードする場合は、Nikon Capture 3 ver. 3.5以降が必要となります。

階調補正についてのご注意

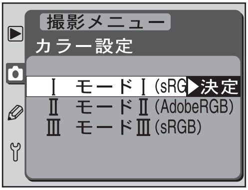
階調補正を**A**（オート）に設定して撮影する場合、撮影画像を使用して最適なガンマカーブを適用します。同じようなシーンを撮影する場合でも、被写体の位置または大きさが変わると、適用されるガンマカーブが変化することがあります。ガンマカーブを固定して撮影したい場合には、**A**（オート）以外の設定を選択することをおすすめします。

階調補正について

階調補正の詳細については、「撮影機能の詳細－階調補正」をご覧ください（P.61）。

カラー設定

記録する画像のカラーモードを、モード I (sRGB)、モード II (Adobe RGB)、またはモード III (sRGB) から選択できます。撮影メニュー画面(P.139)から「**カラー設定**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「カラー設定」の画面が表示されます。



マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

設定	内容
Ⅰ モード I (sRGB)（初期設定）	sRGB色空間に最適化したモードで、記憶色を重視した色再現です。画像処理等を行わなくても記憶色（特に肌色）をきれいに再現します。
Ⅱ モード II (Adobe RGB)	AdobeRGB色空間に最適化したモードで、素材性を重視した色再現です。sRGBに比べて色域が広いため、画像処理のしやすい画像が得られます。撮影した画像を積極的に調整、加工する場合に最適です。
Ⅲ モード III (sRGB)	sRGB色空間に最適化したモードで、特に風景撮影などに適した色再現です。このモードは、画像処理を行わなくてもきれいに再現します。

Nikon Capture 3をご使用の場合

Nikon Capture 3をご使用になると、正しい色空間での処理が自動的に行われます。

カラーモードについてのご注意

- カラーマネジメント機能を持たないアプリケーションで画像を開く場合、または印刷する場合には、モードIまたはモードIIIをおすすめします。
- モードIIの画像にはICCプロファイルが埋め込まれています。Adobe Photoshopなどのカラーマネジメント機能を持ったアプリケーションで画像を開く場合、自動的に正しい色空間を設定することができます。詳細については、アプリケーションの説明書をご覧ください。
- モードIIの画像はExifやDCFをベースに記録していますが、厳密にはExif、DCFとも異なっています。ExifPrint、市販プリンタなどのダイレクトプリント、Exif/DCF対応のカメラや機器による画像再生、キオスク端末プリント、およびプリントサービスなどでプリントする場合、モードIまたはモードIIIをおすすめします。
- モードIIで記録した画像でも、市販プリンタなどのダイレクトプリント、キオスク端末プリント、およびプリントサービスで印刷できることは確認していますが、彩度の低下する場合があります。

色合い調整



記録する画像に対して色相の調整が可能です。数値は約−9°～約9°（1ステップ約3°）の7段階で0°が初期設定です。肌色を基準とした場合、＋側に数値を高くすると黄色みが増し、−側に数値を低くすると赤みが増します。他の色の場合、調節の度合いにより多少変化することがあります。撮影メニュー画面（P.139）から「**色合い調整**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「色合い調整」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作して、約−9°～約9°から最適な色合いを選択します。マルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になり撮影メニュー画面に戻ります。

色相とは

色の３原色（赤、緑、青）のうち、２色の光を組み合わせると、さまざまな色を作り出すことができます。例えば、赤い光と緑の光の分量を変えて混ぜ合わせた場合の色の変化を見ると、次のようになります。

赤の光のみ	赤の光多め	赤と緑が同量	緑の光多め	緑の光のみ
赤	オレンジ色	黄色	黄緑色	緑色

同様に、赤の光と青の光を混ぜ合わせた場合は、赤紫色～ピンク色～紺色に変化します。また、緑の光と青い光を混ぜ合わせた場合は、エメラルド色～水色と変化します。これらの色を順番に環状に並べたものを色相、あるいは色相環といいます。
2色以外の3番目の色を混ぜ合わせると、だんだんと色が薄くなっていきます。3つ色が同量になると、色はなくなって無彩色となり、白またはグレーになります。

カスタムメニュー

カスタムメニューには、次のカスタムセッティングがあります。カスタムセッティングにより、カメラの各機能の働きやセット内容を、撮影者自身の好みにあった状態に変更できます。



カスタムメニュー項目はマルチセレクターの▼または▲を操作して選択します。

設定		
R リセット	：カスタムのリセット	P.150
0 カスタム切換え	：カスタムの切換え	P.152
1 撮影画像確認	：撮影時の撮影画像の確認	P.153
2 カード未挿入時	：CF カード未挿入時のレリーズ禁止	P.153
3 感度自動制御	：感度の自動制御	P.154
4 ノイズ除去	：ノイズ除去	P.155
5 連番モード設定	：連番モード設定	P.156
6 パワーオフ設定	：液晶モニタのパワーオフ設定	P.157
7 半押しタイマー	：半押しタイマーの作動時間の変更	P.157
8 セルフタイマー	：セルフタイマー時間の変更	P.157
9 露出ステップ幅変更	：露出値のステップ幅の変更	P.158
10 露出補正設定	：露出補正簡易設定	P.158
11 ブラケティングのセット	：ブラケティングのセット	P.159
12 BKT 補正順序	：BKT 撮影時の補正順序の変更	P.159
13 コマンドダイヤル変更	：コマンドダイヤルの変更	P.160
14 AE/AF-L/AF 作動	：AE/AF ロックボタン操作の変更	P.161
15 半押し AE ロック	：シャッターボタン半押しによるAEロック	P.162
16 イルミネーター	：各ボタン操作によるイルミネータ点灯	P.162
17 フォーカスエリア循環	：フォーカスエリアの選択を循環方式に変更	P.163

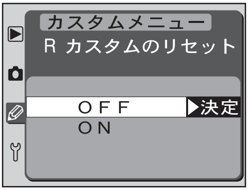
設定	
18 フォーカスエリアの照明 : フォーカスエリアの照明	P.164
19 格子線表示 : 構図用格子線表示	P.164
20 S至近ダイナミックAF : 至近優先ダイナミックAF（AF-S）	P.165
21 C至近ダイナミックAF : 至近優先ダイナミックAF（AF-C）	P.165
22 AF補助光 : 内蔵AF補助光の照射	P.166
23 発光モード : 内蔵スピードライトの発光モード	P.167
24 低振動モード : 低振動モード	P.167
25* AE/AFロックボタン（BP） : バッテリーパックのAE/AFロックボタ操作の変更	P.168
26* 音声再生レベル :バッテリーパックの音声再生レベルのセット	P.168

* マルチファンクションバッテリーパックMB-D100（別売）を装着した場合にのみ表示されます。

- カスタムセッティングRの「**リセット**」を選択しているときに▲を押すと、カスタムセッティング24「**低振動モード**」に移動します（MB-D100を装着している場合は、26「**音声再生レベル**」に移動します）。
- カスタムセッティング24「**低振動モード**」を選択しているとき（MB-D100を装着している場合は、26「**音声再生レベル**」を選択しているとき）に▼を押すと、カスタムセッティングRの「**リセット**」に移動します。

カスタムセッティングR：カスタムのリセット

カスタムリセットはカスタムセッティングの設定内容を初期設定に戻す場合に使用します。カスタムセッティング0「**カスタムの切換え**」により、カスタムAが選択されている場合はカスタムAの設定内容が、カスタムBが選択されている場合はカスタムBの設定内容がリセットされます。



カスタムセッティングによる切換え

カスタムセッティングの各セット状態を2通り、カスタムA、カスタムBとして記憶させておくことができ、撮影状況に合わせてあらかじめ記憶させておいたセットを一括して簡単に呼び出せます。詳しくはカスタムセッティング0「**カスタムの切換え**」をご覧ください(P.152)。

カスタムメニュー画面（P.149）から「**リセット**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、撮影時の撮影画像の確認画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

設定	内容
OFF（初期設定）	カスタムセッティングのリセットは行いません。
ON	カスタムセッティングを下表の初期設定に戻します。

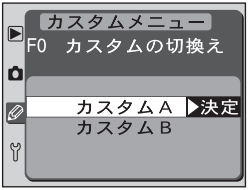
カスタムセッティングの初期設定

設定	初期設定
1 撮影画像確認	OFF
2 カード未挿入時	ON
3 感度自動制御	OFF
4 ノイズ除去	OFF
5 連番モード設定	OFF
6 パワーオフ設定	20秒
7 半押しタイマー	6秒
8 セルフタイマー	10秒
9 露出ステップ幅変更	1/3段
10 露出補正設定	OFF
11 ブラケティングのセット	AE/SBブラケティング
12 BKT補正順序	初期設定の順
13 コマンドダイヤル変更	OFF
14 AE/AF-L/AF作動	AE/AFの同時ロック
15 半押しAEロック	OFF
16 イルミネーター	OFF
17 フォーカスエリア循環	OFF
18 フォーカスエリアの照明	AUTO
19 格子線表示	OFF
20 S至近ダイナミックAF	OFF
21 C至近ダイナミックAF	OFF
22 AF補助光	ON
23 発光モード	D-TTLモード
24 低振動モード	OFF
25 AE/AFロックボタン（BP）	CSM14+フォーカスエリア
26 音声再生レベル	3

ツーボタンリセット

カスタムセッティングはツーボタンリセットではリセットできません（P.116）。

カスタムセッティング0：カスタムの切換え



カスタムセッティングの設定内容の保存場所を、カスタムAまたはカスタムBの2つから選択すると、そこに保存されているカスタムセッティングの設定内容が実行されます。また、カスタムセッティングを変更すると、選択されている保存場所に変更内容が上書きされます。

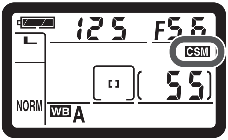
カスタムメニュー画面（P.149）から「**カスタム切換え**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「カスタムの切換え」の設定画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定を選択します。▶を押すと選択が実行され、カスタムメニュー画面に戻ります。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

設定	内容
カスタムA（初期設定）	カスタムセッティングの内容をカスタムAに切換えます。
カスタムB	カスタムセッティングの内容をカスタムBに切換えます。

カスタムマークについて

初期状態と異なるカスタムセッティングを使用している場合は、表示パネルに CSM が表示されます。



「感度自動制御」について

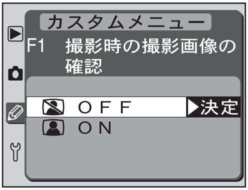
撮像感度を H1-1 または H1-2 に設定した後、カスタムセッティング3「**感度自動制御**」を「**ON**」にしたカスタム（AまたはB）に切換えた場合、感度自動制御は機能しません。

マルチセレクターの操作

液晶モニタが点灯している場合は、フォーカスエリアロックスイッチの設定位置に関係なく、マルチセレクターで操作を行うことができます。

カスタムセッティング１：*撮影時の撮影画像の確認*

通常はモニタボタンを押すと撮影画像がモニタに表示されますが、ONに設定するとコンパクトフラッシュカードに画像データを書き込みながら、液晶モニタにも自動的に撮影画像が表示されます。



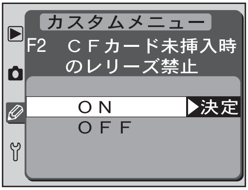
カスタムメニュー画面（P.149）から「**撮影画像確認**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「撮影時の撮影画像の確認」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

設定	内容
OFF（初期設定）	撮影後、モニタボタン を押すと、液晶モニタに画像が表示されます。
ON	撮影後、液晶モニタに画像が自動的に表示されます。

カスタムセッティング２：*CFカード未挿入時のレリーズ禁止*

初期設定では、カメラにコンパクトフラッシュカードを入れていない場合は、レリーズできませんが、レリーズできるように設定できます。



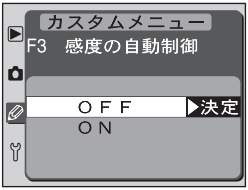
カスタムメニュー画面（P.149）から「**カード未挿入時**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「CFカード未挿入時のレリーズ禁止」の設定画面が表示されます。

- ニコン キャプチャー3カメラコントロールと接続した場合は、記録先がパソコンになるため、ONに設定してもシャッターがきれます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

設定	内容
ON（初期設定）	カメラにコンパクトフラッシュカードを入れていない場合、レリーズはできません。
OFF	カメラにコンパクトフラッシュカードを入れていない場合でも、レリーズ可能となります。

カスタムセッティング３：感度の自動制御



「**ON**」を選択すると、撮影時の設定条件では適正露出を得られない場合にカメラが自動的に撮影者が選択した撮像感度（ISO相当）を制御して適正露出にします（または適正露出に近づけます）。撮像感度は200～1600の範囲で制御します。撮像感度をHI-1またはHI-2に設定している場合、このカスタムメニュー項目は選択できません。また、感度自動制御をONにしているときには、撮像感度をHI-1、HI-2に設定できません。なお、スピードライト使用時には、感度自動制御は機能せず、設定撮像感度での撮影となります。カスタムメニュー画面（P.149）から「**感度自動制御**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「感度の自動制御」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

設定	内容
OFF （初期設定）	露出の状態にかかわらず、撮影者が設定した撮像感度に固定されます。
ON	設定撮像感度で適正露出が得られる場合は、撮影者が設定した感度で撮影が行われます。設定撮像感度で適正露出が得られない場合、カメラは自動的に感度を制御して適正露出にします（または適正露出に近づけます）。

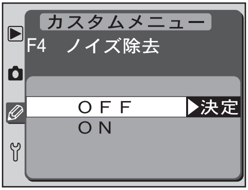
「感度自動制御」について

「**感度自動制御**」を「**ON**」にした後、撮像感度をHI-1またはHI-2に設定した撮影メニューへ変更した場合、感度自動制御は機能しません。また、撮像感度をHI-1またはHI-2に設定した後、「**感度自動制御**」を「**ON**」にしたカスタム（AまたはB）に切換えた場合、感度自動制御は機能しません。詳細については、「測光・露出－露出モード」をご覧ください（P.80、83、85、87）。

高感度で記録された画像

撮像感度が高くなると、低く設定したときに比べて、多少ざらついた画像になることがあります。

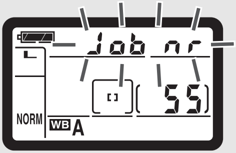
カスタムセッティング４：*ノイズ除去*



シャッタースピードが約 1/2 秒より低速になると、画像に星状のノイズが入る場合があります。カスタムセッティング４を「**ON**」にすると、このノイズを低減させることができます。

カスタムメニュー画面（P.149）から「**ノイズ除去**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「ノイズ除去」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

設定	内容
OFF （初期設定）	ノイズ除去は機能しません。
ON	シャッタースピードが約 1/2 秒より低速になると、ノイズ除去が機能します。撮影後のノイズ除去処理中は、シャッタースピードと絞り表示部にJob nrが点滅します。撮影後のノイズ除去処理に、撮影時間とほぼ同じ時間がかかります。また、画像を記録する時間がかなり長くなります。この表示が消えると、撮影が可能になります。

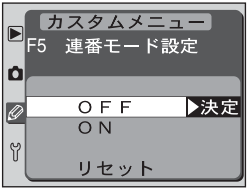
ノイズ除去を ON に設定した場合のご注意

カスタムセッティング１「**撮影時の撮影画像の確認**」をONに設定して、撮影と同時に液晶モニタに撮影画像を表示する場合、または撮影した後、画像の記録が終了する前にモニタボタンを押して画像を再生すると、液晶モニタにノイズ除去処理を行う前の画像（ノイズが入った画像）が表示される場合があります。

連続撮影可能コマ数表示について

ノイズ除去をONに設定すると、連続撮影可能コマ数は３コマになります。RAW画像の場合は２コマになります。

カスタムセッティング5：連番モード設定



連番モードをONに設定すると、最後に記録を行ったフォルダ番号とファイル番号がカメラに記憶され、次に撮影を行った時には記憶内容に従って連番で記録が行われます。コンパクトフラッシュカードの交換を行った時には、カード内にあるフォルダ番号・ファイル番号と記録内容を参照し、常に最も大きなフォルダ番号・ファイル番号を付けて画像の記録を行いますので、複数のカードを使用する場合でも撮影後の画像ファイルの管理が容易に行えます。カスタムメニュー画面（P.149）から「**連番モード設定**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「連番モード設定」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

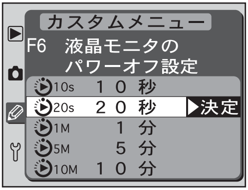
設定	内容
OFF （初期設定）	連番モードを無効にします。OFFの状態で撮影を行った場合、フォルダを新規に作成したり、コンパクトフラッシュカードを交換するごとに0001からファイル番号が付きます。画像を記録するフォルダ内に画像ファイルがある場合は、次の番号からファイル番号が付きます。なお、連番モードをONの状態からOFFにすると、カメラがフォルダ番号とファイル番号を記憶した状態で連番モードを無効にします。
ON	連番モードを有効にします。コンパクトフラッシュカードを交換したり、フォルダを新規に作成しても、画像ファイルには撮影順に連続した番号が付きます。
リセット	カメラが記憶しているフォルダ番号とファイル番号をリセットします。リセットした後に撮影を行うと、新しいフォルダが作成され、次の撮影以降、ファイル番号0001から連番が付きます。

ファイル番号について

連番モードがOFFの場合、再生メニュー画面の「**フォルダ設定**」でフォルダを新規作成すると、その中のファイル番号が0001番から始まります。次の場合は連番モードの設定にかかわらず、0001番に戻ります。

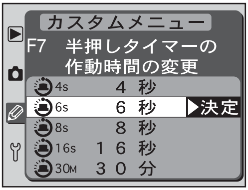
- 保存を行うフォルダ内の撮影コマ数が999コマの状態で撮影を行った結果、自動的に新規フォルダが作成された場合
- 保存を行うフォルダ内に9999という番号のファイルが存在した場合に撮影を行った結果、自動的に新規フォルダが作成された場合

カスタムセッティング6：液晶モニタのパワーオフ設定



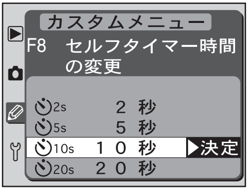
操作を終了してから液晶モニタが自動的にオフになるまでの時間を10秒、20秒、1分、5分、10分に設定します。初期設定は20秒です。液晶モニタの表示時間を延長するとバッテリーの消耗が早くなります。カスタムメニュー画面（P.149）から「**パワーオフ設定**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「液晶モニタのパワーオフ設定」の設定画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定を選択します。▶を押すと選択が実行され、カスタムメニュー画面に戻ります。ACアダプタEH-5接続中のパワーオフ設定は10分に固定されます。

カスタムセッティング7：半押しタイマーの作動時間の変更



通常、カメラの電源スイッチをONにした時やシャッターボタンを半押しした時の半押しタイマーの作動時間は6秒ですが、4秒、8秒、16秒、30分のいずれかに変更できます（半押しタイマーを延長すると、バッテリーの消耗が早くなります）。カスタムメニュー画面（P.149）から「**半押しタイマー**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「半押しタイマーの作動時間の変更」の設定画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定を選択します。▶を押すと選択が実行され、カスタムメニュー画面に戻ります。ACアダプタEH-5接続中は半押しタイマーはオフになりません。

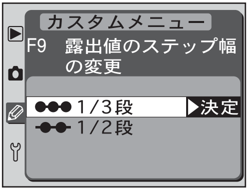
カスタムセッティング8：セルフタイマー時間の変更



セルフタイマーモード（P.114）撮影の際、シャッターボタンを押してから、シャッターがきれるまでの時間を、2秒、5秒、10秒、20秒のいずれかに変更できます（初期設定は10秒です）。カスタムメニュー画面（P.149）から「**セルフタイマー**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「セルフタイマー時間の変更」の設定画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定を選択します。▶を押すと選択が実行され、カスタムメニュー画面に戻ります。

カスタムセッティング９：*露出値のステップ幅の変更*

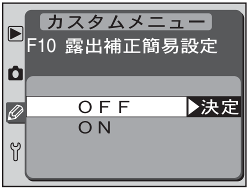
通常は露出値(シャッタースピード、絞り、露出補正値、オートブラケティング補正ステップ)を1/3段(EV)で表示または設定できますが、1/2段に変更できます。



カスタムメニュー画面(P.149)から「**露出ステップ幅変更**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「露出値のステップ幅の変更」の設定画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定を選択します。▶を押すと選択が実行され、カスタムメニュー画面に戻ります。

カスタムセッティング 10：*露出補正簡易設定*

露出補正 ボタンを使用せずに、コマンドダイヤルのみで露出補正することができます。露出補正は±5段の間でセットできます (P.92)。



カスタムメニュー画面 (P.149) から「**露出補正設定**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「露出補正簡易設定」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

<table>
<tr><th>設定</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>OFF（初期設定）</td><td>露出補正ボタンとメインコマンドダイヤルで露出補正を設定します。</td></tr>
<tr><td>ON</td><td>コマンドダイヤルのみで露出補正をします。カスタムセッティング13の設定により、次の表で記載しているダイヤルで露出補正が可能です。
<table>
<tr><th rowspan="2" colspan="2"></th><th colspan="2">カスタムセッティング 13</th></tr>
<tr><th>OFF</th><th>ON</th></tr>
<tr><td rowspan="3">露出モード</td><td>P</td><td>サブコマンドダイヤル</td><td>サブコマンドダイヤル</td></tr>
<tr><td>S</td><td>サブコマンドダイヤル</td><td>メインコマンドダイヤル</td></tr>
<tr><td>A</td><td>メインコマンドダイヤル</td><td>サブコマンドダイヤル</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

カスタムセッティング 11：*ブラケティングのセット*



通常のブラケティングセット時には、AEブラケティングとSBブラケティングが同時にセットされますが、AEブラケティングのみのセット、SBブラケティングのみのセット、またはホワイトバランスブラケティングのセットに変更できます。
カスタムメニュー画面(P.149)から「**ブラケティングのセット**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「ブラケティングのセット」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

設定	内容
AE/SBブラケティング（初期設定）	AEブラケッティングとSBブラケッティングを同時に行います。
AEブラケティングのみ	AEブラケッティングのみ行います。
SBブラケティングのみ	SBブラケッティングのみ行います。
WBブラケティング	ホワイトバランスブラケティングを行います。画質モードがRAWの場合、WBブラケティングは使用できません。

カスタムセッティング 12：*BKT撮影時の補正順序の変更*

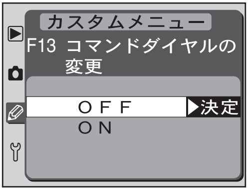


通常、ブラケティングの補正順序は初期設定の順（P.97）になりますが、マイナス側からプラス側の順序に変更できます。
カスタムメニュー画面（P.149）から「**BKT補正順序**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「BKT撮影時の補正順序の変更」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

設定	内容
初期設定の順（初期設定）	ブラケティングの補正順序は、初期設定の順（P.97）になります。
−側から＋側へ	ブラケティングの補正順序は、マイナス側からプラス側になります。

カスタムセッティング13：コマンドダイヤルの変更



通常のコマンドダイヤル操作とは逆に、サブコマンドダイヤルでシャッタースピードのセット(**S**[シャッター優先オート]･**M**[マニュアル]時)、メインコマンドダイヤルで絞りのセット(**A**[絞り優先オート]･ **M**[マニュアル]時)が行えるように変更できます。

カスタムメニュー画面（P.149）から「**コマンドダイヤル変更**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「コマンドダイヤルの変更」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

設定	内容
OFF（初期設定）	メインコマンドダイヤルでシャッタースピード、サブコマンドダイヤルで絞りを設定します。
ON	メインコマンドダイヤルで絞りを、サブコマンドダイヤルでシャッタースピードを設定します。

注）マルチファンクションバッテリーパックMB-D100装着時は、バッテリーパックのメインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤルの機能も変更されます。

カスタムセッティング 14：*AE/AFロックボタン操作の変更*

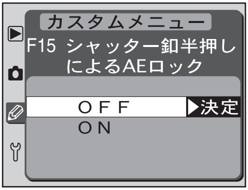
通常、AE/AFロックボタンを押すと、AEロックとAFロックが同時に行われますが、下の表のように変更できます。
カスタムメニュー画面（P.149）から「**AE/AF-L/AF作動**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「AE/AFロック釦操作の変更」の設定画面が表示されます。



マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

設定	内容
AE/AFの同時ロック（初期設定）	AE/AFロックボタンを押すとAEロックとAFロックが同時に行われます。
AEロックのみ	AE/AFロックボタンを押すとAEロックのみが行われます。
AFロックのみ	AE/AFロックボタンを押すとAFロックのみが行われます。
AEロック維持	AE/AFロックボタンを押すとAEロック状態が維持され、再度押すと解除されます。
AF作動	AE/AFロックボタンを押すとAFが作動します。この場合、シャッターボタンの半押しではAFは作動しません。

カスタムセッティング 15：シャッターボタン半押しによるAEロック

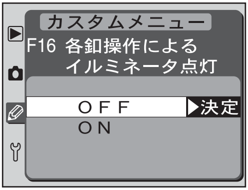


通常はAE/AFロックボタンを押した時にAEロックが行われますが、シャッターボタンを半押しした時にAEロックが行われるように変更できます。
カスタムメニュー画面（P.149）から「**半押しAEロック**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「シャッター釦半押しによるAEロック」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

設定	内容
OFF （初期設定）	AE/AFロックボタンでAEロックします。
ON	シャッターボタンの半押しでAEロックします。

カスタムセッティング 16：各ボタン操作によるイルミネータ点灯

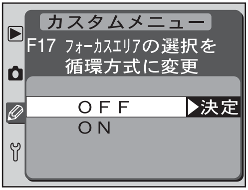


通常はイルミネーターボタンを押すと表示パネルのイルミネーターを点灯しますが、各ボタンの操作によってイルミネーターを点灯するように変更できます。
カスタムメニュー画面（P.149）から「**イルミネーター**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「各釦操作によるイルミネータ点灯」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

設定	内容
OFF （初期設定）	イルミネーターボタンを押すとイルミネーターが点灯します。
ON	各ボタン操作によりイルミネーターが点灯します。

カスタムセッティング 17：フォーカスエリアの選択を循環方式に変更



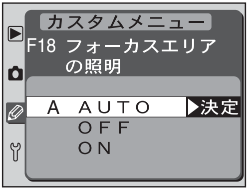
通常、上下、または左右反対側にあるフォーカスエリアを選択する場合、マルチセレクターの反対方向を押さなければなりません。循環方式に変更すると、マルチセレクターの▲を押すと上方向に、▼を押すと下方向に、▶を押すと右方向に、◀を押すと左方向に、それぞれ循環させることができます。これによりマルチセレクターの押す位置を変えることなく反対側のフォーカスエリアの選択が可能になります。

カスタムメニュー画面（P.149）から「**フォーカスエリア循環**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「フォーカスエリアの選択を循環方式に変更」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

設定	内容
OFF（初期設定）	フォーカスエリア選択の際、循環方式は使用できません。
ON	フォーカスエリア選択の際、循環方式を使用できます。

カスタムセッティング 18：*フォーカスエリアの照明*

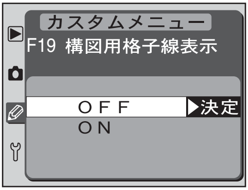


通常、ファインダー内のフォーカスエリア（フレーム）は、マルチセレクターで選択されたフォーカスエリアを被写体の明るさに応じて見やすいように瞬間的に赤色に自動照明しますが、照明しない、もしくは被写体の明るさによらず照明するように変更できます。カスタムメニュー画面（P.149）から「**フォーカスエリアの照明**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「フォーカスエリアの照明」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

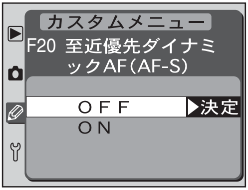
設定	内容
AUTO （初期設定）	マルチセレクターで選択されたフォーカスエリアを被写体の明るさに応じて赤色に自動照明します。
OFF	フォーカスエリアを照明しません。
ON	被写体の明るさに関係なく常にフォーカスエリアを赤く照明します。背景の明るさによっては、赤色の照明が見えない場合があります。

カスタムセッティング 19：*構図用格子線表示*



アオリ撮影や水平、垂直位置出しなどに便利な構図用格子線（P.11）をファインダーに表示させることができます。構図用格子線を表示させるときは「**ON**」を選択します。初期設定は「**OFF**」です。
カスタムメニュー画面（P.149）から「**格子線表示**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「構図用格子線表示」の設定画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定を選択します。▶を押すと選択が実行され、カスタムメニュー画面に戻ります。

カスタムセッティング 20：*至近優先ダイナミックAF（AF-S）*



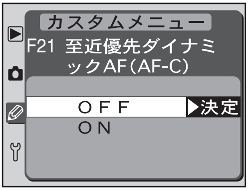
通常は、ダイナミックAFモード時にフォーカスモードダイヤルを**S**(シングルAFサーボ)にセットしても至近優先ダイナミックAF（P.69）となりませんが、至近優先ダイナミックAFになるように変更できます。

カスタムメニュー画面（P.149）から「**S至近ダイナミックAF**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「至近優先ダイナミックAF（AF-S)」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

設定	内容
OFF （初期設定）	選択したフォーカスエリア内の被写体にピントを合わせます。
ON	5つのフォーカスエリア内の被写体のうち、最も手前の被写体にピントを合わせます。

カスタムセッティング 21：*至近優先ダイナミックAF（AF-C）*



通常は、ダイナミックAFモード時にフォーカスモードダイヤルを**C**(コンティニュアスAFサーボ)にセットしても至近優先ダイナミックAF（P.69）にはなりませんが、至近優先ダイナミックAFになるように変更できます。

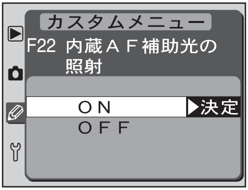
カスタムメニュー画面（P.149）から「**C至近ダイナミックAF**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「至近優先ダイナミックAF（AF-C)」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

設定	内容
OFF （初期設定）	選択したフォーカスエリア内の被写体にピントを合わせます。
ON	5つのフォーカスエリア内の被写体のうち、最も手前の被写体にピントを合わせます。

カスタムセッティング 22：内蔵AF補助光の照射

通常、内蔵AF補助光の発光条件が満たされた場合（P.74）は、シャッターボタンを半押しすると自動的に内蔵AF補助光を照射し、被写体を照らしてオートフォーカスでのピント合わせを行いますが、内蔵AF補助光を発光しないように変更できます（ただし、オートフォーカスでのピント合わせができなくなる場合があります）。



カスタムメニュー画面（P.149）から「**AF補助光**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「内蔵AF補助光の照射」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

設定	内容
ON （初期設定）	内蔵AF補助光の発光条件が満たされた場合に内蔵AF補助光を発光します。
OFF	内蔵AF補助光は発光しません。

カスタムセッティング 23：内蔵スピードライトの発光モード

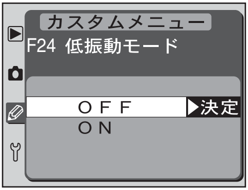


通常、内蔵スピードライトはD-TTL調光を行いますが、マニュアルフル発光モードに変更することができます。カスタムメニュー画面（P.149）から「**発光モード**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「内蔵スピードライトの発光モード」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

設定	内容
D-TTL モード （初期設定）	内蔵スピードライトがセットされると、光量は撮影状況に応じて自動的に調節されます。光量は調光補正で調節できます。
マニュアルフル発光モード	内蔵スピードライトを上げると、常に内蔵スピードライトがフル発光します。表示パネルとファインダー内の調光補正表示（ ）が点滅します。このモードはモニタ発光を行わないので、内蔵スピードライトを多灯撮影のマスタースピードライトとして使用する場合に便利です。なお、ガイドナンバーは18（ISO200・m、20℃）/12.7（ISO100・m、20℃）となります。

カスタムセッティング 24：低振動モード



通常、シャッターボタンを押すと同時にシャッターがきれますが、顕微鏡撮影時などのカメラブレを最小限に押さえるため、シャッターボタンを押すと最初にミラーが作動し、少し間隔を空けてシャッターがきれるように変更できます。
カスタムメニュー画面（P.149）から「**低振動モード**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「低振動モード」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

設定	内容
OFF （初期設定）	シャッターボタンを押すと同時にシャッターがきれます。
ON	ミラーの作動後、少し間隔を空けてシャッターがきれます。

カスタムセッティング 25：バッテリーパックのAE/AFロックボタン操作の変更

マルチファンクションバッテリーパックMB-D100（P.191）のAE-L/AF-L&フォーカスエリアセレクトボタンで行う機能を設定します。このメニュー項目は、MB-D100装着時のみに表示されます。



カスタムメニュー画面（P.149）から「**AE-L/AF-Lロックボタン（BP）**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「バッテリーパックのAE-L/AF-L釦操作の変更」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

設定	内容
CSM14+フォーカスエリア（初期設定）	AE-L/AF-L&フォーカスエリアセレクトボタンはカメラのAE/AFロックボタンと同じ機能となります。さらに、AE-L/AF-L&フォーカスエリアセレクトボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すことでフォーカスエリアを選択できます。
CSM14と同じ	AE-L/AF-L&フォーカスエリアセレクトボタンはカメラのAE/AFロックボタンと同じ機能のみとなります。
フォーカスエリアのみ	マルチファンクションバッテリーパックのAE-L/AF-L&フォーカスエリアセレクトボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すことでフォーカスエリアを選択できます。なお、このときは、カメラのAE/AFロックボタンの機能はありません。

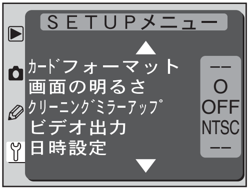
カスタムセッティング 26：バッテリーパックの音声再生レベルのセット

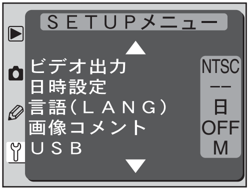


マルチファンクションバッテリーパックMB-D100（P.191）はマイクを装備しており、画像に音声メモをつけることができます。カスタムセッティング26は再生時の音声メモの音量を調節します。設定範囲は0～5で、数値が大きくなるほど音が大きくなり、0では無音となります（初期設定は3です）。このメニュー項目は、MB-D100装着時のみに表示されます。カスタムメニュー画面（P.149）から「**音声再生レベル**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「バッテリーパックの音声再生レベルのセット」の設定画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定を選択します。▶を押すと選択が実行され、カスタムメニュー画面に戻ります。

SETUP メニュー

SETUP メニューには次のメニュー項目があります：





設定	
カードフォーマット	P.170
画面の明るさ	P.171
クリーニングミラーアップ	P.171
ビデオ出力	P.172
日時設定	P.172
言語（LANG）	P.173
画像コメント	P.174
USB	P.176

マルチセレクターの操作

液晶モニタが点灯している場合は、フォーカスエリアロックスイッチの設定位置に関係なく、マルチセレクターで操作を行うことができます。

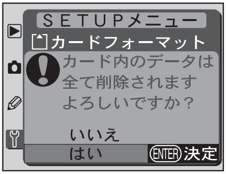
カードフォーマット

コンパクトフラッシュカードは、撮影前にフォーマットを行う必要があります。SETUPメニュー画面 (P.169) から「**カードフォーマット**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「カードフォーマット」の設定画面が表示されます。



1





マルチセレクターの▲または▼で「**はい**」を選択します。

- フォーマットを行わない場合は「**いいえ**」を選択して▶を押すと、SETUP メニュー画面に戻ります。

2





実行ボタンを押すとフォーマットが開始され、「フォーマット中」というメッセージが表示されます。

- フォーマットが終了すると、SETUPメニュー画面に戻ります。

カードフォーマット中のご注意

「**フォーマット中**」のメッセージが液晶モニタに表示されている間は、カメラの電源をOFFしたり、コンパクトフラッシュカードを取り出したりしないでください。

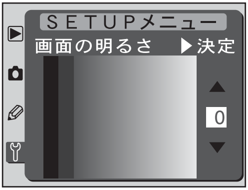
フォーマットする前に

カードをフォーマットすると、カード内のデータは全て消去されます。フォーマットする前に保存したい画像をパソコンに転送することをおすすめします。

ボタン操作によるフォーマット

コンパクトフラッシュカードは、フォーマットボタン（イルミネーターボタン ＋調光補正ボタン ）を同時に約２秒間押してフォーマットすることもできます（ P.23)。

画面の明るさ

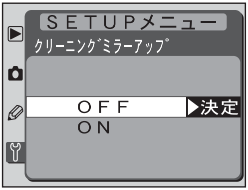


液晶モニタの明るさを調整します。明るさは5段階で調整できます。設定された液晶モニタの明るさは、すべての液晶モニタ表示に適用されます。マルチセレクターの▲または▼を押すと、連動して画面の明るさが変わります（▲で明るく、▼で暗くなります）。範囲は－２～＋２です。

SETUPメニュー画面（P.169）から「**画面の明るさ**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「画面の明るさ」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作して、－２～＋２から最適な明るさを選択します。マルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になりSETUPメニュー画面に戻ります。

クリーニングミラーアップ



CCDに装着されているローパスフィルターの汚れを調べたり、クリーニングするために、ミラーをアップした状態に固定します。詳しくは「クリーニングについて」（P.197）をご覧ください。

SETUPメニュー画面（P.169）から「**クリーニングミラーアップ**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「クリーニングミラーアップ」の設定画面が表示されます。このメニュー項目は、ACアダプタEH-5（別売）を装着しているときにのみ設定が可能です。

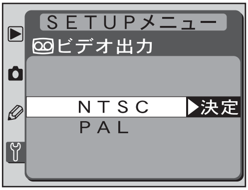
マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

設定	内容
OFF	ミラーアップ状態になりません。
ON	シャッターボタンの全押しでミラーアップ状態になります。ミラーをダウンするにはカメラの電源スイッチをOFFにしてください。

ビデオ出力

テレビやビデオなどに接続する場合のビデオ出力方式を、NTSC方式またはPAL方式のいずれかに設定します。

SETUPメニュー画面（P.169）から「**ビデオ出力**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「ビデオ出力」の設定画面が表示されます。

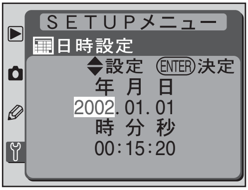


マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

設定	内容
NTSC（初期設定）	NTSC方式のテレビやビデオに接続する場合に選択します。通常、日本国内でご使用の場合はこちらを選択します。
PAL	PAL方式のテレビやビデオに接続する場合に選択します。通常、日本では使用されません。

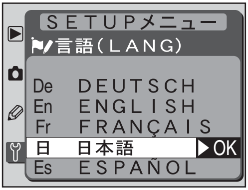
日時設定

日時を設定します。SETUPメニュー画面（P.169）から「**日時設定**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「日時設定」の設定画面が表示されます。日時設定についての詳しい説明は、「ご使用になる前に－撮影前の準備」（P.18）をご覧ください。



言語（LANG）

メニュー画面やメッセージの表示言語を、De（ドイツ語）、En（英語）、Fr（フランス語）、日（日本語）、Es（スペイン語）のいずれかに切換えることができます。SETUPメニュー画面（ P.169）から「**言語（LANG）**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「言語（LANG）」の設定画面が表示されます。

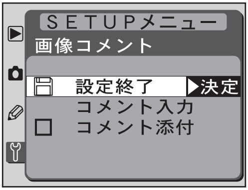


マルチセレクターの▲または▼を操作して、表示言語を選択します。マルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になりSETUPメニュー画面に戻ります。

画像コメント

あらかじめ入力したコメントを新規に撮影する画像に添付することができます。添付されたコメントは、D100で画像再生を行った際の撮影情報ページにあるコメント欄や、Nikon View 5やNikon Capture 3の撮影情報に表示されます。

SETUPメニュー画面（P.169）から「**画像コメント**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「画像コメント」の設定画面が表示されます。



マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

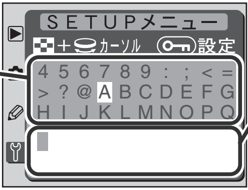
設定	内容
設定終了	「**画像コメント**」メニューを終了し、SETUPメニュー画面に戻ります。
コメント入力	コメントを入力します。
コメント添付	コメントを撮影画像に添付します。

コメントの入力

「**コメント入力**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、下の画面が表示されます。36文字まで入力できます。

キーボードエリア

マルチセレクターを使って文字を選択します。プロテクトボタン を押すと、文字が決定します。



コメントエリア

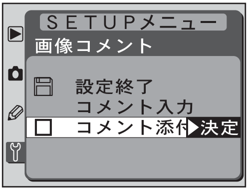
入力した文字が表示されます。カーソルを左右に移動させる場合はサムネイルボタン とメインコマンドダイヤルを使用します。

- 現在のカーソル位置に新しい文字を入力する場合は、マルチセレクターを使って入力するキーボードエリアの文字上にカーソルを移動させ、プロテクトボタン を押します。
- コメントエリアのカーソルを左右に移動する場合は、サムネイルボタン とメインコマンドダイヤルを使用します。

- 入力は挿入モードとなります。
- 37文字以上入力すると、コメントエリア（36文字）からあふれた文字が削除されます。
- コメントを1文字削除する場合は、サムネイルボタン とメインコマンドダイヤルを使って削除する文字の上にカーソルを移動させ、削除ボタン を押します。その文字が削除され、それより後方の文字が全体的に繰り上がります。
- コメントの内容を確定し、コメント入力を終了する場合は、実行ボタン ENTER を押します。画面は画像コメント画面に戻ります。
- コメントを確定せずにSETUPメニュー画面に戻る場合はメニューボタン MENU を押します。

コメントの添付

コメントの入力が終了したら、画像に入力したコメントを添付するかどうかを選択します。



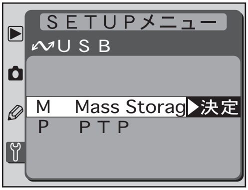
- 次に撮影する画像からコメントを添付する場合は、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより「**コメント添付**」を選択して、マルチセレクターの▶を押します。
- □に✓が入っていることを確認して、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより「設定終了」を選択し、マルチセレクターの▶を押すとSETUPメニュー画面に戻ります。
- 「**コメント添付**」の□に✓が入っていると、撮影された画像にはすべてコメントが添付されます。
- 画像へのコメントの添付を中止する場合は、「**コメント添付**」を選択してマルチセレクターの▶を押し、□の✓をはずしてください。「**設定終了**」を選択してマルチセレクターの▶を押すとSETUPメニュー画面に戻ります。以降の撮影画像にはコメントは添付されなくなります。

撮影情報（ページ4）

入力された画像コメントは、撮影情報（ページ4）の画像コメントに最初の12文字のみ表示されます（P.121）。

USB

専用USBケーブルを使用してカメラとパソコンを接続する前に、USB通信方式を選択します。
SETUPメニュー画面（ P.169）から「**USB**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「USB」の設定画面が表示されます。



マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、「**Mass Storage**」、「**PTP**」の選択が可能です。初期設定は「**Mass Storage**」に設定されています。USB通信方式は、ご使用のパソコンのOSと使用するソフトウェアの組み合わせにより、次のように対応しています。ソフトウェアの動作環境については、「D100に使用可能なソフトウェア」（ P.181、182）を参照してください。マルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になりSETUPメニュー画面に戻ります。

OS	ニコン トランスファ※1	ニコン キャプチャー3 カメラコントロール※2
Windows XP Home Edition Windows XP Professional	**PTP**または **Mass Storage**	**PTP**または **Mass Storage**
Mac OS X	**PTP**または **Mass Storage**	**PTP**
Windows 2000 Professional Windows Millennium Edition（Me） Windows 98 Second Edition（SE）	**Mass Storage**	**Mass Storage**
Mac OS 9	**Mass Storage**	**PTP**

※1 ニコン トランスファは、Nikon View 5およびNikon Capture 3にある撮影済み画像をパソコンに転送する機能です。
※2 Mac OSでNikon Capture 3のカメラコントロール機能を使用するには、Nikon Capture 3 ver. 3.5以降が必要となります。

接続

テレビ・ビデオ
との接続

パソコンとの接続

カメラをテレビやビデオデッキに接続して、液晶モニタの内容をテレビ画面に表示したり、ビデオデッキで録画することができます。また、Nikon View 5をパソコンにインストールすると、カメラとパソコンを接続して、撮影した画像をパソコンに転送することもできます。

テレビ・ビデオとの接続（(P.178～179）

カメラをテレビやビデオデッキに接続する方法について説明します。

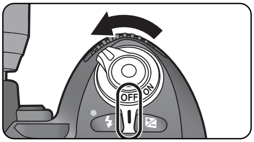
パソコンとの接続（ P.180～185）

ニコンデジタルカメラD100で利用できるソフトウェアについて、また、カメラとパソコンの接続方法について説明します。

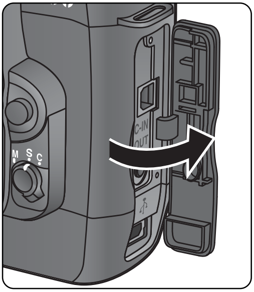
テレビ・ビデオとの接続

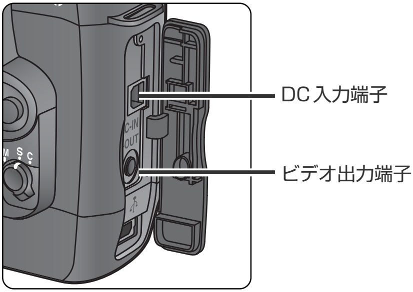
カメラをテレビやビデオなどに接続して、液晶モニタの内容をテレビ画面に表示したり、ビデオデッキで録画することができます。接続には付属の専用ビデオケーブルEG-D100をご使用ください。.

1 カメラの電源スイッチをOFFにします。

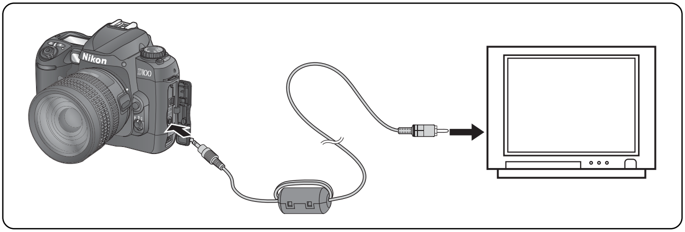


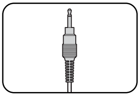
2 端子カバーを矢印の方向に開けてください。

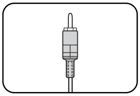




3 カメラとビデオを下の図のように接続します。







ケーブル端子（カメラ側）　ケーブル端子（外部機器側）

4 テレビの入力をビデオ入力に切換えます。

5 カメラの電源スイッチをONにします。

- カメラの液晶モニタに表示されている内容と同じ内容がビデオ出力されます。したがってカメラを操作して画面を切換えた場合は、ビデオ出力にも反映されます。
- ビデオケーブル接続時にも、ボタン入力などのカメラの動作は接続前と同様に行えます。
- ACアダプタEH-5（別売）接続中は、パワーオフ設定は10分に固定されます。また、半押しタイマーはオフにはなりません（P.157）。

端子抜き差し時のご注意

ビデオ出力端子を抜き差しする時は、必ずカメラの電源スイッチがOFFになっていることを確認してください。

ACアダプタのご使用をおすすめします

テレビでの再生などカメラを長時間ご使用になる場合は、ACアダプタEH-5（別売）のご使用をおすすめします。

ビデオ出力（P.172）

ビデオ出力の初期値は「**NTSC**」です。ご使用の機器がPAL方式の場合は、「**PAL**」にセットしてください。PAL方式の機器に出力した場合は、間引きが行われるため多少解像度が低下します。

パソコンとの接続

このカメラはUSBインターフェイスを装備しており、付属のUSBケーブルUC-E4を介してパソコンと通信することができます。Nikon View 5を使用すると、D100で撮影した画像をパソコンに転送したり、転送した画像のサムネイル一覧表示や簡単な画像調整および印刷ができます。また、Nikon Capture 3（別売）では、Nikon View 5の機能に加えて、より高度な画像調整、バッチ処理などをパソコン上で行うことができます。

- 最初に各ソフトの使用説明書をよくお読みになり、必要なソフトウェアをインストールしてください。
- 動作環境はご使用のパソコンの機種によって異なります。ソフトウェアの使用説明書をご覧ください。
- カメラの電源スイッチをOFFにして、バッテリー、またはACアダプタEH-5（別売）が装着されていることを確認してください。
- バッテリーの消耗を防ぐため、ACアダプタ（別売）のご使用をおすすめします。

D100に使用可能なソフトウェア

D100はNikon View 5、およびNikon Capture 3に対応しています。

Nikon View 5

コンパクトフラッシュカードに記録されている画像をパソコンに転送したり、転送した画像のサムネイル一覧表示や簡単な画像調整および印刷機能を備えたソフトです。詳しくは、Nikon View 5リファレンスマニュアルをご覧ください。

動作環境	Windows	Macintosh
OS	Windows XP Home Edition/Professional、Windows 2000 Professional、Windows Millennium Edition (Me)、Windows 98 Second Edition (SE) すべてプリインストールモデル	Mac OS 9.0、9.1、9.2、 Mac OS X（10.1.2以降）
CPU/機種	Pentium 300MHz以上 USBポート内蔵モデルのみサポート	iMac、iMac DV、Power Macintosh G3（Blue&White）、Power Mac G4以降、iBook、PowerBook G3以降 USBポート内蔵モデルのみサポート
RAM（メモリ）	64MB以上（RAW画像処理時に128MB以上推奨）	
ハードディスク*	Nikon View 5インストール時に25MB Nikon View 5動作時に使用するコンパクトフラッシュカードの2倍＋10MB以上の空き容量（起動ディスク）	
解像度	800×600ドット以上、16ビットカラー（65,000色）以上	
その他	• インストール時にCD-ROMドライブが必要 • 画像のアップロード機能を使うには、インターネットに接続できる環境が必要。メール送信機能を使うには、電子メールを送信できる環境が必要。	

* 他のソフトウェアと合わせてご使用の場合の空き容量は、それぞれのソフトウェアに添付の使用説明書でご確認ください。

USBハブについて

USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

Nikon Capture 3

Nikon View 5の機能に加えて、より高度な画像調整やカメラの各種設定や撮影などのコントロール機能、バッチ処理などを備えたソフトウェアです。パソコンとカメラを接続した状態で撮影を行うと、コンパクトフラッシュカードを介さずに直接パソコンのハードディスクに取り込むことができるので、スタジオ撮影などに最適です。詳しくは、Nikon Capture 3の使用説明書をご覧ください。

動作環境	Windows	Macintosh*
OS	Windows XP Home Edition/Professional、Windows 2000 Professional、Windows Millennium Edition (Me)、Windows 98 Second Edition (SE) すべてプリインストールモデル	Mac OS 9.0.4、9.1、9.2、Mac OS X (10.1.3以降)
CPU/機種	Pentium 300MHz以上 USBポート内蔵モデルのみサポート	iMac、iMac DV、Power Macintosh G3(Blue&White)、Power Mac G4以降、iBook、PowerBook G3以降 USBポート内蔵モデルのみサポート
RAM(メモリ) Nikon Capture 3	•Windows XP、Mac OS X：128MB以上 (256MB以上推奨) •Mac OS 9：割り当てメモリとして、ニコン キャプチャー3カメラコントロールに32MB以上推奨。ニコン キャプチャー3エディタに128MB以上推奨。 •その他のOS：64MB以上推奨 (RAW画像処理時に128MB以上推奨)	
RAM(メモリ) Nikon View 5	64MB以上推奨 (RAW画像処理時に128MB以上推奨)	
ハードディスク**	Nikon Capture 3インストール時に200MB Nikon Capture 3動作時に使用するコンパクトフラッシュカードの2倍＋10MB以上の空き容量 (起動ディスク)	
解像度	800×600ドット以上、16ビット色 (約65000色)、24ビット色 (約1677万色) 推奨	
その他	• インストール時にCD-ROMドライブが必要 • 画像のアップロード機能を使うには、インターネットに接続できる環境が必要。メール送信機能を使うには、電子メールを送信できる環境が必要。	

* Mac OSでNikon Capture 3のカメラコントロール機能を使用するには、Nikon Capture 3 ver. 3.5以降が必要となります。

** 他のソフトウェアと合わせてご使用の場合の空き容量は、それぞれのソフトウェアに添付の使用説明書でご確認ください。

仕様・性能は予告なしに変更される場合があります。最新の情報は、下記アドレスのホームページ上でご確認ください。　http://www.nikon-image.com/jpn/ei_cs/index.htm

ソフトウェアのインストール

カメラとパソコンをUSBケーブルUC-E4で接続する前に付属のNikon View 5（付属）、またはNikon Capture 3（別売）をインストールする必要があります。Nikon View 5のインストール方法についてはクイックスタートガイドまたNikon View 5リファレンスマニュアルをご覧ください。

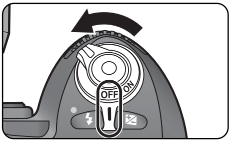
USBケーブルで接続する

1 SETUPメニューの「**USB**」（P.176）でUSB通信方式を設定します。

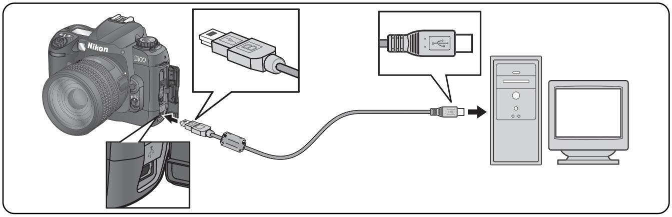
専用USBケーブルを使ってカメラとパソコンを接続する前に、使用するソフトウェア、および接続するパソコンのOSに合わせてUSB通信方式を選択します。

2 パソコンを起動します。

3 カメラの電源スイッチをOFFにします。



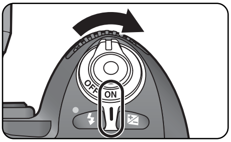
4 カメラとパソコンをUSBケーブルUC-E4で接続します。



使用する電源について

カメラからパソコンにデータを転送するときは、確実に電源を供給できるACアダプタEH-5（別売）のご使用をおすすめします（P.191）。カメラをバッテリーで操作するときは、バッテリーが十分に充電されていることをご確認ください（予備バッテリーのご用意をおすすめします）。

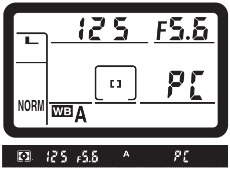
4 カメラの電源スイッチをONにします。



パソコンとの通信が正常に行われると、表示パネルとファインダー内の絞り値表示部に「PC」という文字が表示されます。この状態では、Nikon View 5を使用してコンパクトフラッシュカード内にある撮影済み画像の転送が可能になります。



パソコンと正しく接続され、Nikon Capture 3のニコン キャプチャー3カメラコントロール*を起動している場合、表示パネルとファインダー内の撮影可能コマ数表示の部分に「PC」という文字が表示されます。カメラは通常に機能しますが、撮影された画像はコンパクトフラッシュカードではなく、パソコンに保存されます。



Nikon View 5またはNikon Capture 3（別売）の詳しい説明については、Nikon View 5のリファレンスマニュアルおよびNikon Capture 3使用説明書をご覧ください。

* Mac OSでNikon Capture 3のカメラコントロール機能を使用するには、Nikon Capture 3 ver. 3.5以降が必要となります。

カメラとパソコンの接続について

USBケーブルUC-E4で、カメラの電源スイッチをONにしたままカメラとパソコンを接続することも、また接続を外すこともできます。ただし、USBケーブルの接続を外す場合は、手順5（P.185）の操作を行ってください。

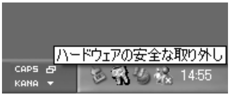
パソコン接続時のご注意

- カメラとパソコンの通信中は、電源スイッチをOFFにしないでください。
- バッテリーでカメラを操作している場合、カメラとパソコンの接続時にバッテリーチェック表示が点滅している場合、カメラはPCモードにはなりません。

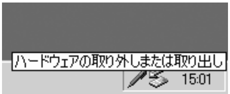
5 パソコンとカメラの通信を終了する場合、USB通信方式を「**PTP**」に設定した場合は、カメラの電源をOFFにして、USBケーブルを抜いてください。

USB通信方式を「**Mass Storage**」にした場合は、USBケーブルをはずしたり、カメラの電源をOFFにする前に必ず以下の操作を行ってください。

- Windows XP Home Edition/Professionalの場合：
パソコン画面右下の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックして「USB大容量記憶装置デバイス－ドライブ (E:) *を安全に取り外します。」を選択してください。



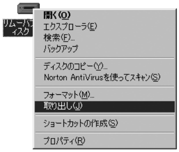
- Windows 2000 Professionalの場合：
パソコン画面右下の「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」アイコンをクリックして「USB大容量記憶装置デバイス－ドライブ (E:) *を停止します」を選択してください。



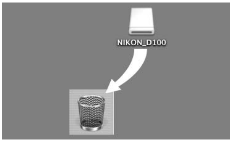
- Windows Millennium Editionの場合：
パソコン画面右下の「ハードウェアの取り外し」アイコンをクリックして「USBディスク－ドライブ (E:) *の停止」を選択してください。



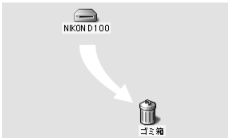
- Windows 98SEの場合：
マイコンピュータの中の「リムーバブルディスク」上でマウスを右クリックして「取り出し」を選択してください。



- Mac OS Xの場合：
デスクトップ上の「NIKON_D100」のアイコンをゴミ箱に捨ててください。



- Mac OS 9の場合：
デスクトップ上の「NIKON D100」のアイコンをゴミ箱に捨ててください。



＊「ドライブ(E:)」はご使用のパソコンによって異なります。

資料

この章は次の４部で構成されています。

別売アクセサリー

使用できるレンズやスピードライトなどの別売アクセサリーを説明しています。

カメラのお手入れについて

カメラのお手入れについて説明しています。

故障かな？と思ったら

警告表示の内容と、対処法について説明しています。

主な仕様

主な仕様について説明しています。

別売アクセサリー

D100には、CPUレンズ（IXニッコールを除く）のご使用をおすすめします。特にGまたはDタイプレンズを装着すれば、カメラの機能が最大限に使用できます。

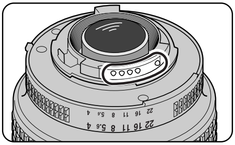
装着可能なレンズおよび使用可能な機能

	レンズ ＼ モード	フォーカスモード			露出モード		測光モード		
		オートフォーカス	フォーカスエイド	マニュアル	M以外	M	マルチパターン測光 3D-10分割	マルチパターン測光 10分割	中央部重点測光/スポット測光※1
CPUレンズ※2	Gタイプレンズ※3、Dタイプレンズ※3、AF-Iレンズ、AF-Sレンズ	●	●	●	●	●	●	—	●
	PCマイクロ85mm F2.8D※4	—	●※5	●	—	●	●	—	●
	AF-Iテレコンバーター※6	●※7	●※7	●	●	●	●	—	●
	Gタイプ・Dタイプ以外のAFレンズ（F3AF用を除く）	●※8	●※8	●	●	●	—	●	●
	Ai-Pニッコール	—	●※9	●	●	●	—	●	●
非CPUレンズなど※10	Ai-S、Ai、シリーズEレンズ、改造Aiレンズ	—	●※9	●	—	▲※11	—	—	—
	メディカル120mm f/4	—	●	●	—	▲※12	—	—	—
	レフレックスレンズ	—	—	●	—	▲※11	—	—	—
	PCニッコール	—	●※5	●	—	▲※11	—	—	—
	Ai-S、Aiテレコンバーター	—	●※7	●	—	▲※11	—	—	—
	ベローズPB-6 ※13	—	●※7	●	—	▲※11	—	—	—
	オート接写リング（PK-11A.12.13.PN-11）	—	●※7	●	—	▲※11	—	—	—

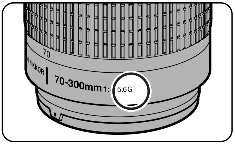
※1　CPUレンズ装着時はフォーカスエリアの選択によりスポット測光エリアの移動が可能（P.78）。
※2　IXレンズは装着できません。
※3　このカメラはVRレンズのVR（手ブレ補正）機能に対応しています。
※4　カメラの測光モード、および調光制御機能は、あおり操作（シフト、ティルトとも）を行っているとき、または開放絞り以外に絞りがセットされているときには、正しく機能しません。
※5　あおり操作を行っていない場合のみ可能。
※6　AF-Sレンズ、AF-Iレンズ専用（ただしAF-S ED17～35mm f/2.8D、AF-S ED28～70mm f/2.8Dは使用不可）。
※7　合成絞りがf/5.6以上明るい場合に使用可能。
※8　AF 80～200mm f/2.8S、AF 35～70mm f/2.8S、AF 28～85mm f/3.5～4.5S（New）、AF28～85mm f/3.5～4.5Sレンズを使用し、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とオートフォーカスの合焦表示が合致しない場合があります。このような場合は、マニュアルフォーカスによりファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせて撮影してください。
※9　開放絞りがf/5.6以上明るいレンズのみ使用可能。
※10 一部装着不可能なレンズ（P.189）があります。
※11 露出モードはマニュアル（M）で使用できますが、露出インジケーターは使用できません。
※12 露出モードはマニュアル（M）でシャッタースピードは1/180秒以下で使用できますが、露出インジケーターは使用できません。
※13 縦位置にして装着してください（装着後、横位置に戻すことは可能です）。

- メディカルニッコール200mm f/5.6はAS-15を併用しないと発光しません。
- 複写装置PF-4はカメラアダプタPA-4を併用すると装備できます。

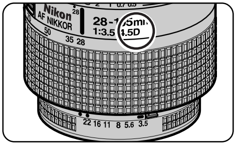
CPUレンズにはCPU信号接点があります。その中でGタイプレンズには、レンズに「G」マークが、Dタイプレンズには、レンズに「D」マークがあります。



CPUレンズ



Gタイプレンズ



Dタイプレンズ

- Gタイプレンズには、絞りリングがありません。このため、このカメラに使用する場合、従来の絞りリングがあるレンズのように、絞りリングを最小絞り（最も数値の大きい絞り）にセットする必要がありません。

使用できないレンズ

下記の非CPUレンズは使用できません。無理に装着しようとすると、カメラやレンズを破損しますのでご注意ください。

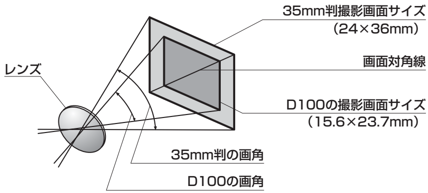
- AFテレコンバーターTC-16AS
- Ai改造をしていないレンズ（Ai方式以前の連動爪を使用するタイプ）
- フォーカシングユニットAU-1を必要とするレンズ（400mm f/4.5、600mm f/5.6、800mm f/8、1200mm f/11）
- フィッシュアイ（6mm f/5.6、7.5mm f/5.6、8mm f/8、OP10mm f/5.6）
- 旧21mm f/4
- K1リング、K2リング、オート接写リングPK-1、PK-11、BR-2リング、BR-4リング
- ED180～600mm f/8（製品No.174041～174180）
- ED360～1200mm f/11 （製品 No.174031～174127）
- 200～600mm f/9.5（製品 No.280001～300490）
- F3AF用（80mm f/2.8、200mm f/3.5、テレコンバーターTC-16S）
- PC28mm f/4（製品 No.180900以前の製品）
- PC35 mm f/2.8（製品 No.851001～906200）
- 旧PC35 mm f/3.5
- 旧レフレックス1000mm f/6.3
- レフレックス1000mm f/11（製品 No.142361～143000）
- レフレックス2000mm f/11（製品 No.200111～200310）

非CPUレンズ装着時について

露出モードを**M**（マニュアル）(P.86) にセットした場合のみ、非CPUレンズを装着して撮影できます（**M**以外の露出モードでは、シャッターはきれません）。ただし、カメラの露出計の使用や、コマンドダイヤルによる絞りのセットはできません。表示パネルとファインダー内表示の絞り表示は、**F- -**となりますので、絞りのセットと確認は、レンズの絞りリングで行ってください。

レンズの画角と焦点距離について

D100ではさまざまなニコン35ミリフィルム一眼レフカメラ用レンズが使用できます。ただし、35 mm判カメラの撮影画面サイズは24×36 mmですが、D100では約15.6×23.7 mmとなっており、35 mm判カメラとD100では、画面サイズが異なります。したがって、同じ焦点距離のレンズを使用して同じ距離から撮影した場合でも、画角（フィルム面に移し込む被写体の大きさや写り込む範囲）が35mm判カメラに対して変化します。



35mm判カメラの撮影画面サイズは、対角線の長さでD100の撮影画面サイズの約1.5倍です。したがって、D100に35mm判カメラ用レンズを装着した場合、その焦点距離はレンズに表記された数値に1.5を掛けた値に相当します。

カメラ	35ミリ判カメラ換算のおおよその焦点距離（mm）							
35ミリ判カメラ	17	20	24	28	35	50	60	85
D100	25.5	30	36	42	52.5	75	90	127.5

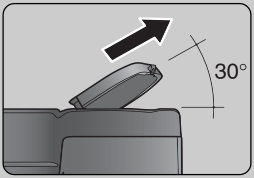
カメラ	35ミリ判カメラ換算のおおよその焦点距離（mm）							
35ミリ判カメラ	105	135	180	200	300	400	500	600
D100	157.5	202.5	270	300	450	600	750	900

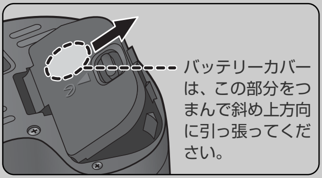
その他の別売アクセサリー

D100には撮影領域を拡げるさまざまなアクセサリーが用意されています。詳しくは販売店にお問い合わせください。

電源

- **Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL3**
  付属のバッテリーと同型のものが別にお求めになれます。
- **マルチファンクションバッテリーパック MB-D100**
  Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL3を1個または2個、単3形電池（アルカリ乾電池またはリチウム乾電池）6本を使用してカメラに電源を供給することができます。
  MB-D100には縦位置シャッターボタンとメインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤルが装備されているので、縦位置での撮影に便利です。内蔵マイク/スピーカーによって、記録後の画像に音声メモを録音・再生ができます。また、アクセサリー接続用の10ピンターミナルも装備しています。MB-D100は、カメラ本体のバッテリーカバーとMB-D100用接点カバーを取りはずして装着します。バッテリーカバーは、下の図のように斜め上方向に引っ張ると無理なく取り外すことができます。装着する場合も、同じ角度で逆の方向に挿入してください。





- **ACアダプタ EH-5**
  D100専用のACアダプタです。家庭用電源のAC100V、周波数50～60ヘルツに対応しています。

ケーブルレリーズ AR-3

レリーズソケットにケーブルレリーズAR-3を使用して撮影すると、夜景や接写撮影など低速シャッター時の手ブレ防止の効果があります。

アクセサリーの購入について

D100には、ニコン製のアクセサリーを使用することをおすすめします。仕様が異なる他社製品を使用すると、カメラの故障や不具合の原因となることがあります。他社製のアクセサリーを使用した場合の不具合については、補償の対象となりません。ご了承ください。

ファインダー用アクセサリー	• **マグニファイヤーDG－2** ファインダー中央部の像を拡大します。接写や複写、超望遠レンズ使用時など、より厳密なピント合わせが必要な時に使用します。別売のアイピースアダプターを装着することにより使用可能。 • **接眼補助レンズ** 遠視、近視の方のための補助レンズで、接眼部に差し込むだけで簡単に取り換えができます。－5、－4、－3、－2、0、＋0.5、＋1、＋2、＋3の9種類が用意されていますが、いずれもボディとの合成視度で補助レンズ単体の視度ではありません。視度補正は個人差が大きいので店頭で実際に付けてお選びください。D100では、視度調節機能が内蔵されております（－2～＋1m^{-1}）ので、この範囲外の視度補正が必要な時にご使用ください。接眼補助レンズを使用している場合は、接眼目当ては使用できません。
フィルター	• ニコンフィルターは、ねじ込み式、平枠式、および後部交換式の3方式に大別されます。D100の場合、R60を除いて実用上露出倍数を考慮する必要はありません。R60を使用する場合は、＋1段の露出補正をしてください。また、市販の特殊フィルター等を使用する場合は、オートフォーカスやフォーカスエイドが行えないことがありますのでご注意ください。 • カメラ測光系の特性上、従来の偏光フィルター（Polar）は使用できません。円偏光フィルター（C-PL）をご使用ください。 • フィルターをレンズ保護のために常用する場合は、L37C、またはNCフィルターのご使用をおすすめします。 • 逆光撮影や、輝度の高い光源を画面に入れて撮影する場合は、フィルターによって画像上にゴーストが発生する恐れがあります。このような場合は、フィルターをはずして撮影することをおすすめします。 • 露出倍数のかかるフィルター（Y44、Y48、Y52、O56、R60、X0、X1、C-PL、ND2S、ND4S、ND4、ND8S、ND8、ND400、A2、A12、B2、B8、B12）を使用する場合、10分割マルチパターン測光、または3D-10分割マルチパターン測光の効果が得られない場合がありますので、測光モードを中央部重点測光に切換えて撮影することをおすすめします。詳しくは、各フィルターの使用説明書をご覧ください。
PCカードアダプタ	• **PCカードアダプタEC-AD1** コンパクトフラッシュカード（タイプ1）と組み合わせて、PC Card Standard-ATAに準拠したPCカードとして使用できます。コンパクトフラッシュカードの画像を、PCMCIAカードスロットを装備したパソコンに直接読み込めます。

ニコン デジタルカメラ 専用 ソフトウェア	• **Nikon Capture 3** RAW画像をより詳細に編集できるソフトウェアです。Nikon Capture 3を使うと、パソコンを操作して直接写真を撮影したり、撮影した画像を加工したり、ハードディスクなどへ保存したりできます。
スピードライト	**ニコンスピードライトSB-80DX** • ニコンスピードライトSB-80DXはガイドナンバー53（照射角35mm時、ISO200・m、20℃）/38（照射角35mm時、ISO100・m、20℃）の高性能スピードライトです。電源は単3形アルカリ乾電池を4本使用しますが、外部電源（別売）としてSD-7、8A、パワーブラケットSK-6もご使用になれます。 • フラッシュヘッドが上方向90°から下方向7°、左方向180°から右方向90°の範囲で回転し、バウンス撮影や近接撮影を簡単に行うことができます。 • 近接撮影やバウンス撮影など、広い照射角での撮影時にはワイドパネルとバウンスアダプターを併用すると、スピードライト光が拡散され、手前の被写体と背景がバランスよく照明された、ソフトな雰囲気の写真が撮れます。 • 周囲が暗い場合でも操作しやすいように、表示パネルにイルミネーターを備えています。 • カスタムセッティングにより、各種の設定が効率よく行えます。 **ニコンスピードライトSB-50DX** • ニコンスピードライトSB-50DXはガイドナンバー32（照射角35mm時、ISO200・m、20℃）/22（照射角35mm時、ISO100・m、20℃）の小型高性能スピードライトです。電源は3Vリチウム電池CR123Aタイプを2本使用します。 • フラッシュヘッドが上方向90°から下方向18°の範囲で回転し、バウンス撮影や近接撮影を簡単に行うことができます。 • スローシンクロ、後幕シンクロ、マニュアル発光などのスピードライト撮影が簡単に行えます。 • 内蔵スピードライトをポップアップしても、SB-50DXの発光モード設定をマニュアルフル発光、かつフラッシュヘッドをバウンス撮影位置にすると、内蔵スピードライトとSB-50DXの両方が発光します。 詳細はご使用になるスピードライトの使用説明書をご覧ください。スピードライトSB-80DX・SB-50DXの使用説明書のカメラ分類表は、デジタル一眼レフカメラに該当する箇所をお読みください。

10ピンターミナルに接続するアクセサリー

別売のマルチファンクションバッテリーパックMB-D100を装着すると、MB-D100の10ピンターミナルを介して下記のアクセサリーを接続し、遠隔撮影や無人撮影などを行えます。

- 使用しない場合は、必ず10ピンターミナルにキャップをしてください。ゴミ等が入ると、誤作動の原因となることがあります。
- 10ピンターミナルへの接続は、10ピンターミナルとアクセサリーコードの指標を合わせて接続します。

アクセサリー	用途	長さ
リモートコード MC-20	離れた位置からカメラのレリーズ操作ができるので、カメラブレを防ぎたい撮影などに便利です。また、「LONG EXP」や、「TIME」モードを備えており、レリーズ中は1秒ごとに電子音で知らせます。	約 80 cm
延長コード MC-21	MC-20、MC-22、MC-23、MC-25、MC-30に併用可能な延長コードです。	約3 m
リモートコード MC-22	コード先端にある端子（青、黄、黒）に特殊装置を接続すると、音や信号による遠隔操作が可能です。	約1 m
接続コード MC-23	MB-D100装着したD100を2台同時に作動させるための接続コードです。	約 40 cm
変換コード MC-25	2ピンターミナル用のラジオコントロールセットMW-2や、インターバロメーターMT-2、ルミコントロールセットML-2などを、10ピンターミナルに接続するための変換コードです。	約 20 cm
リモートコード MC-30	カメラブレを避けたい場合や、カメラから離れてレリーズ操作をしたい場合に便利です。また、長時間露出（バルブ）撮影用に、シャッターボタンをロックする機能も備えています。	約 80 cm
ルミコントロールセット ML-2	最大で約100m離れたところから、信号による遠隔操作が行えます。複数のML-2を組み合わせると、さらに離れた距離からの遠隔操作が可能です。D100で使用するには、変換コードMC-25が必要です。	—
ルミコントロールセット ML-3	最大で約8m離れたところから、信号による遠隔操作が行えます。	—

推奨コンパクトフラッシュカード一覧

このカメラの画像データ記録媒体として、次のニコン製、および他社製コンパクトフラッシュカードならびにマイクロドライブは動作確認されております。

- ニコン社製コンパクトフラッシュカード：
  EC-CFシリーズ 4MB、8MB、15MB、48MB、64MB、96MB
- SanDisk社製コンパクトフラッシュカード：
  SDCFBシリーズ 16MB、30MB、32MB、40MB、48MB、80MB、128MB、160MB、192MB、256MB、300MB、Ultra128MB、Ultra192MB、Ultra256MB
- LEXAR MEDIA社製コンパクトフラッシュカード：
  4X USBシリーズ 8MB、16MB、32MB、48MB、64MB
  8X USBシリーズ 8MB、16MB、32MB、48MB、64MB、 80MB
  10X USBシリーズ 128MB、160MB
  12X USBシリーズ 256MB、320MB
- IBM社製マイクロドライブ：
  DSCM-11000
  ※上記コンパクトフラッシュカードおよびマイクロドライブの機能、動作の詳細、動作保証等については、各メーカーにご相談ください。

コンパクトフラッシュカード使用上の注意

- カメラの使用直後にはコンパクトフラッシュカードが熱くなっている場合がありますので、ご注意ください。
- 未使用のカードは必ずフォーマット（初期化）してからご使用ください。
- コンパクトフラッシュカードのフォーマット中は、絶対にカメラからカードを取り出さないでください。カードが使用できなくなることがあります。
- コンパクトフラッシュカードへ記録・削除が行われているときや、パソコンとの通信時には、以下のことは行わないでください。記録されているデータの破損やカードの故障の原因となります。
  - ・カードの着脱をする
  - ・カメラの電源をOFFにする
  - ・バッテリーを取り出す
  - ・ACアダプタを抜く
- 端子部に手や金属を触れないでください。
- コンパクトフラッシュカードに無理な力を加えないでください。破損のおそれがあります。
- 曲げたり、落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けてください。

カメラのお手入れについて

保管について

長期間カメラを使用しないときは、必ずバッテリーを取り出しておいてください。バッテリーを取り出す前には、カメラの電源スイッチがOFFになっていることを確認してください。

カメラを保管するときは、下記のような場所は避けてください。

- 換気の悪い場所や湿度の高い場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の周辺
- 温度が50℃以上、または－10℃以下の場所
- 湿度が60%をこえる場所

クリーニングについて

カメラ本体	ほこりや糸くずをブロアーで払い、柔らかい乾いた布で軽く拭きます。海辺でカメラを使用した後は、砂や塩を真水で湿らせた布で軽く拭き取り、よく乾かします。
レンズ・ミラー・ファインダー	ガラスは傷つきやすいので、ほこりや糸くずをブロアーで払います。スプレー缶式のブロアーの場合は、缶を傾けずにご使用ください(中の液体が気化されずに吹き出し、レンズ・ミラー・ファインダーを傷つけることがあります)。指紋や油脂などの汚れは、柔らかい布にレンズクリーナーを少量付けて、ガラスを傷つけないように注意して拭きます。
液晶モニタ	ほこりや糸くずをブロアーで払います。指紋や油脂などの汚れは、表面を柔らかい布かセーム革で軽く拭き取ります。強く拭くと、破損や故障の原因となることがありますのでご注意ください。

液晶モニタが破損した場合

液晶モニタが破損した場合は、ガラスの破片でケガをしないように、また中の液晶を皮膚に付けたり口や目に入れたりしないようにご注意ください。

表示パネルの明るさの変動について

まれに、ブロアーや布から起きた静電気で、表示パネルが明るくなったり暗くなったりすることがありますが、故障ではありません。すぐに通常の状態に戻ります。

ローパスフィルターのお手入れ

撮像素子CCDの表面には、モアレを防ぐローパスフィルターが装着されています。ローパスフィルターは、直接CCDにゴミが付くのを防ぎますが、ローパスフィルター自体にゴミやほこりが付いていると、撮影条件により、画像に影が映ることがあります。その場合は、ローパスフィルターのクリーニングが必要になります。

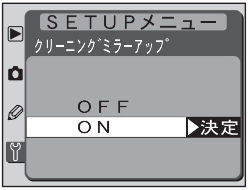
ローパスフィルターの点検方法（別売のACアダプタEH-5が必要）

1 カメラの電源スイッチをOFFにしてレンズを取りはずし、ACアダプタ（別売）を接続します。

- クリーニング中のバッテリー切れによりミラーダウンしたり、シャッターが閉じてカメラを破損したりしないように、ACアダプタを接続しないとミラーアップしません。

2 カメラの電源スイッチをONにし、メニューボタン MENU を押してメニュー画面を表示します。

3 マルチセレクターを操作してSETUPメニューの「**クリーニングミラーアップ**」（P.171）から「**ON**」を選択し、マルチセレクターの▶を押すと、「シャッターボタンを押してください」の表示が出ます。



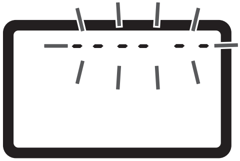
このとき表示パネルは - - - - - -、ファインダー内の表示は - - - - - となります。



4 シャッターボタンを押し込みます。

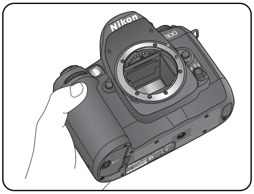
- ミラーが上がり、シャッターが開いた状態になります。

  このとき表示パネルは - - - - - - の点滅となります。ファインダー内の表示は消灯します。



5 ローパスフィルターに光が当たるようにカメラを持ち、ゴミやほこりが付いていないかどうかを点検します。

- ローパスフィルターにゴミやほこりが付いている場合は、次ページの「ローパスフィルターのクリーニング方法」をご覧ください。



6 カメラの電源スイッチをOFFにし、ボディキャップ（付属）をつけてACアダプタEH-5（別売）をはずします。

- カメラの電源スイッチをOFFにすると、ミラーが下がりシャッター幕が閉じます。

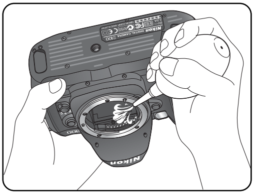
ローパスフィルターのクリーニング方法

ローパスフィルターのクリーニングをする場合は、必ず以下の手順で行ってください（ローパスフィルターはとても傷つきやすい部品です。できる限り当社サービス部門にクリーニングをお申し付けください）。

1 197ページ「ローパスフィルターの点検方法」1～4の手順で、ミラーを上げます。

- この手順を行うには、ACアダプタ（別売）が必要です。ACアダプタがない場合は、当社サービス部門にクリーニングをお申し付けください。
- クリーニング中にACアダプタを絶対に抜かないでください。シャッターなどの破損の原因となります。

2 ローパスフィルターに付いたゴミやほこりをブロアーで払います。



- ブラシの付いていないブロアーをご使用ください。ブラシでローパスフィルターの表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーで取り除けない汚れがある場合は、当社サービス部門にクリーニングをお申し付けください。絶対に、手でこすったり、布で拭き取ったりしないでください。

3 カメラの電源スイッチをOFFにし、ボディキャップ（付属）をつけて最後にACアダプタをはずします。

- カメラの電源スイッチをOFFにすると、ミラーが下がりシャッター幕が閉じます。

カメラなどの点検サービスについて

カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールされることをおすすめします（有料）。

- 特に業務用にご使用になる場合は、早めに点検整備を受けてください。
- 点検整備を依頼される際は、より安心してご愛用いただけるよう一緒にお使いのレンズやスピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

故障かな？と思ったら（修理を依頼される前に）

表示パネル、ファインダー内に警告表示が点灯または点滅したり、液晶パネルに警告メッセージが表示された場合は、修理を依頼される前に、次のことをご確認ください。

こんなとき 表示パネル	こんなとき ファインダー内	原因	対処方法	
FEE（点滅）	FEE（点滅）	レンズの絞りリングが最小絞りになっていません。	レンズの絞りリングを最小絞りにしてください。	P.21
		バッテリー残量は残りわずかです。	バッテリー交換の準備をしてください。	P.17
（点滅）	（点滅）	バッテリーが消耗しています。	バッテリーを交換してください。	P.17
F--（点滅）	F--（点滅）	非CPUレンズが装着されているか、またはレンズが装着されていません。	CPUレンズ（IXレンズを除く）を使用してください。ただし、露出モードを**M**にセットして、レンズの絞りリングで絞りをセットすれば撮影できます。	P.20、86
	●（点滅）	オートフォーカスでピント合わせができません。	マニュアル（手動）でピント合わせを行ってください。	P.76
HI	HI	被写体が明るすぎてカメラの制御範囲を超えています。	• ISO 200よりも高感度の場合、撮像感度を低感度に設定してください。 • **P**モード時はND（光量調節用フィルターを使用してください（**S**、**A**モード時に下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 • **S**モード時はシャッタースピードをより高速側にセットしてください。 • **A** モード時はより大きい数値の絞りにしてください。	P.48 P.192 P.82 P.84
（点滅）		D-TTL対応していないスピードライトをTTLモードにセットしています。	TTLモード以外のモードにセットしてください。	P.111

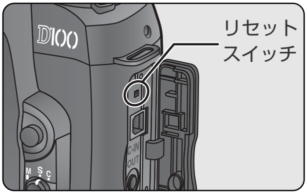
こんなとき		原因	対処方法	
表示パネル	ファインダー内			
Lo	Lo	被写体が暗すぎて、カメラの制御範囲を超えています。	• ISO 1600未満であれば、撮像感度を高感度に設定し直してください。 • **P** モード時はスピードライトを使用してください（**S**、**A** モード時に下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 • **S** モード時はシャッタースピードをより低速側にセットしてください。 • **A** モード時はより小さい数値の絞りにしてください。	P.48 P.104 P.82 P.84
	露出インジケーター（点滅）	被写体が明るすぎたり、暗すぎたりして、カメラの露出制御範囲を超えています。	撮像感度を変更してみてください。明るすぎる場合はND（光量調節用フィルターを使用してください。暗すぎる場合はスピードライトを使用してください（露出インジケーターは点滅したままの状態となります）。	P.48、104、192、193
bulb（点滅）	bulb（点滅）	**S** モード時にシャッタースピードが bulb にセットされています。	bulb 以外のシャッタースピードにセットするか、**M** モードにセットしてください。	P.82、86
	ϟ（点滅）	発光直後の約3秒間の点滅は、フル発光して露出不足の恐れがあります。	撮影距離、絞り、調光範囲、撮像感度などを再度確認して、撮影し直してください。	P.104
Err（点滅）	Err（点滅）	撮影中に何らかの異常を検出しました。	再度シャッターボタンを押してください。この操作で警告表示が解除されなかったり、頻繁に警告が表示される場合は、当社サービス部門にご相談ください。	P.213
FuLL 0（点滅）	FuL 0（点滅）	• 画像を記録する空き容量がありません。 • カメラが扱えるファイル数をオーバーしています。	• カードに記録されている画像を削除して、カードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 • 新しいカードに交換してください。	P.128 P.22

液晶モニタ	表示パネル	原因	対処法	
カードが入っていません	[-E-]	コンパクトフラッシュカードが入っていないか、正しくセットされていません。	コンパクトフラッシュカードを正しくセットしてください。	P.22
このカードは使用できません	[CHA] （点滅）	• コンパクトフラッシュカードへのアクセス異常です。 • カードのフォーマットが異なります。	• D100用のコンパクトフラッシュカードであるかどうかを確認してください。 • コンパクトフラッシュカードがこわれている可能性があります。当社サービス部門までご連絡願います。 • コンパクトフラッシュカードのフォーマットが異なる可能性があります。再フォーマットしてください。	P.195
		• 新規フォルダが作成できません。	• カードに記録されている画像を削除して、カードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 • 新しいカードに交換してください。	P.23、170 P.22、128
フォーマットされていません	[For]	コンパクトフラッシュカードが正しくフォーマットされていません。	• コンパクトフラッシュカードのフォーマットを行ってください。 • 正しくフォーマットされたコンパクトフラッシュカードに交換してください。	P.22、23、170
撮影画像がありません		• 撮影画像がありません。 • 再生するフォルダの指定に問題があります。	• 画像が記録されているコンパクトフラッシュカードを入れてください。 • 再生するフォルダに指定を変更します。	P.22 P.130

液晶モニタ	表示パネル	原因	対処法	
表示可能な画像がありません		記録されている画像が非表示設定されているために表示されません。	再生メニュー画面の「非表示設定」で、画像の非表示設定を解除してください。	P.134
このファイルは表示できません		• アプリケーションソフトで編集された画像など、DCF規格の画像ファイルではないため、再生できません。 • 画像ファイルに異常があるため再生できません。	アプリケーションソフトで編集された画像を上書き保存しないでください。	—

電子制御カメラの特性について

きわめて希なケースとして、表示パネルに異常な表示が点灯したままカメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路に侵入したことが考えられます。万一このような状態になった場合は、カメラの電源スイッチをOFFにしてバッテリーを入れ直し、電源スイッチをONにしてカメラを作動させてみてください。この操作を行っても状態が改善されない場合は、右の図にあるリセットスイッチを押してみてください。この時カメラ内蔵の時計はリセットされますので、「日付と時刻を設定する」(P.18)に従って、日時を正しく設定してください。また、この操作を行うことでカメラが作動しなくなった状態の時のデータは、失われるおそれがあります。この操作を行ってもカメラに不具合が続く場合は、当社サービス部門にお問い合わせください。



主な仕様

型式	スピードライト内蔵レンズ交換式一眼レフレックスタイプデジタルカメラ
画素数	有効画素：6.1 メガピクセル
CCD	23.7 × 15.6 mm サイズ 原色 CCD 総画素数：6.31 メガピクセル
記録画素数	3008×2000 ピクセル(L)、2240×1488 ピクセル(M)、1504×1000 ピクセル(S)
レンズマウント	ニコンFマウント（AF カップリング、AF 接点付）
交換レンズ	
G または D タイプレンズ	フル機能使用可（IX ニッコールを除く）
PC マイクロニッコール 85mm	オートフォーカスおよび露出モードの一部を除く機能使用可
G または D タイプ以外の AF レンズ	3D-10 分割マルチパターン測光、D-3D マルチ BL 調光を除く機能使用可（F3AF 用を除く）
AI-P ニッコール	3D-10 分割マルチパターン測光、D-3D マルチ BL 調光およびオートフォーカスを除く機能使用可
非 CPU レンズ	露出モード M で可（ただし、露出計は使用不可）、開放 F 値が f/5.6 より明るい場合フォーカスエイド可
実撮影画角	レンズ表記の約 1.5 倍の焦点距離レンズに相当
ファインダー	ペンタゴナルダハプリズム式一眼レフレックス式ファインダー
視度調節機構	-2～$+1$ m^{-1}
アイポイント	24 mm（-1.0 m^{-1} のとき）
ファインダースクリーン	B 型クリアマットスクリーン II（フォーカスフレーム付、構図用格子線表示可能）標準装備
ファインダー視野率	上下左右とも約 95%（対実画面）
ファインダー倍率	約 0.8 倍（50 mm F 1.4 レンズ使用時・∞・-1.0 m^{-1} のとき）
ミラー	クイックリターン式
レンズ絞り	瞬間復元式、電子制御式、プレビューボタン付
フォーカスエリア	5 箇所のフォーカスエリアから 1 箇所を選択可能
レンズサーボ	シングル AF サーボ（S）、コンティニュアス AF サーボ（C）およびマニュアルフォーカス（M）：（S）、（C）では被写体条件により自動的に予測駆動フォーカスに移行

オートフォーカス	TTL位相差検出方式、マルチCAM900モジュールにより検出、AF補助光付（約0.5m～3m）
検出範囲	EV－1～＋19（ISO100換算、常温（20℃））
AFエリアモード	シングルエリアAFモード、ダイナミックAFモード（至近優先ダイナミックAF機能付）
フォーカスロック	AE/AFロックボタン、またはシングルエリアAF（S）時にシャッターボタン半押しにて可能
露出	
測光方式	TTL開放測光方式
マルチパターン測光	GまたはDタイプレンズ使用時は3D-10分割マルチパターン測光が可能、GまたはDタイプ以外のCPUレンズ使用時は10分割マルチパターン測光が可能
中央部重点測光	約φ8 mm相当を測光（中央部重点度約60%）
スポット測光	約φ3mm相当を測光（全画面の約2%）、CPUレンズ装着時はフォーカスエリアに連動して測光位置可動
測光範囲	EV0～21（マルチパターン測光、中央部重点測光） EV3～21（スポット測光） (ISO100換算、常温20℃、F1.4レンズ使用時）
露出計連動	CPU連動方式
露出モード	P：マルチプログラムオート（プログラムシフト可能）、 S：シャッター優先オート、A：絞り優先オート、M：マニュアル
露出補正	±5段の範囲で1/3、1/2段ステップで補正可能
ブラケティング	AE、SBの場合、撮影コマ数：2コマまたは3コマ、補正ステップ：1/3、1/2ステップで可能 WBの場合、撮影コマ数：2コマまたは3コマ、補正ステップ：1ステップで可能
AEロック	AE/AFロックボタンによるBVメモリー方式
シャッター	電子制御上下走行式フォーカルプレーンシャッター
シャッタースピード	30～1/4000秒（1/3または1/2段ステップ）、bulb
撮像感度	ISO 200～1600相当（1/3段ステップ）、 ISO 1600に対し約1段または約2段増感可能
ホワイトバランス	オート（撮像素子によるTTLホワイトバランス）、マニュアル6種（それぞれ補正が可能）、プリセット可能、ホワイトバランスブラケティング可能

内蔵スピードライト	押しボタン操作による手動ポップアップ方式
ガイドナンバー	17（マニュアルフル発光時18）（ISO200・m、20℃）/ 12（マニュアルフル発光時12.7）（ISO100・m、20℃）
照射角	20mmレンズの画角をカバー

調光	
シンクロ同調	X接点（半導体方式）、1/180秒以下の低速シャッタースピードでスピードライトと同調
調光方式	TTL自動調光5分割センサー 一体型ICによる以下のTTL調光制御： - 内蔵スピードライト、SB-80DX、SB-50DXまたはSB-28DXとGまたはDタイプレンズとの組み合わせによりD-3D-マルチBL調光可能 - 内蔵スピードライト、SB-80DX、SB-50DXまたはSB-28DXとGまたはDタイプ以外のCPUレンズとの組み合わせによりD-マルチBL調光可能 - 内蔵スピードライト使用時、露出モードをM（マニュアル）、または測光モードをスポット測光にした場合、別売スピードライト使用時、測光モードをスポット測光にした場合、スタンダードD-TTL調光可能 絞り連動自動調光：SB-80DX、SB-50DXまたはSB-28DXとCPUレンズとの組み合わせ時 外部調光：SB-28・27・22Sなどとの組み合わせ時
シンクロモード	先幕シンクロ、赤目軽減、赤目軽減スローシンクロ、スローシンクロ、後幕シンクロが設定可能
レディライト	内蔵スピードライト、SB80DX、SB-50DX、SB-28DX、SB-28、SB-27、SB-22Sなど使用時に充電完了で点灯、フル発光による露出警告時は点滅
調光補正	＋1段～－3段（1/3、1/2段ステップで補正可能）
アクセサリーシュー	ホットシュー装備：シンクロ接点、レディ信号接点、モニタ信号接点、TTL調光ストップ信号接点、GND付、セーフティロック機構（ロック穴）付

記録	
記録媒体	コンパクトフラッシュ™カード(Type I/II対応)、マイクロドライブ™(1GB)対応
記録画像ファイル形式	DCF(Design Rule for Camera File Systems)準拠、DPOF(Digital Print Order Format)準拠
圧縮	• 12ビット圧縮RAW(ロスレス圧縮、約50%~60%圧縮) • JPEG baseline準拠
セルフタイマー	電子制御式、作動時間2~20秒
プレビュー	プレビューボタンによる絞り込み可能
液晶モニタ	1.8型低温ポリシリコンTFT液晶、約12万画素、明るさ調整可能
ビデオ出力	NTSC、PALから選択可能
外部インターフェース	USB 1.1
三脚ネジ穴	1/4(ISO 1222規格)
電源	• Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL3(付属) • マルチファンクションバッテリーパックMB-D100(別売):Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL3 1本、または2本。単3形アルカリ/リチウム乾電池6本使用 • ACアダプタ/バッテリーチャージャーEH-5(別売)
寸法(W×H×D)	約144×116×80.5mm
質量	約700 g(バッテリー、コンパクトフラッシュカード、レンズキャップ、モニタカバーを除く)

動作環境	
温度	0~40℃
湿度	85%以下(結露しないこと)

- 仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、すべて常温(20℃)フル充電バッテリー使用時のものです。
- 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

連続撮影コマ数（電池寿命）について

参考値：Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL3（1400mAh）による連続撮影コマ数（電池寿命）の目安

1)約1600コマ
※充電状態、使用環境によって電池寿命が異なります。

- 測定条件は当社条件（常温<20℃>）によります。
- 記載されている数値は下記の当社試験条件によるものです。撮影状況により数値は前後します。

装着レンズAF-S 24-85mm/F3.5-4.5G、撮影動作モードC、フォーカスモードC、画質モードBASIC、記録サイズM、シャッタースピード1/250秒でシャッターの半押しを3秒間持続させた後、無限遠から至近間を3往復し、6回連続レリーズした後、液晶モニタを5秒間点灯。消灯後、半押しタイマーがオフになるまで放置して、同じ動作を繰り返して実施。

2）約370コマ
※充電状態、使用環境によって電池寿命が異なります。

- 測定条件は当社条件（常温<20℃>）によります。
- 記載されている数値は下記の当社試験条件によるものです。撮影状況により数値は前後します。

装着レンズAF-S、24-85mm/F3.5-4.5G、撮影動作モードS、フォーカスモードS、画質モードNORMAL、記録サイズL、シャッタースピード1/250秒でシャッターの半押しを5秒間持続させた後、無限遠から至近間を1往復し、1回レリーズ（2回に1回は内蔵スピードライトをフル発光）した後、半押しタイマーがオフになるまで放置して、同じ動作を繰り返して実施。

注1）内蔵スピードライト発光時にはAF補助光を発光させる。
注2）10コマ撮影後、カメラの電源スイッチを1分間OFFにする。

次の場合はバッテリーの消耗が早まります。
- 液晶モニタを使用した場合
- シャッターボタンの半押しを続けた場合
- オートフォーカスのレンズ駆動を繰り返し行った場合
- 画質モードをRAW、TIFF-RGBに設定して撮影した場合
- 低速シャッタースピードで撮影した場合

Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL3の性能を最大限に発揮させるため、次のことに注意してください。
- バッテリーの端子を汚さないでください。端子が汚れていると、十分な性能が発揮できません。
- 充電が完了したバッテリーは、なるべく早いうちにご使用ください。使用しないまま放置していると、自己放電によって、バッテリー容量が減ってしまいます。

索引

英数

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

カスタマーサポートについて

■この製品の操作方法についてのお問い合わせは

この製品の操作方法について、さらにご質問がございましたら下記のニコンカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。

〒140 - 0015
東京都品川区西大井 1 - 4 - 25（コア・スターレ西大井第一ビル 2F）
ニコンカスタマーサポートセンター

市内通話料でOK ナビダイヤル®

TEL 0570 - 02 - 8000

受付時間：祝日を除く月～金（9：30 ～ 18：00）
＊このほか年末年始、夏期休暇など、都合により休業する場合があります。

- お電話は、市内通話料金でご利用いただけます。
- 全国共通電話番号「0570 - 02 - 8000」にお電話いただき、音声によるご案内にしたがってご利用の製品グループ窓口の番号を入力していただければ、お問い合わせ窓口担当者よりご質問にお答えさせていただきます。
- 携帯電話、PHS 等をご利用のお客様は、03 - 5977 - 7033 におかけください。
- FAX でのご相談は、03 - 5977 - 7499 におかけください。

■お願い

- お問い合わせいただく場合には、次ページの「お問い合わせ承り書」の内容をご確認の上お問い合わせください。
- より正確、迅速にお答えするために、ご面倒でも次ページの「お問い合わせ承り書」の所定の項目にご記入いただき、FAXまたは郵送でお送りください。「お問い合わせ承り書」は、コピーしていただくと、繰り返しお使いいただけます。

■製品の修理に関するお問い合わせは

〒140 - 8601
東京都品川区西大井 1 - 6 - 3
株式会社ニコン　大井サービス課
TEL　03 - 3773 - 2221　受付時間：祝日を除く月～金（9：00 ～ 17：45）
＊都合により休む場合があります。

■インターネットご利用の方へ

- ソフトウェアのアップデート、使用上のヒントなど、最新の製品テクニカル情報を次の当社 Web サイトでご覧いただくことができます。

http://www.nikon-image.com/jpn/ei_cs/index.htm

- 製品をより有効にご利用いただくため定期的にアクセスされることをおすすめします。

ニコンカスタマーサポートセンター　行

TEL 0570 - 02 - 8000　　FAX 03 - 5977 - 7499

【お問い合わせ承り書】太枠内のみご記入ください。

お問い合わせ年月日：　　年　　月　　日	
お買い上げ年月日：　　年　　月　　日	
製品名：	シリアル番号：
フリガナ お名前：	
連絡先ご住所：□自宅　□会社 〒 TEL： FAX：	
ご使用のパソコンの機種名：	
メモリ容量：	ハードディスクの空き容量：
OS のバージョン：	ご使用のインターフェースカード名：
その他接続している周辺機器名：	
ご使用のアプリケーションソフト名：	
ご使用の当社ドライバソフトウェアのバージョン：	
問題が発生したときの症状、表示されたメッセージ、症状の再現： （おわかりになる範囲で結構ですので、できるだけ詳しくお書きください。）	

※このページはコピーしてお使いください。

整理番号：

Nikon

■技術的なお問い合わせのご案内

内容および操作に関する技術的なお問い合わせは、下記ニコンカスタマーサポートセンターをご利用ください。

＜ニコンカスタマーサポートセンター＞

140-0015　東京都品川区西大井1-4-25（コア･スターレ西大井第一ビル2階）

市内通話料でOK ナビダイヤル®

0570-02-8000

市内通話料金でご利用いただけます。

全国共通電話番号「0570-02-8000」にお電話を頂き、音声によるご案内に従いご利用の製品グループ窓口の番号を入力して頂ければ、お問い合わせ窓口担当者よりご質問にお答えさせて頂きます。

営業時間　9:30～18:00（土･日曜日･祝日を除く毎日）

・このほか年末年始、夏期休暇等、休業する場合があります。

携帯電話、PHS等をご使用の場合は、**03-5977-7033**におかけください。

FAXでのご相談は、**03-5977-7499**におかけください。

株式会社ニコン

Printed in Japan
SB3C01000401(10)
6MBA0110-04